

茨城県教育財団文化財調査報告第182集

上野陣場遺跡

中根・金田台特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

下 卷

平成 14 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第182集

うえ の じん ば
上野陣場遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

下 卷

平成 14 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

目 次

一 下 卷 一

5	平安時代の遺構と遺物	323
(1)	竪穴住居跡	323
(2)	掘立柱建物跡	429
(3)	土坑	446
6	中・近世の遺構と遺物	453
(1)	火葬施設	453
(2)	墓墳	454
7	その他の遺構と遺物	460
(1)	竪穴住居跡	460
(2)	掘立柱建物跡	471
(3)	溝	480
(4)	土坑	488
(5)	その他の土坑	493
(6)	ピット列	523
(7)	遺構外出土遺物	525
第4節	まとめ	550

写真図版
付 図

5 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で、平安時代の遺構は竪穴住居跡55軒、掘立柱建物跡11棟、土坑8基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第6号住居跡（第227・228回）

位置 調査区北西部のE2e4区に位置し、台地縁辺部に立地している。周辺の遺構は北に第13号住居跡、東に第33号住居跡、南西に第26号住居跡がそれぞれ立地している。

重複関係 南東部が第30号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.94m、短軸2.80mの方形で、主軸はN-25°-Eであり、壁高は24~26cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。壁溝は深さ6~8cmで、窓の西脇から南コーナー部付近にかけて横下で検出された。

床 ほぼ平川で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅132cm、焚口部から煙道部までの長さ90cmである。火床面は床面から10cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 5 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 6 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック少量
- 7 黒 褐 色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 8 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 10 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 11 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量
- 12 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 黒 褐 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量
- 14 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
- 15 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ17cmで、性格は不明である。

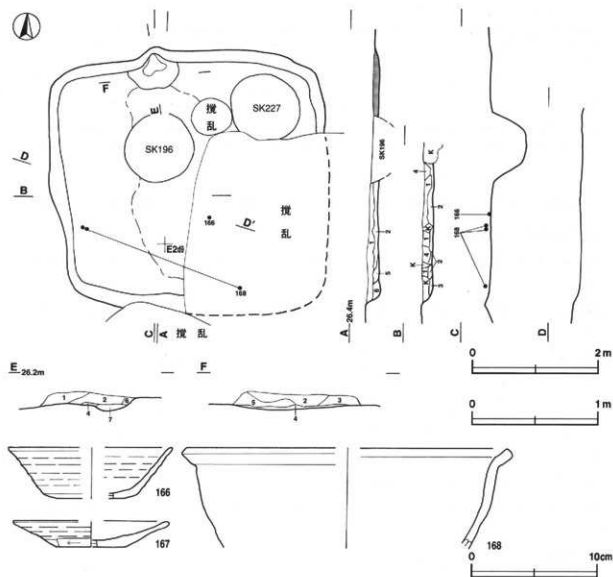
覆土 4層からなる。ロームブロックを含む第2層は壁際からの流れ込んだ堆積状況を示し、他の層もレンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・炭化物微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片182点（坏26・甕156）、須恵器片6点（甕）、鉄製品1点（斧）、鉄滓2点、鏝3点が出土している。これらの遺物は竈前と南東壁際の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片30点、弥生土器片1点、剥片2点や混入した瓦片2点が出土している。出土状況から160・161は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第229図 第7号住居跡・出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表(第229図)

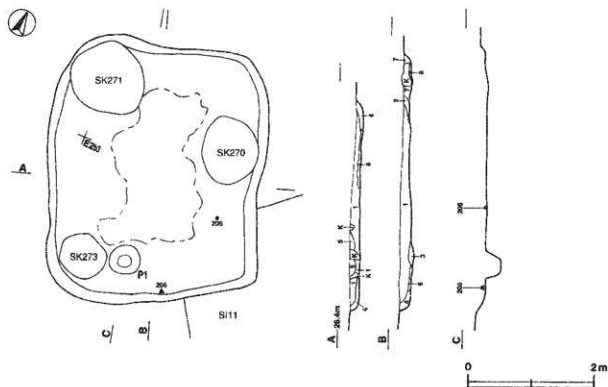
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産成	手法の特徴	出土位置	備考
166	須恵器	杯	[12.8]	4.0	[5.4]	長石・石英	におい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	中央部床面	20%
167	須恵器	皿	[12.4]	2.1	5.4	長石・石英・雲母	におい黄橙	普通	底部外面ヘラ削り。	覆土中	45%
168	土師器	鉢	[25.6]	(7.9)	-	長石・石英	におい黄橙	普通	体部両面横ナデ。	南部中層	10%

第12号住居跡(第230・231図)

位置 調査区北部やや西寄りのE2a3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第23号住居跡が位置している。

重複関係 南西部が第11号住居跡、中央部西壁寄りが第272号土坑をそれぞれ掘り込み、東壁際中央部を第270号土坑、北西コーナー部を第271号土坑、南西コーナー部を第273号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸は4.28m、短軸3.36mの長方形で、主軸はN-19°-Wであり、壁高は13cmで外傾して立ち上がる。



第230図 第12号住居跡実測図

床 ほは平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁際の中央部は擾乱を受けており、竈を確認できなかったが、北壁の中央部が壁外へわずかに張り込まれており、住居跡の形状と出入り口施設に伴うピットの位置から、竈が北壁の中央部に付設されていたと考えられ、その部分の壁際に片面が焼けた雲母片岩（長軸50cm、短軸40cm、厚さ13cm）の切り石が出土しており、竈材として使用されたと推測される。

ピット P1は深さ25cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

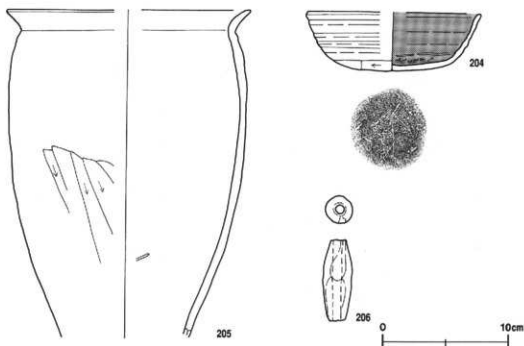
覆土 8層からなる。ロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化物・粘土ブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片196点（坏90・高台付坏4・甕102）、須恵器片8点（坏）、土製品3点（不明）、礫10点が出土している。これらの遺物は南部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片14点、石器1点（礫石）が出土している。出土状況から204は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第231図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表 (第231図)

番号	種別	器種	口径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
204	土師器	環	[13.6]	4.6	4.0	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	普通	底部外面へう割り。	覆土中	80% 底部へ残存。
205	土師器	甕	[19.2]	(26.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	東部床面	20% 体部内面工具の残存。

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
206	管状土師	6.4	2.2	0.7	28.7	土製	外面ナデ, 孔に割痕などは認められない。	覆土中層	PL115

第13号住居跡 (第232・233・234図)

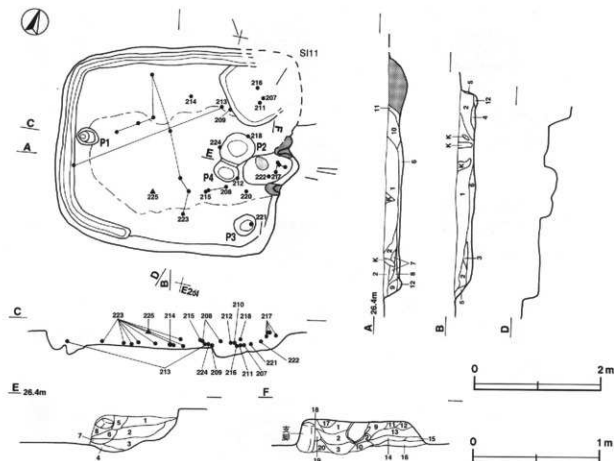
位置 調査区北西部のE 2 c3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第6号住居跡、北に第14号住居跡、東に第7号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北コーナー部が第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.10mの長方形で、主軸はN-82°-Wであり、壁高は26~32cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められ、壁溝は深さ12cmで、南壁の一部を除いて壁下で検出されている。

竈 東壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込み、雲母片岩を補強材として、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖幅113cm、焚口部から煙道部までの長さ89cmである。火床面は床面から6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は外傾して立ち上がる。南袖部の一部が破壊されているが、良好に残存しており、内壁は火熱を受けて赤変硬化している。また、雲母片岩が出土し、焚口上部で使用されたと考えられる。また、焚口部の床面は貼り床をしている。



第232図 第13号住居跡実測図

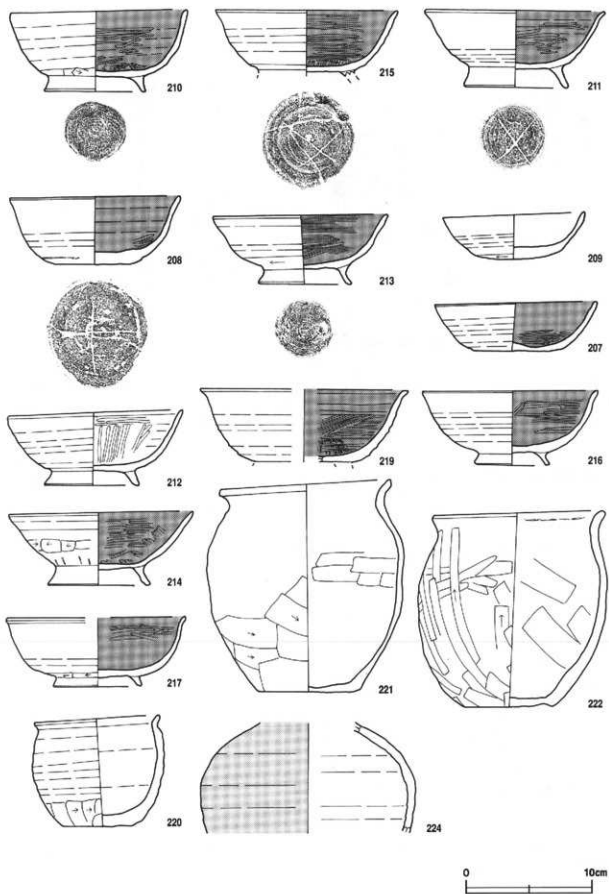
覆土層解説

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・灰中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 11 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 13 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 14 暗褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 15 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| 16 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子中量 |
| 18 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 19 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 20 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土ブロック微量 |

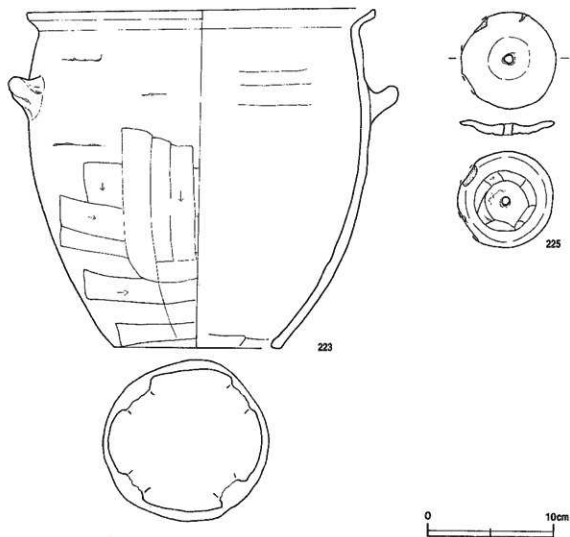
ピット 4か所。P1は深さ16cmで，中央部から西壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P3は南東コーナー付近にあり，支柱穴とも考えられるが，P2・4同様に性格は不明である。

覆土 12層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。



第233图 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第234図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- | | | |
|----|--------|---|
| 1 | 極 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 | 暗 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 | 暗 褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 | 黒 褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 | 暗 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子少量 |
| 6 | 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 7 | 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 8 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、焼土ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子微量 |
| 9 | 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 10 | 暗 褐色 | ロームブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒少量 |
| 11 | 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 12 | 暗 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片307点(坏114・高台付坏19・甕138・甌36)、須恵器片9点(坏6・甕3)、灰釉陶器1点(壺)、石製品1点(支脚)、土製品1点(紡錘車)、鏝3点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。土師器甕が竈内から立位で出土している。このほかには、混入した縄文土器片29点が出土している。出土状況から209・221・222・224は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。また、竈の補強材として雲母片岩が使用されていた。

第13号住居跡出土遺物観察表(第233・234図)

番号	種別	器種	口径	径高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	環	13.0	4.1	6.2	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ切後、ヘラ削り。	北東部下層	100% PL108
208	土師器	環	13.5	5.4	6.2	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ切後、ヘラ削り。	南東部下層	85% 磁石付 91% PL108
210	土師器	高台付環	14.0	6.5	8.0	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ切後、高台削り付後、ナデ。	北東部下層	100% PL108
209	須恵器	環	11.4	3.8	6.1	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	良好	底部回転ヘラ切後、一方削り付後、ナデ。	北東部下層	98% PL108
211	土師器	高台付環	14.2	6.1	8.1	長石・石英・雲母	褐色	普通	底部回転ヘラ切り。高台削り付後、ナデ。	北東部下層	85% 磁石付 91% PL108
212	土師器	高台付環	13.8	6.0	7.6	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部高台削り付後、ナデ。	東部下層	100% PL108
213	土師器	高台付環	13.8	5.6	7.4	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台削り付後、ナデ。	中央部中層	95% PL108
214	土師器	高台付環	14.4	5.8	8.0	長石・石英・雲母	灰黄色	普通	底部高台削り付後、ナデ。	北東部下層	95% PL108
215	土師器	高台付環	14.4	(5.2)	-	長石・石英・雲母・小砂	にぶい・褐色	普通	底部高台削り付後、ナデ。	南東部中層	85% 磁石付 91% PL108
216	土師器	高台付環	14.0	6.0	6.0	長石・石英・雲母・赤色鉄屑	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台削り付後、ナデ。	北東部下層	90% PL108
217	土師器	高台付環	[14.0]	5.4	7.0	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台削り付後、ナデ。	北東部中層	65% PL108
219	土師器	高台付環	[16.6]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台削り付後、ナデ。	覆土中	33%
220	須恵器	小形甕	9.7	8.7	6.5	長石・石英・雲母・赤色鉄屑	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ切り。	南東部中層	80% 外周部付着。PL109
221	土師器	小形甕	13.5	16.9	8.2	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	底部回転ヘラ削り。底部外周ヘラ削り。	南東部下層	98% PL109
222	土師器	小形甕	13.7	15.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色鉄屑	灰褐色	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。底部外周ヘラ削り。	東部中層	100% PL109
224	灰釉陶器	壺	-	(8.8)	-	長石	灰白	良好	体部両面口口ナデ。外面施釉。	東部下層	10%
223	土師器	甕	27.5	27.1	[13.2]	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	把手ナデ。底部ヘラ削り。	中央部下層	85% 磁石付 91% PL108

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
225	紡錘車	7.6	1.2	0.7	49.3	上製	上面ナデ。下面ヘラ削り。	南東部上層	環状磁石用。

第14号住居跡(第235図)

位置 調査区北部のD2 j4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第13号住居跡、南東に第7号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東コーナー部を第437号土坑が掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.18m、短軸3.10mの方形で、主軸はN-5°-Eであり、壁高は8~16cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで、西壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ15cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は西袖部幅116cm、奥口部から煙道部までの長さ65cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は外傾して立ち上がる。奥口部の南側に、長径90cm、短径70cmの楕円形で、深さ24cmの掘り込みがあり、その部分には焼土ブロックや炭化物・炭化粒子・灰を含んだ黒褐色土などで埋め戻されて貼り込まれている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微少
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・灰微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 4か所。主柱穴は検出されていない。P1～4の性格は不明である。

P1土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

P2土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

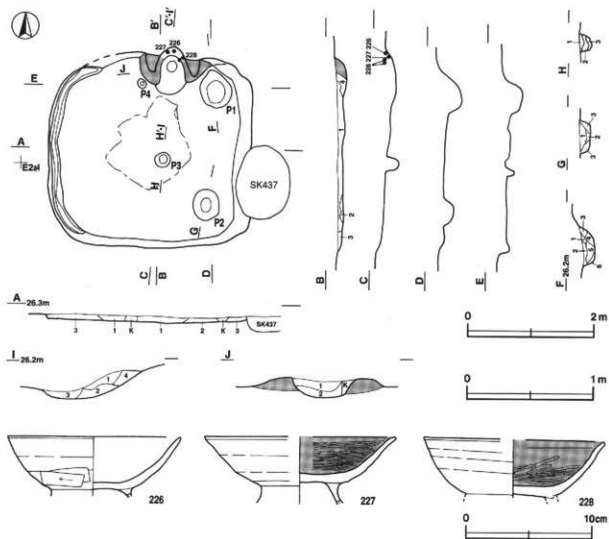
P3土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 4層からなる。第2層はロームブロックを多く含んだブロック状の堆積を示すが、自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |



第235図 第14号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片183点(坏102・高台付坏17・甕64)、須恵器片6点(坏1・甕5)、土製品1点(不明)、
 礫3点が出土している。これらの遺物は北西コーナー部の覆土下層や竈付近の覆土中層から多く出土している。
 このほかには、混入した縄文土器片14点、石器2点(凹石・石皿)や攪乱によって混入した陶器片1点が出土
 している。出土状況から227は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表 (第235図)

番号	種別	器種	寸法	口径	胎土	色調	施装	手法の特徴	出土位置	備考	
226	土師器	高台付片	13.6	(4.8)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい老色	普通	底部回転糸切り。高台貼付 後、ナデ。	竈上層	50% 底部に工 品痕跡 PL109
227	土師器	高台付片	15.2	(5.3)	-	長石・小礫	にぶい老色	普通	底部回転糸切り。高台貼り 付け後、ナデ。	竈下層	50% PL109
228	土師器	高台付片	14.4	(4.5)	-	長石・石英・赤 母・赤色砂子	明褐色	普通	底部回転糸切り。高台貼り 付け後、ナデ。	竈上層	80% 高台 部欠損。

第23号住居跡 (第236・237図)

位置 調査区北部西寄りのE1e0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第12号
 住居跡がある。

重複関係 北東コーナー部が第18号住居跡、第396・489・490号土坑を掘り込み、中央部を第488号土坑が掘り
 込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m、短軸3.70mの長方形で、主軸はN-79°-Eで、壁高は32~41cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、南壁の中央部から北西コーナ
 ー部にかけて壁下を巡っている。

竈 東壁の中央部南寄りを壁外へ27cmほど掘り込み、焼土泥じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅
 104cm、焚口部から煙道部までの長さ113cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤
 変酸化し、煙道は外傾して立ち上がる。北袖部下に掘り込みがあり、その部分に焼土とロームが混じった黒褐
 色土及び暗褐色土を埋め土にし、その上に焼土の混じった砂質粘土で袖部を構築している。竈の作り替え
 が行なわれたと考えられる。

竈土層観察

1	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中層、ローム粒子・粘土ブロック 微量	16	暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	17	黒褐色	粘土ブロック中層、焼土ブロック微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	18	暗褐色	粘土ブロック中層、焼土粒子微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量	19	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・ 炭化物微量
7	暗褐色	ロームブロック中層、焼土ブロック微量	20	黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子 微量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量	21	にぶい黄褐色	粘土ブロック中層、焼土ブロック微量
9	黒褐色	粘土ブロック中層、ローム粒子・焼土ブロック・ 炭化物微量	22	暗褐色	粘土ブロック・焼土ブロック少量
10	暗褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭中層	23	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子 微量
11	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	24	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
12	黒褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			
13	暗赤褐色	焼土ブロック中層、ローム粒子・粘土ブロック 微量			

ピット 5か所。主柱穴はP1～3で、深さ25～36cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は南袖部に位置し、竈に関連した施設に伴うピットと考えられる。P4は竈の笑口部を掘り込んでいるが、性格は不明である。

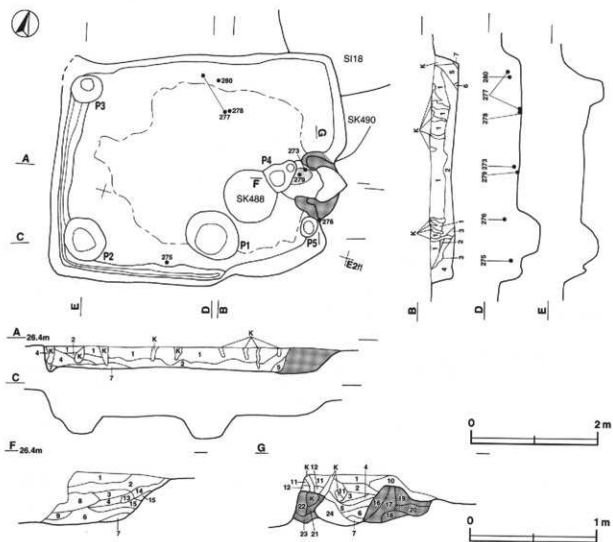
覆土 7層からなる。第2・3層はロームブロックを多く含んだブロック状の人為堆積の状況を示し、他はレンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

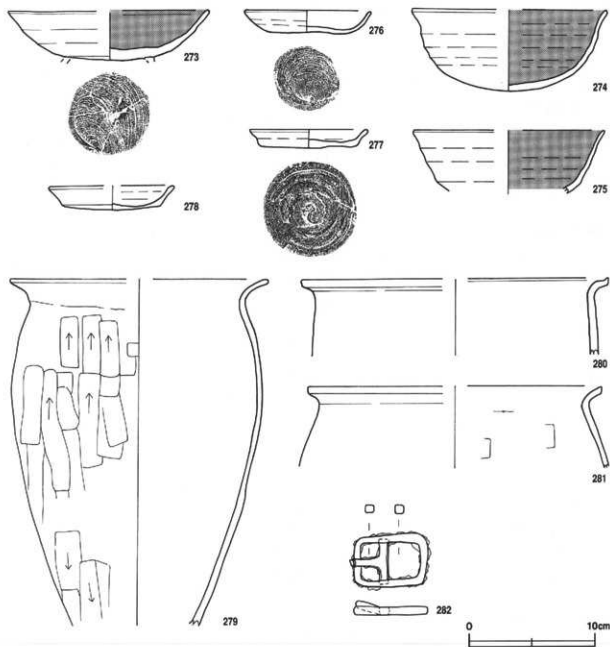
- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・黒色粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片536点(坏225・甕311)、須恵器片36点(坏12・甕24)、土製品1点(不明)、鉄製品1点(鉸具)、鏝39点が出土している。これらの遺物は覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片76点や攪乱によって混入した磁器片1点が出土している。出土状況から273・279は木跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉から後葉と考えられる。



第236図 第23号住居跡実測図



第237図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表 (第237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
273	土師器	高台付坪	[15.8]	(3.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・椀	普通	底部回転糸切り。	竈下層	60% 高台部欠損。PL108
274	土師器	坪	[15.6]	6.5	-	長石・雲母	にぶい・椀	普通	底部外面へウ閉り。	覆土中	20%
275	土師器	坪	[15.0]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい・椀	普通	体部両面口ロナナデ。	南東部中層	10%
276	土師器	皿	10.0	1.8	6.3	長石・雲母	灰褐色	普通	体部外面口ロナナデ。底部回転糸切り。	南東部中層	70% PL108
277	土師器	皿	9.4	1.5	7.6	長石・赤色粒子	椀	普通	体部両面ナデ。底部回転へウ切り。	北部中層	80% PL108
278	土師器	皿	[10.0]	2.0	[8.0]	長石・石英	椀	普通	体部両面ナデ。底部回転へウ切り。	北部下層	50%
279	土師器	甕	[20.6]	(27.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい・椀	普通	体部内面ナデ。	竈下層	30% 外面破付点
280	土師器	甕	[24.2]	(6.1)	-	長石・雲母	にぶい・椀	普通	口縁部両面ナデ。体部内面ナデ。	北部下層	5%
281	土師器	甕	[23.2]	(6.4)	-	長石・雲母	にぶい・椀	普通	口縁部両面ナデ。体部内面ナデ。	覆土中	5%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
282	灰皿	5.9	4.3	0.6	34.0	鉄	斜金具可動式。	覆土中	PL118

第26号住居跡 (第238区)

位置 調査区北部西寄りのE2i3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第35号住居跡、北東に第6・30号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南壁が第27号住居跡、東壁が第475号土坑を掘り込み、北壁を第410号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.94m、短軸3.10mの南北方向に長方形で、主軸はN-2°-Wであり、壁高は15~20cmで外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで、北壁を除いた壁下で検出されている。焼土が中央部から南壁寄りの床面で確認されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ56cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土で構築している。規模は両袖部幅87cm、焚口部から煙道部までの長さ85cmである。火床部は床面から16cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、粘土粒子・炭微塵
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 10 黒褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量
- 13 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量
- 15 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 16 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 17 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 18 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量
- 20 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 21 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 22 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

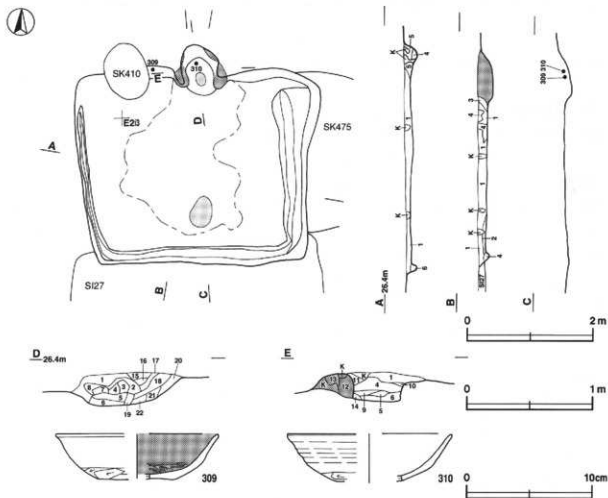
覆土 6層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片213点(坏43・碗1・高坏1・甕168)、須恵器片10点(坏4・甕6)が出土している。これらの遺物は竈内及び竈前の覆土下層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片78点、弥生土器片1点、土製品1点(不明)、鏝2点が出土している。出土状況から309・310は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前後と考えられる。



第238図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第238図)

番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手の特徴	出土位置	備考
309	土師器	杯	[12.8]	3.6	[6.0]	長石-石英-雲母	にぶい黄橙	普通	底部内面へう巻き, 外面へう張り。	北部下層	30%
310	須恵器	杯	[13.0]	(3.8)	[5.0]	長石-石英-雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへう削り。	壺下層	25%

第29号住居跡 (第239図)

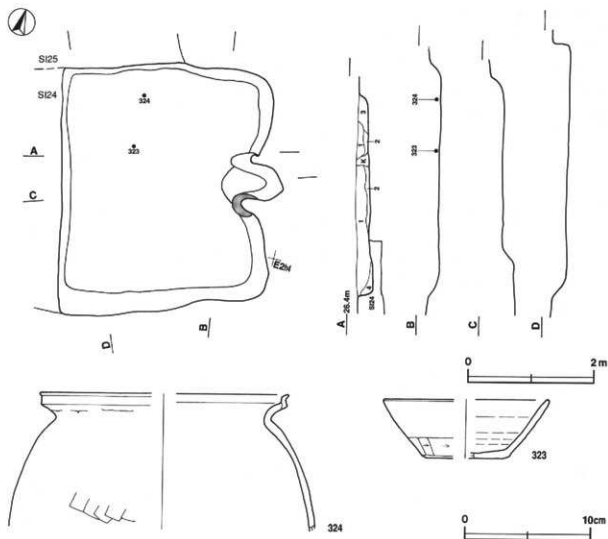
位置 調査区北部西寄りのE 2 g 3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第67号住居跡が位置している。

重複関係 北壁が第25号住居跡、西壁が第24号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.75m、短軸3.24mの長方形で、主軸はN-77°-Eであり、壁高は28cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部を壁外に41cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅102cm、焚口部から煙道部までの長さ94cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がる。



第239図 第29号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・白色粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・白色粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片56点(環18・甕38)、須恵器片6点(環)、礫1点が出土している。これらの遺物は竈周辺と中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片10点出土している。出土状況から324は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表(第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
324	土師器	甕	[19.6]	(10.7)	-	長石・石英	赤黄	普通	胴部上半部外面へウナデ。口縁部に輪積痕を残す。	北部下層	10%
323	須恵器	碗	[13.0]	4.7	[7.0]	長石・石英	黒灰	良好	底部外面多方向のへウ割り。	中央部下層	25%

第30号住居跡 (第240図)

位置 調査区北西部のE2f4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は重複関係にある第6号住居跡、北に第13号住居跡、南東に第35号住居跡、南西に第26号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 竈が第32号住居跡を掘り込み、北西部を第6号住居跡に掘り込まれている。

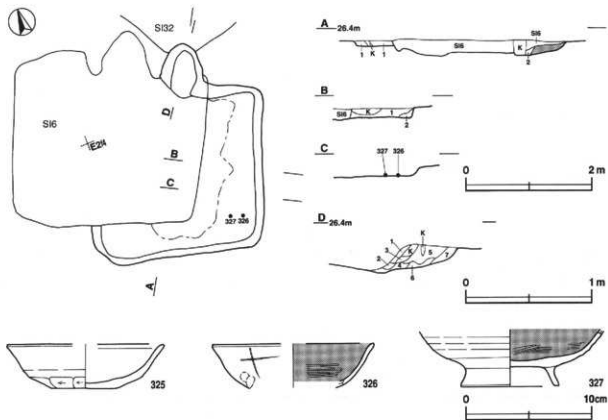
規模と形状 長軸2.73m、短軸2.57mの方形で、主軸はN-20°-Eで、壁高は12cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。竈前面にわずかに床面を掘り窪み、埋め戻し土をして補修した部分が確認された。

竈 北壁の中央部を壁外へ52cmほど掘り込んで、粘土などで構築している。第6号住居跡に掘り込まれているため、壁外への掘り込みと焚口部分のみが確認できただけである。確認できた規模は、壁面の掘り込み幅63cm、焚口部から煙道部までの長さ87cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変して、わずかに硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量



第240図 第30号住居跡・出土遺物実測図

覆土 2層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片176点(坯58・高台付坯26・甕92)、須恵器片5点(坯1・甕4)が出土している。これらの遺物は覆土上層の全体から出土している。このほかには、混入した縄文土器片76点、弥生土器片5点、石硯2点(石硯・剥片)や攪乱によって混入した陶器片3点、古銭1点が出土している。出土状況から326・327は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表(第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	技法の特徴	出土位置	備考
325	土師器	坯	12.4	3.5	3.4	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部外面一方向のへら削り	覆土中	40% 焼土付着
326	土師器	坯	12.8	3.5	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面に指痕あり	南東部床面	20% 焼成 後粘土付着
327	土師器	高台付坯	-	4.5	7.6	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転へら削り。高台削り付け後、ナデ	南東部床面	50%

第33号住居跡(第241・242図)

位置 調査区北部西寄りのE2e4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第6・30号住居跡、北西に第13号住居跡、北東に第7号住居跡、南西に第26号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北壁が第32号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.86m、短軸2.60mの方形で、主軸はN-120°-Eであり、壁高は20~30cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、西壁と南東コーナー部の壁下で検出されている。南東コーナー部から北西コーナー部にかけての床面に、炭化材が確認された焼失家屋である。

竈 南東コーナー部を壁外へ10cmほど掘り込み、ローム泥じりの粘土などで構築していたが、破壊されて遺存状況は良好でない。残存している規模は両袖部幅85cm、焚口部から煙道部までの長さ59cmである。火床面は床面から10cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。また、焚口部から焼けた雲母片岩が出土し、竈で使用されたものと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量、粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、炭化材微量
- 9 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化材微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量
- 13 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 14 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量

ピット P1 は深さ25cmで、竈の北脇に位置し、断面形は緩やかなU字形を呈している。しまりは薄い凝土ブロック・炭化物・ロームブロックを含んだ暗褐色土が堆積し、竈の廃棄物を捨てたピットと考えられる。

覆土 9層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量
- 4 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・炭化材微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック・ロームブロック少量、炭化粒子・粘土ブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片210点(坏61・甕149)、須恵器片16(坏1・甕15)、灰釉陶器片1点(不明)、土製品5点(支脚・不明4)、鏝1点が出土している。これらの遺物は竈周辺及び中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片9点、石器1点(礫石)が出土している。出土状況から362・363は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。竈の残存状況が不良で、廃絶時に竈を壊した可能性がある。また、焼失家屋である。

第33号住居跡出土遺物観察表(第242図)

番号	種別	器種	口径	口径	高さ	底径	断面	土色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
362	土師器	高台付鉢	15.2	5.2	6.6		長円・石英・尖足	にぶい・橙	普通	底部回転糸切り	高台貼り付け後、ナデ。	北西部床面	60% PL109
363	土師器	高台付鉢	13.2	5.6	6.3		長円・石英・尖足	橙	普通	高台貼り付け後、ナデ。		南東部下層	60% PL110
365	土師器	小形甕	15.2	13.4	8.0		長円・石英・尖足	にぶい・橙	普通	体部内面ヘラナデ。		南西部床面	80% 内面炭化物付着 PL109
366	土師器	甕	19.0	30.3	9.0		長円・石英・尖足	にぶい・橙	普通	口縁部両面ヘラナデ。体部内面ナデ。		竈中層	50% PL109

第35号住居跡(第243図)

位置 調査区中央部北寄りのE2j5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第26号住居跡、北に第6・30・33号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に伸びるため、確認できたのは長軸3.90m、短軸1.50mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸はN-76°Eであり、壁高は22cmでほぼ直立する。

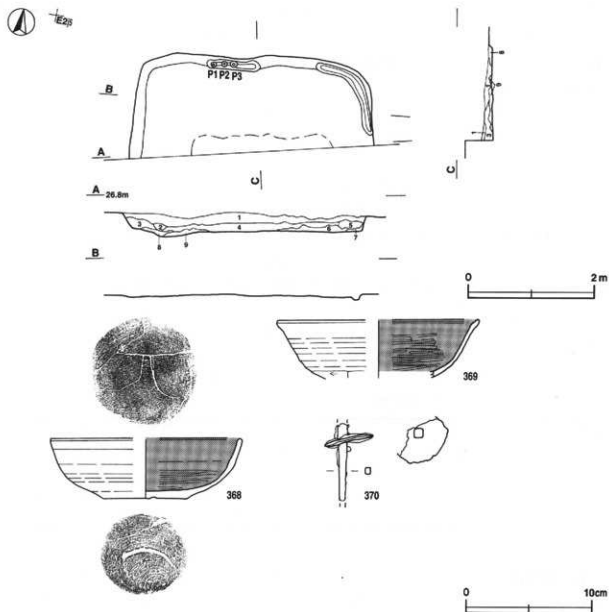
床 ほぼ平州で、中央部が踏み固められている。壁溝は北壁中央部と北西コーナー部の境下で検出された。

ピット 3か所。P1～3は壁溝の底面を確認されたので啖穴と考えられる。主柱穴は検出されていない。

覆土 9層からなる。第1層はレンズ状の自然堆積の状況を示し、下層の境層はブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量



第243図 第35号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片66点(坏34・甕32), 須恵器片6点(坏2・甕4), 鉄製品1点(紡錘車), 礫1点が出土している。これらの遺物は北部の覆土中から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片24点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。鉄製紡錘車が当遺跡からは本跡が唯一出土している。

第35号住居跡出土遺物観察表(第243図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	坏	[15.0]	4.8	6.4	長石・雲母	にび黄褐色	普通	底部回転糸切り。		覆土中	5% 内訳に著書[文], PL110
369	土師器	高台付坏	[16.0]	(4.6)	-	長石・雲母	にび黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り。		覆土中	10%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
370	鉢鉢平	6.1	13.8	0.5	16.0	鉄	軸部断面方形。	覆土中	P1.118

第41号住居跡（第244図）

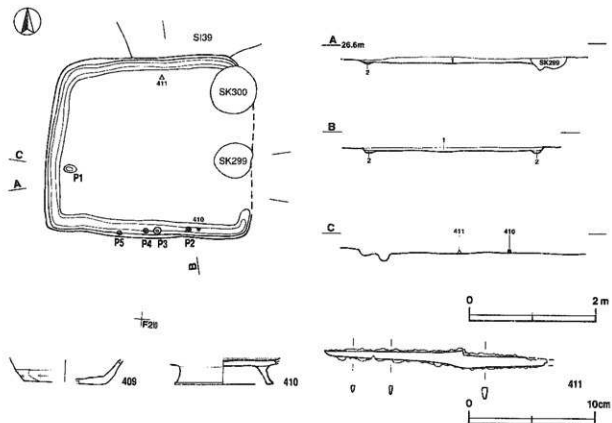
位置 調査区北部西寄りのF2h9区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第67号住居跡が位置している。

重複関係 北壁が第39号住居跡を掘り込み、東壁を第299・300号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面で既に東部の床面が検出され、東壁の立ち上がりは不明である。確認できたのは長軸3.29m、短軸2.80mで、形状は長方形と推測され、主軸はN-1°-Wであり、壁高は10cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。壁溝は深さ2～4cmで、南東コーナー部から北壁の中央部にかけての境下で検出されているが、本来は全周していたと考えられる。

竈 は確認されなかったが、東壁の中央部に位置する第299号土坑の覆土に焼土ブロックが少量含まれており、この部分に火床部があったと考えられる。



第244図 第41号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1は深さ11cmで、中央部から西壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2～5は深さ11～14cmで、壁溝の底面で確認され、竪柱穴と考えられる。

覆土 2層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片260点(坏13・高台付坏2・甕244・甌1)、須恵器片3点(坏2・甕1)、鉄製品1点(刀子)が出土している。これらの遺物は東部の覆土上層と下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片6点、弥生土器片3点が出土している。出土状況から410・411が本跡に伴うと考えられる。
所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。竪は東壁に付設されていたと考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表(第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
409	須恵器	坏	-	(1.8)	[6.4]	長石・石炭屑	にぶい黄砂	良好	底部外面多方向的ヘケ削り。	覆土中	15%
410	土師器	高台付坏	-	1.6	7.7	長石・石炭	微	良好	底面傾斜へうなり。底面斜行線。ナテ。	南部下層	30%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
411	刀子	(17.7)	1.4	0.4	(19.2)	鉄	片刃。	北部下層	PL118

第63号住居跡(第245図)

位置 調査区中央部のD3f5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第68号住居跡、南西に第72号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北東コーナー部を第28号土坑、西壁を第29号土坑にそれぞれ掘り込まれている。南東コーナー部が第64号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が攪乱を受け、さらに第28・29号土坑に掘り込まれているが、長軸3.39m、短軸2.81mの長方形で、主軸はN-90°-Eであり、壁高は14～30cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ7cmで、確認できた部分ではほぼ全周している。

竈・炉 竈は確認できなかったが、壁溝の状況から、東壁南寄りまたは北東コーナー部に付設されていたとも考えられるが、第28号土坑に掘り込まれているため確認できなかった。さらに炉の可能性も考え、床面精査を行ったが、焼土の広がりも確認されず、竈・炉の付設された位置については不明である。

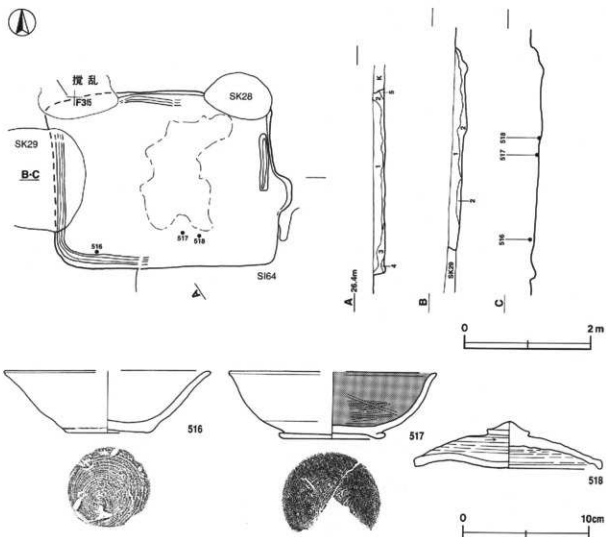
覆土 5層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片141点(坏74・甕67)、須恵器片7点(坏1・甕5・甕1)、土製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は南西コーナー部と南壁際中央部の覆土上層と下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片33点、剥片1点が出土している。出土状況から517が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉から後半と考えられる。



第245図 第63号住居跡・出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	土師器	坏	[16.4]	4.9	[7.0]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り。	南東部下層	25% 外周割離
517	土師器	高台付坏	[16.2]	5.3	8.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	底部回転糸切り。高台貼付け後ナデ。	南部下層	50% PL110
518	須恵器	蓋	14.8	3.8	-	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部ヘラ割り。	南部下層	100% PL85

第67号住居跡（第246・247図）

位置 調査区中央部のF3i4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 北東部が第69号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.29m、短軸4.06mの方形で、主軸はN-2°-Eであり、壁高は20~30cmでほぼ直立している。竈両脇の壁上面にローム混じりのにぶい黄褐色土の粘土を貼り付けており、防火壁のような施設と考えられる。

防火壁部土層解説

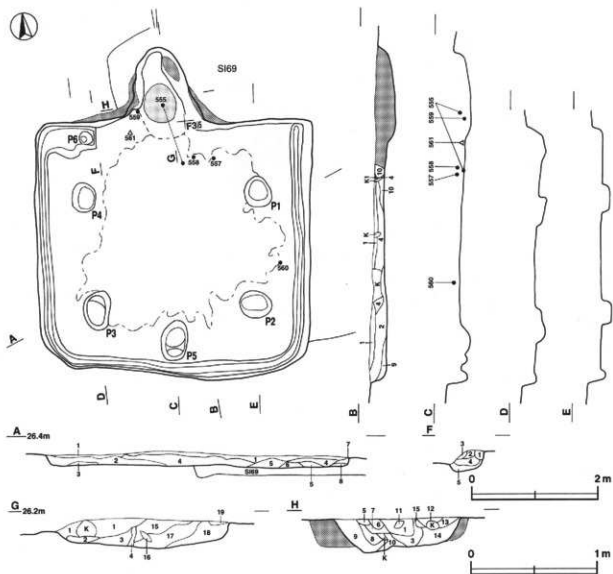
- | | | | |
|----------|---------------------|----------|-------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ5～14cmで、北壁を除いた壁下で検出され、本来は全周していたと考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ97cmほど掘り込み、粘土などで構築している。袖部の遺存状態は不良であり、確認できた規模は焚き口から煙道部までの長さ146cm、壁外への掘り込みの最大幅130cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められて、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がり、確認面から16cmの深さから直立する。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 19 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量 |
| 9 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |
| 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | | |
| 11 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第246図 第67号住居跡実測図

ビット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さは11～26cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ19cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入口施設に伴うビットと考えられる。P6は深さ30cmで、壁際に位置しているが、性格は不明である。竈又は防火に伴うビットの可能性がある。

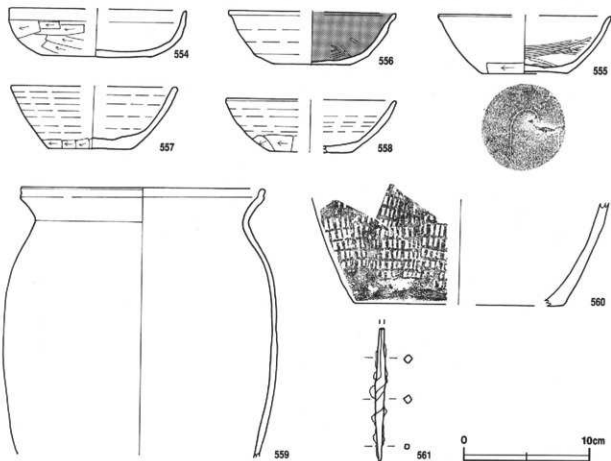
覆土 10層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片484点(坏158・甕326)、須恵器片106点(坏41・甕65)、鉄製品1点(鎌)が出土している。これらの遺物は竈内とその周辺、さらに中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片30点、石器1点(鎌)が出土している。出土状況から555・557～559は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。ローム混じりの粘土を竈両脇の壁の上面に貼り付け防火壁としている。当遺跡では、多数の住居跡が調査されているが、防火壁が検出されているのは本跡だけである。



第247図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表 (第247図)

番号	種類	器種	口径	口径	高さ	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
554	土師器	杯	[14.0]	3.8	-		粘土・石灰	橙	普通	普通	口縁部両面ナギ、底面外へツクリ。	覆土中	20%
555	土師器	杯	[13.8]	4.6	6.8		長石・石灰	にぶい橙	普通	普通	口縁部両面へツクリ後、へツくり。	覆土中	30% 片面ナギ PL.110
556	土師器	杯	[13.4]	4.2	6.0		長石・石灰	明黄褐色	普通	普通	底部外面へツクリ。	覆土中	20%
557	須恵器	杯	[13.5]	5.0	6.7		長石・石灰	にぶい橙	普通	普通	底部外面へツクリ。	北部下層	30%
558	須恵器	杯	[13.4]	4.1	6.4]		長石・石灰	にぶい橙	普通	普通	底部外面へツクリ。	北部下層	30%
559	土師器	壺	19.1	(21.2)	-		長石・石灰	橙	普通	普通	口縁部両面ナギ、底面ナギ。	覆土中	25%
560	須恵器	壺	-	(8.3)	[16.8]		長石	にぶい橙	普通	普通	体外部外面ナギ、内面ナギ。	東部下層	5% 二次焼成 PL.114

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	厚さ(g)				
561	餅	(10.6)	0.7	0.7	(11.6)	灰	中央部認められ、両面が形跡の付く厚さ。	北部下層	PL.118

第68号住居跡 (第248・249図)

位置 調査区中央部のF3h6区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第72号住居跡、東に第122号住居跡にそれぞれ位置している。

重複関係 南西部が第69号住居跡、北西部が第70号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.08m、短軸3.92mの方形で、主軸はN-2°-Wであり、壁高は30~54cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ5~7cmでほぼ全周している。

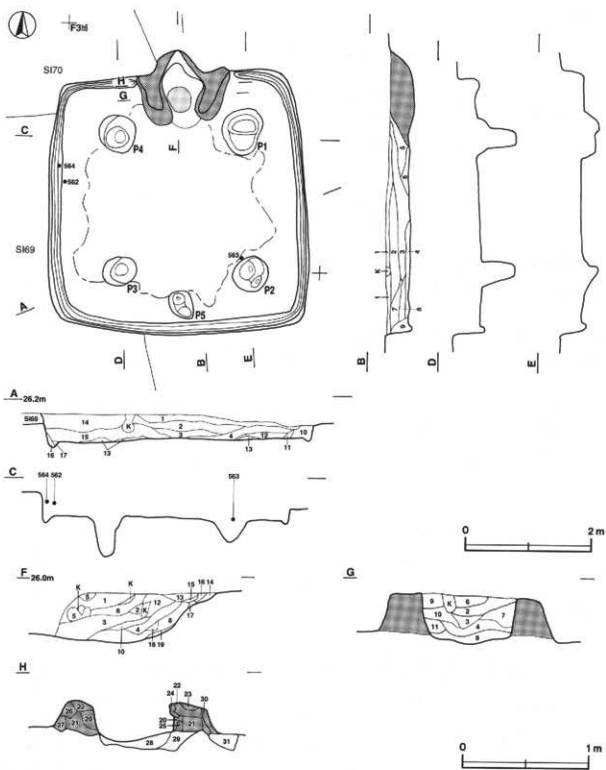
竈 北壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅150cm、焚口部から煙道部までの長さ127cmである。火床部は床面から14cmほど掘り窪められ、火熱を受け赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がり、火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山を掘り窪めて、ロームブロックと焼土の混じった粘土の埋土をし、その上に同質の粘土で構築されているので、作り替えが行なわれたと想定される。

竈土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック	17 焼 色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
2 暗 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	18 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗 褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量、ローム粒子微量	19 暗 赤 褐色	粘土粒子・炭化粒子少量
4 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子微量	20 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	21 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	22 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
7 暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	23 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
8 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、焼土ブロック・炭化材・粘土粒子微量	24 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 赤 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	25 暗 褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗 赤 褐色	焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	26 暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗 赤 褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	27 暗 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	28 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化材・粘土粒子微量
13 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量	29 暗 赤 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
14 暗 赤 褐色	炭化粒子少量、粘土粒子微量	30 暗 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗 赤 褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	31 暗 褐色	炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 5か所。主柱穴はP1~4で、深さ25~63cmであり、各コーナー寄り位置している。P5は深さ15cmであり、中央部から南端寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックを多く含む層が多く、人為堆積と考えられる。



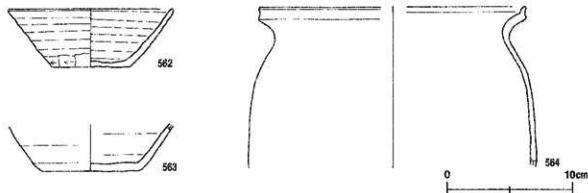
第248图 第68号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 灰 褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 灰 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 7 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・炭微量
- 10 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 13 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 14 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 15 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 16 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 17 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片428点(坏229・甕199)、須恵器片39(坏34・蓋4・長頸瓶1)、灰釉陶器片1点(不明)、土製品3点(支脚2・不明1)、礫6点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から床面にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片74点、弥生土器片7点、石製品1点(石棒)が出土している。出土状況から562～564が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第249図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表(第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
562	須恵器	坏	13.2	4.6	6.2	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り、一面削りヘラ削り。	西部中層	100% Pl.10
563	須恵器	坏	-	(3.5)	(7.6)	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り。	南東部下層	20%
564	土師器	甕	(21.0)	(12.7)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外周縁ナデ。	西部中層	10%

第71号住居跡(第250図)

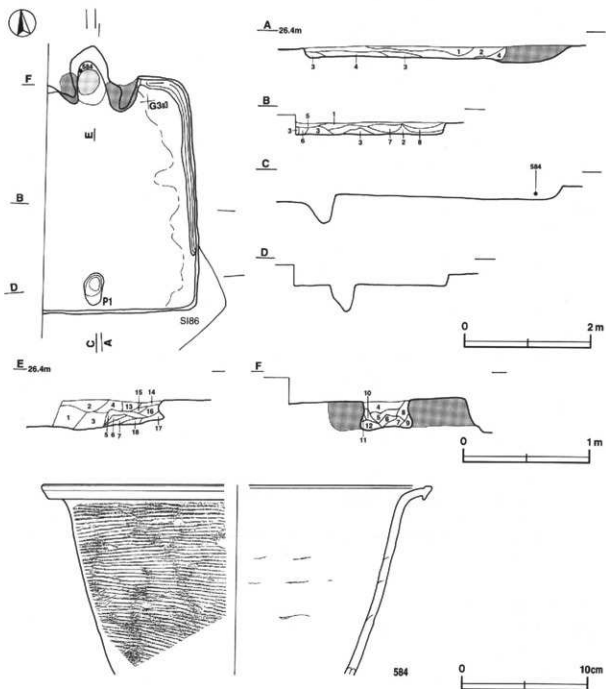
位置 調査区中央部のG3a2区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第72号住居跡、西に第122号住居跡がそれぞれ位置している。また、西部が調査区域外へ伸びている。

重複関係 南壁が第86号住居跡、第94号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外へ伸びるため、確認できたのは長軸3.25m、短軸2.44mで、形状は東西方向に長い長方形と推測され、主軸はN-5°-Eであり、壁高は19～24cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4～6cmでほぼ全周している。本跡はロームブロックを含む暗褐色土や極暗褐色土で埋土をして、貼り床がなされている。

竈 北西壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込み、粘土などで構築している。西袖部の一部が破壊されているが、規模は両袖部幅121cm、焚口部から煙道部までの長さ89cmである。火床面は床面とほぼ同じ高さであり、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。



第250図 第71号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 出 堀 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 灰 黄 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 に近い赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 暗 赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 9 黒 褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 10 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 暗 赤 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 15 暗 褐色 炭化粒子・ロームブロック・焼土粒子微量
- 16 暗 赤 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 17 暗 赤 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 18 暗 赤 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

ピット P1 は深さ45cmで、中央部の南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の層積状況を示しているが、ロームブロックを多く含む土層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 ロームブロック少量
- 8 暗赤褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片215点(坏63・甕152)、須恵器片7点(坏2・甕5)、灰釉陶器片1点(不明)、土製品2点(支脚)、石製品1点(双孔円板)、礫3点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層と室内から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片24点、弥生土器片5点が出土している。出土状況から584が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表 (第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	陶装	手法の特徴	出土位置	備考
584	灰器	鉢	30.8	(15.0)	-	長石	灰黄	良好	腰部内面輪積痕を残すナデ。	竈中層	13%

第72号住居跡 (第251～253図)

位置 調査区中央部のG3 a4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第71号住居跡、北東に第68号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸5.17m、短軸5.09mの方形で、主軸はN-5°-Eであり、壁高は38～48cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6～10cmでほぼ全周している。

竈 北壁の中央部を壁外へ92cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅190cm、焚口部から煙道までの長さ163cmである。竈の作り替えの痕跡が顕著で、旧竈の火床面は床面から20cmほど掘り窪められ、その上に第8～11層を埋め、火床部を作り直して使用している。新竈の火床部も火熱を受けて赤変硬化し、

煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がり、補部内壁も火熱を受けて赤変硬化している。補部は焼土混じりの粘土などを水平状に積み上げて構築されている。

焼土層解説

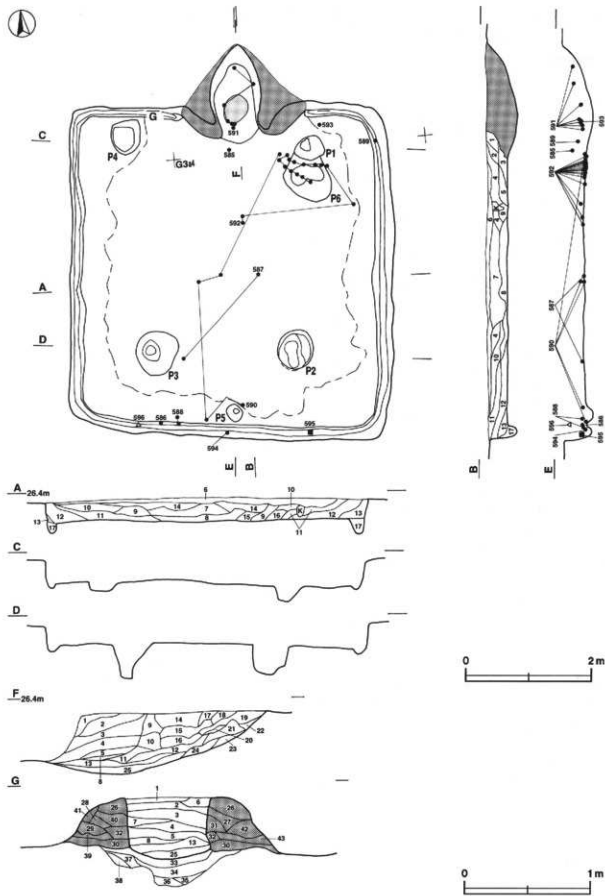
1	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
5	にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
7	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
8	黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・炭化物微量
9	黒褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
10	黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
11	黒褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック微量
12	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
13	極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
14	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
15	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
17	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
18	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19	黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
20	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
21	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
22	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
23	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
24	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
25	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
26	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
27	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
28	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
29	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
30	極暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量
31	極暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
32	極暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
33	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
34	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
35	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
36	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
37	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
38	灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
39	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
40	出褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック微量
41	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
42	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
43	暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量

ピット 6カ所。主柱穴はP1～4で、深さは17～58cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ13cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は性情不明である。

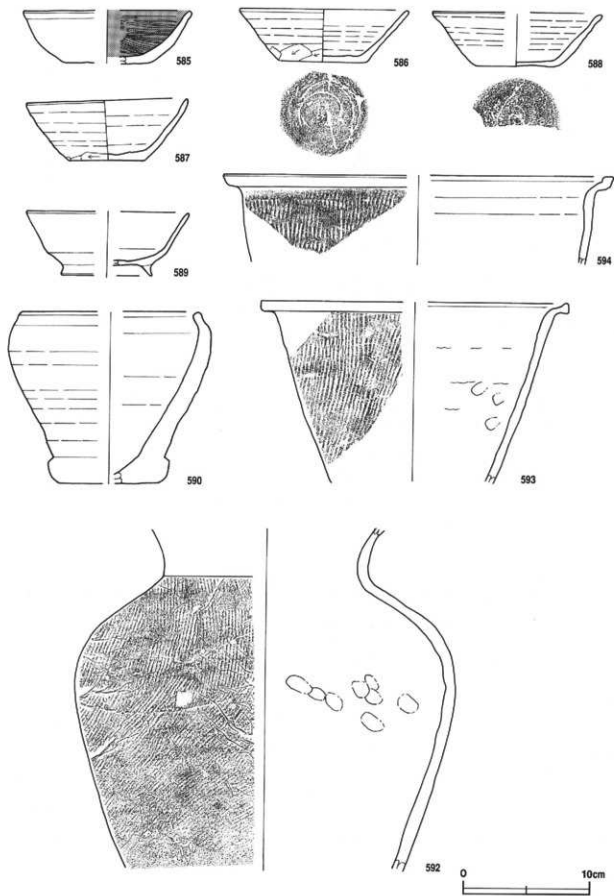
覆土 17層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

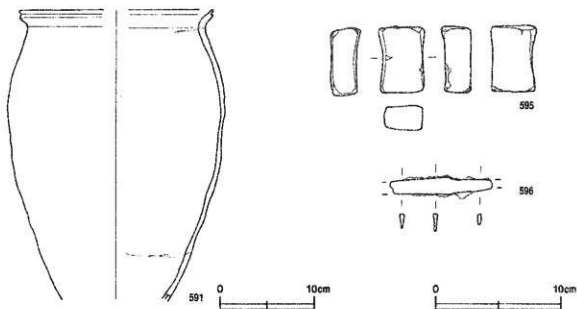
1	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
4	黒褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
5	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
6	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量、炭化粒子微量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
13	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
14	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
15	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量



第251图 第72号住居跡实测图



第252图 第72号住居跡出土遺物実測図(1)



第253図 第72号住居跡出土遺物実測図(2)

16 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

17 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1035点(坯316・蓋1・高坏1・壺1・甕716)、須恵器片329点(坯92・高台付坯90・蓋1・長頸壺1・短頸壺2・甕139・捏ね鉢4)、灰釉陶器片2点(壺)、土製品2点(支脚)、鉄製品2点(刀子)、鏝3点が出土している。これらの遺物は竈前面の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片63点、弥生土器片7点、石器類8点(砥石2・磨石2・剃片4)や覆土によって混入した陶器片2点が出土している。出土状況から587・588・590・591が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる

第72号住居跡出土遺物観察表(第252・253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
585	土師器	坏	[13.2]	7.2	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	明赤釉	普通	底部外面ヘラ削り。	北部中層	25%
589	須恵器	高台付坯	[12.8]	5.1	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	底部回転ヘラ切り。高台削り目付後、ナデ。	北東部中層	20%
591	土師器	甕	[20.2]	(30.7)		長石・石英・赤色	にぶい黒	普通	口縁部外面丁寧な揃ナデ。	竈下層	20%
586	須恵器	坏	13.4	4.2	7.0	長石・石英・赤色	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り。	南西部下層	90% 内部に長 目付線。PL110
587	須恵器	坏	12.6	5.0	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	底部回転ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り。	中央部下層	90% PL110
588	須恵器	坏	[13.4]	4.3	[6.1]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り。	南西部下層	45%
590	須恵器	捏鉢	[14.2]	13.0	[8.0]	長石・石英	灰白	普通	口縁部内面揃ナデ。	南部下層	90% 底部内面 揃成。PL109
592	須恵器	甕	-	(27.3)	-	長石・石英・赤色	灰白	普通	底部内面下半部ナデ。	北東部下層	60%
593	須恵器	鉢	[24.2]	(14.3)	-	長石・石英	灰	普通	底部内輪縁面を残すナデ。	北東部中層	10%
594	須恵器	鉢	[20.8]	(6.9)	-	長石・石英・赤色	灰	普通	底部内面ナデ。	南部下層	5%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
595	風石	5.3	3.6	2.3	65.0	凝灰岩	紙面4面。	南東部ト貯	PL117
596	刀子	(8.0)	1.4	0.4	(19.5)	鉄	刃先欠損。両面。	南西部中層	PL118

第82号住居跡 (第254区)

位置 調査区中央部南寄りのG3b5区に位置し、平垣部に立地している。周囲の同時期の遺構は北西に第30・35号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東壁が第81号住居跡、南壁が第83号住居跡を掘り込み、南壁を第14号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸4.00mの方形で、主軸はN-5°-Eであり、壁高は26cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。第83号住居跡を掘り込んでいる南部は、ロームブロックを含む暗褐色土または黒褐色土で埋土をして、貼り床がなされ、硬化している。しかし、第81号住居跡を掘り込んでいる東部は、あまり硬化していない。壁溝は深さ4～6cmで、竈西脇から南西コーナー部にかけて壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み、粘土などで構築されている。規模は両袖部幅122cm、突口部から煙道部までの長さ104cmである。火床面は床面からわずかに掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は掘り残したロームの上に粘土などを貼り付けて構築している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化物微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 8 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・炭化粒子微量
- 9 極暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・炭化粒子微量
- 13 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 14 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 15 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 16 黒褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量

ピット 1か所。P1は深さ30cmで、性格は不明である。

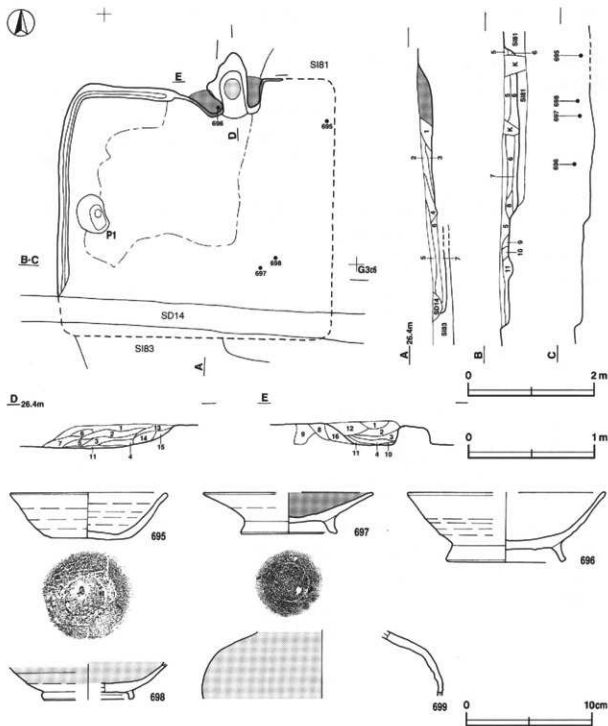
覆土 1層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、各層ともロームブロックが多く含まれ、人為堆積と考える。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 3 極暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量
- 8 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック微量
- 10 暗褐色 ロームブロック微量
- 11 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片465点(坏184・鉢1・寛200・瓶80), 須恵器片46点(坏6・蓋2・寛30・瓶8), 灰軸陶器片3点(壺2・皿1), 土製品7点(不明)が出土している。これらの遺物は南部の床面から多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片27点, 弥生土器片2点, 剥片1点や擾乱によって混入した陶器片1点が出土している。出土状況から696・697は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第254図 第82号住居跡・出土遺物実測図

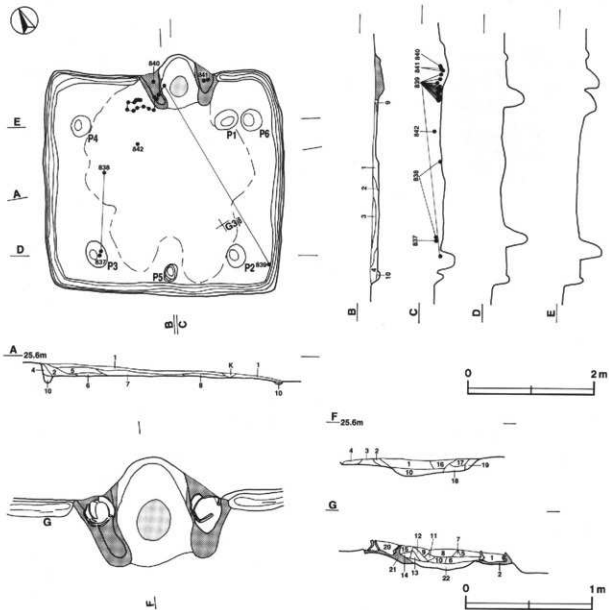
第82号住居跡出土遺物観察表 (第254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
695	土師器	環	12.5	3.7	6.6	灰石・石英	赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り。	北東部下層	75% PL110
696	土師器	高台付杯	[15.8]	5.5	9.6	灰石・石英	赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り。高台取り付け後ナデ。	北東部中層	45%
697	土師器	皿	[13.4]	3.2	7.6	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台取り付け後ナデ。	南東部中層	60% PL110
698	灰軸陶器	高台付杯	-	(2.7)	[7.0]	長石	灰白・灰緑	良好	底部回転ヘラ切り。高台取り付け後ナデ。	南東部中層	40%
699	灰軸陶器	壺	-	(5.2)	-	長石・石英	灰白・灰緑	良好	体部内面ナデ。	壺土中	5%

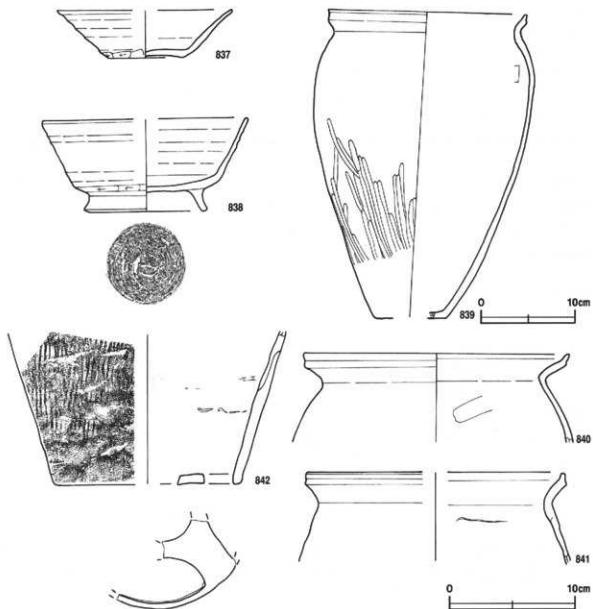
第96号住居跡 (第255・256図)

位置 調査区南部東寄りのG 3 i 7 区に位置し、台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第134号住居跡が位置している。

規模と形状 北西から南東への緩斜面部に立地するため、南東壁と南西壁の東寄りの立ち上がりは不明であるが、周囲する壁溝から規模は長軸3.71m、短軸3.43mの方形で、主軸はN-34°-Eであり、壁高は6~30cm



第255図 第96号住居跡実測図



第256図 第96号住居跡出土遺物実測図

で直立する。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4～8cmでほほ全周している。

竈 北西壁の中央部を壁外へ38cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅124cm、焚口部から煙道部までの長さ86cmである。火床部は床面を6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。両袖部とも補強材として土師器甕が逆位に付設されているが、袖部の遺存はわずかであり、竈周辺の床面から土師器甕片が多数出土している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|----------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

13	灰 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
14	暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・礫微量
15	灰 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・炭粒
16	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物微量
17	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・礫微量

18	暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
19	灰 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
21	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
22	暗赤褐色	焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量

ピット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さは19～38cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ28cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 10層からなる。北西から南東へ流れ込んだ状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック微量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
5	黒褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片390点(坏62・甕328)、須恵器片85点(坏32・高台付坏6・蓋1・鉢8・甕28・甌10)、鉄製品1点(不明)、土製品2点(不明)、鏝3点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが、特に竈周辺と南壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片19点、石器1点(磨石)が出土している。出土状況から837～840が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。また、袖部の補強材として、土師器が使用されている。

第96号住居跡出土遺物観察表(第256図)

番号	器別	器径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
837	須恵器	坏	113.8	3.8	6.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り、ヘラ削り	西部下層	60% PL110
838	須恵器	高台付	16.2	7.3	9.6	長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り、高台削り付け後、ナデ。	西部下層	60% PL111
839	土師器	甕	21.0	32.3	7.7	長石・石英	黄	普通	底部ヘラ削り、体内内面ヘラナデ。	北部下層	60% PL111
840	土師器	甕	21.0	(7.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体内内面ヘラナデ。	竈左袖	25%
841	土師器	甕	20.4	(7.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部内面輪傷痕を残すナデ。	竈右袖	10%
842	須恵器	甕	(12.0)	(14.8)	-	長石・石英	灰	普通	体内内面下部輪傷痕を残すナデ。	中央部中層	10% 多孔式

第102号住居跡(第257図)

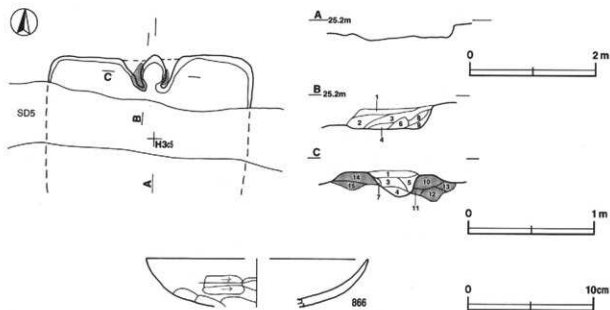
位置 調査区の南部東寄りのH3 b5区に位置し、台地縁辺部の北から南への緩斜面部に立地している。

重複関係 中央部を東西方向に第5号溝が掘り込んでいる。

規模と形状 北から南への緩斜面部に立地しているため、南壁の立ち上がりは不明で、確認できたのは長軸3.24m、短軸0.90mで、形状は長方形又は方形と推測され、主軸はN-3°-Eであり、壁高は4～13cmでは外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。炭滓は確認されなかった。

竈 北壁の中央部を壁外へ12cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部106cm、焚口部から煙道部までの長さ60cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は両袖部とも袖部下を掘り窪められ、焼土ブロックとロームを混ぜた埋土で基部を作り、さらに粘土で袖部を構築している。



第257図 第102号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 13 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 15 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | | |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量 | | |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 大部分が第5号溝に掘り込まれているため、堆積状況の判断が困難であるが、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片15点（坏14・壺1）が出土している。これらの遺物は北壁の覆土中層から下層を中心に出土している。出土土器はすべてが細片であり、図示できたのは866だけである。このほかには、混入した縄文土器片2点、剥片1点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片であるため、時期判断は困難であるが、8世紀以降と考えられる。

第102号住居跡出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
866	土師器	坏	[17.6]	(3.8)	-	灰白-灰黄-小灰7	明赤褐	普通	口縁部側面削ナリ、底部外面ヘラ削り	覆土中	20%	

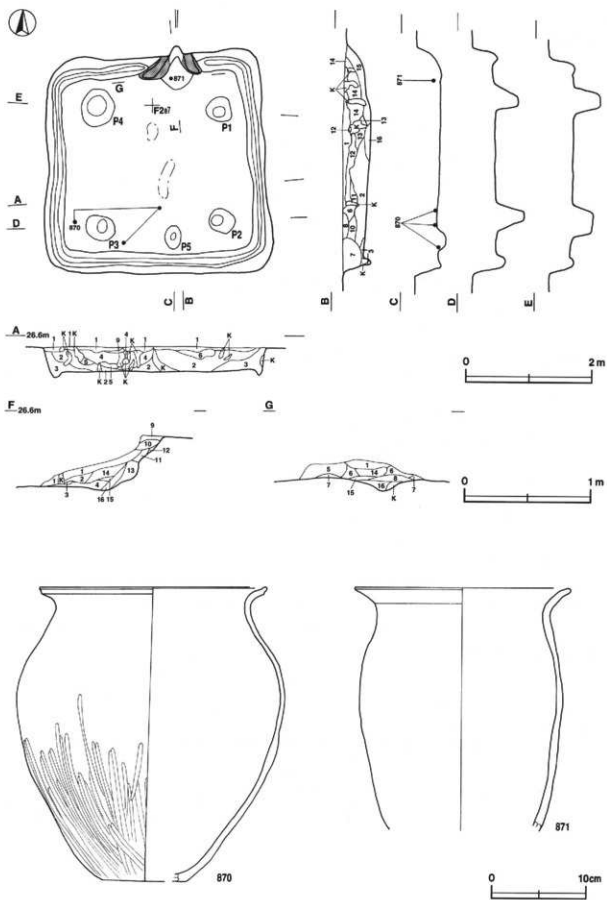
第109号住居跡（第258図）

位置 調査区中央部西寄りのF2e7区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第41号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸3.56m、短軸3.43mの方形で、主軸はN-10°-Wであり、壁高は33~50cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、特に中央部の一部が部分的に踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで全周している。

竈 北壁の中央部やや東寄りを壁外へ12cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅100cm、焚口部から煙道部までの長さ71cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められているが、焼土の広がりか確認できる程度で硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は破壊されているため遺存状



第258图 第109号住居跡・出土遺物実測図

態は不良である。

壁土層解説

- 1 暗 褐色 焼土粒子・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 3 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 暗 赤褐色 焼土粒子少量、粘土ブロック・砂粒微量
- 5 暗 褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 8 暗 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 9 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量
- 11 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 12 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 13 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 14 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 15 暗 赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 16 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さは30～40cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ15cmで、中央部から内壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック少量
- 7 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 暗 褐色 ロームブロック微量
- 10 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 11 黒 褐色 炭化粒子少量
- 12 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・砂粒微量
- 13 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 14 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 15 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 16 黒 褐色 炭化粒子・粘土ブロック少量、ロームブロック・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片253点(杯82・甕171)、須恵器片2点(杯1・蓋1)、土製品1点(不明)、雑4点が出土している。これらの遺物は南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片87点が出土している。出土状況から870・871は本跡に作うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。

第109号住居跡出土遺物観察表(第258図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
870	土師器	甕	23.8	31.1	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部内面ヘラナデ。底部本葉状。	南部下層	50% 外面に付着。PL111
871	土師器	甕	22.6	(25.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	頸部内面ヘラ削り後、ナデ。体部外面ヘラナデ。	壁下層	40% 外面に付着。PL112

第112号住居跡 (第259・260図)

位置 調査区中央部のF2e4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第150号住居跡、西に第163号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西コーナー部が第152号住居跡を、南東コーナー部が第120号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

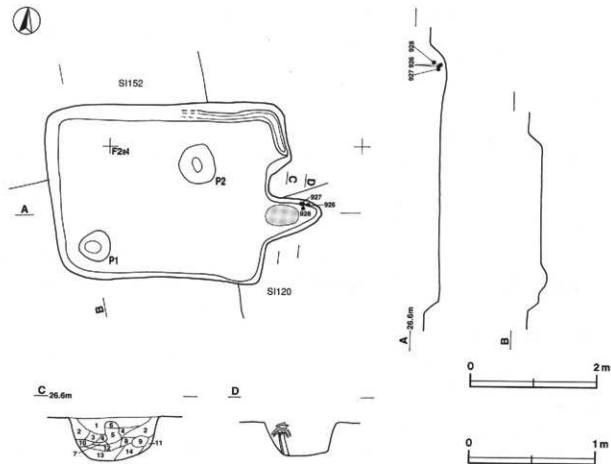
規模と形状 長軸3.30m、短軸2.88mの東西方向に長い長方形で、主軸はN-91°-Eであり、壁高は7~12cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで、北東コーナー部の壁下で検出している。

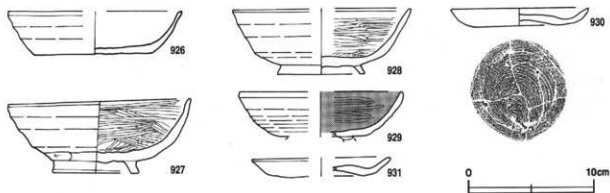
竈 東壁の中央部を壁外へ88cmほど掘り込み、袖部や天井部などは破壊されて遺存状態は不良である。規模は壁の掘り込み部分の幅78cm、焚口部から煙道部までの長さ96cmである。火床部は床面を4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。火床部から雲母片岩製の支脚が立位で出土し、その上に土師器杯、さらにその上に完形の上師器高台付杯2個体が逆位で重ねられて出土している。これらは支脚の高さを調節するために用いられたと考えられる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 2 暗赤褐色 砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
- 4 暗赤褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 5 に近い赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 に近い黄褐色 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量



第259図 第112号住居跡実測図



第260図 第112号住居跡出土遺物実測図

- 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック微量
 8 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量
 10 暗 褐色 ロームブロック少量
 11 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
 12 黒 褐色 炭化粒子・灰少量、焼土粒子微量
 13 赤 褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、灰微量
 14 暗 赤 褐色 灰微量

ピット 2か所。主柱穴はP1で、深さ12cmであり、南西コーナー寄りに位置している。P2は性格不明である。

覆土 攪乱部分を取り除いた後に、硬質の床面が確認され、遺構としたため、本跡に伴う覆土はない。

遺物出土状況 土師器片195点(坏80・高台付坏19・皿1・鉢1・甕94)、須恵器片23点(坏9・高台付坏2・甕11・瓶1)、土製品1点(支脚)が出土している。これらの遺物は室内及びその周辺の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した割片8点、礫7点が出土している。出土状況から927・928は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第112号住居跡出土遺物観察表(第260図)

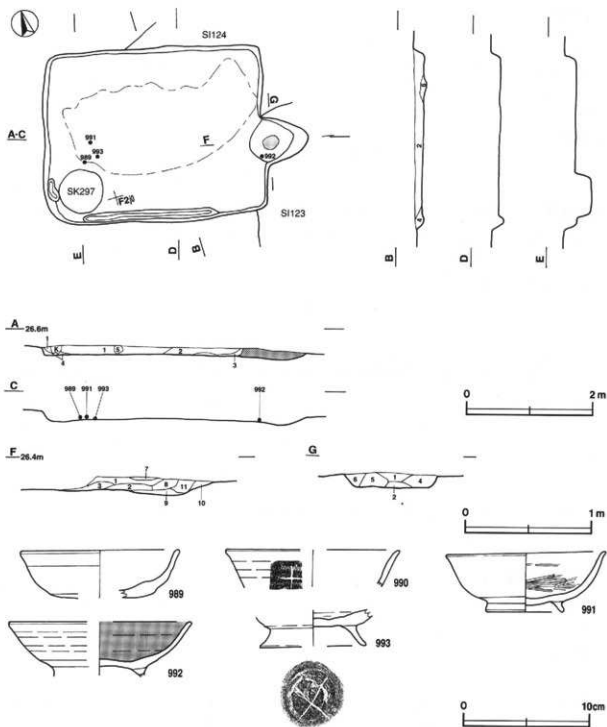
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
926	土師器	坏	[13.5]	3.4	9.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り。	覆下層	60%
927	土師器	高台付坏	[14.4]	6.0	6.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り、高台貼り付け、ナデ。	覆下層	60% PL111
928	土師器	高台付坏	[14.2]	5.2	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	高台貼り付け後、ナデ。	覆中層	50% PL111
929	土師器	高台付坏	[12.8]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	高台貼り付け後、ナデ。	覆覆土中	20%
930	土師器	小皿	11.0	1.4	7.1	長石・雲母	明赤褐	普通	底部内面口ロナデ、外面赤切り。	覆覆土中	80% PL110
931	土師器	小皿	[11.0]	1.4	[6.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部赤切り。	覆覆土中	20%

第121号住居跡(第261図)

位置 調査区中央部のF210区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第41号住居跡、南に第122号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北コーナー部が第124号住居跡・第403号土坑、南東壁が第123号住居跡をそれぞれ掘り込み、南西コーナー部を第297号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.58m、短軸2.72mの東西方向に長い長方形で、主軸はN-104°-Eであり、壁高は18~20cmではほぼ直立する。



第261図 第121号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8cmで、南壁の中央部の壁下で検出されている。

竈 南東壁の中央部を壁外へ66cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅74cm、焚口部から煙道部までの長さ96cmである。火床部は床面を4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がり、全体的に遺存状態は不良である。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 黒赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

覆土 6層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を表している。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片319点（坏146・高台付坏1・蓋1・甕170・不明1）、須恵器片74点（坏56・高台付坏4・甕14）、埴1点が出土している。これらの遺物は中央部及び南西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片26点が、弥生土器片3点が出土している。出土状況から992は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

第121号住居跡出土遺物観察表（第261図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	土色	構成	手法の特徴	出土位置	備考	
989	土師器	坏	12.6	3.7	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	西部下層	70% PL111
990	土師器	坏	13.8	(2.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り。	覆土中	5% 外周に黒色汗、丸口
991	土師器	高台付坏	12.6	4.9	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	西部下層	80% PL111
992	土師器	高台付坏	14.4	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	覆土層	60%
993	土師器	高台付坏	(2.9)	18.4	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り。	西部床面	赤褐色汗。

第122号住居跡（第262図）

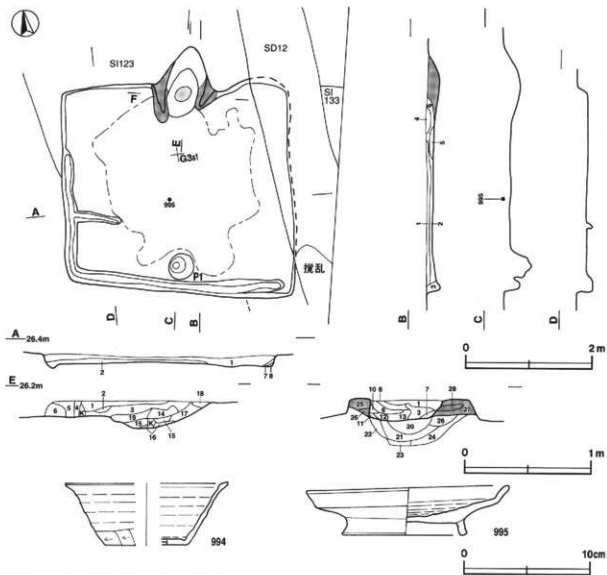
位置 調査区中央部のF2j0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第121号住居跡、北に第41号住居跡、南に第132号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部が第133号住居跡、北壁が第123号住居跡をそれぞれ掘り込み、東部を第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第12号溝に東部が掘り込まれているが、確認できたのは長軸3.65m、短軸3.20mで、形状は長方形と推測でき、主軸はN-11°-Eであり、噴高は16~24cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8~10cmで、西壁の中央部から南東コーナー付近の壁下で検出している。仕切り溝は深さ6~10cmで、西壁の中央部付近から中央部にかけて付設されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ64cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両輪部幅108cm、笑口部から煙道部までの長さ115cmである。新火床部は床面を12cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。旧火床部は新火床部下40cmほど掘り窪められ、その部分に焼土やローム混じりの暗赤褐色土や黒褐色土で埋土をして現火床部を作り使用していたので、作り替えが行なわれたと考えられる。



第262図 第122号住居跡・出土遺物実測図

竪土層解説

- 1 黒 褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 黒 褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 灰 黄 褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量
- 11 灰 褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗 赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 黒 褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 14 暗 赤 褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 15 にぶい赤褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 16 灰 黄 褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 17 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 18 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 19 黒 褐色 粘土粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 20 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック微量
- 21 暗 赤 褐色 粘土粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 22 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 粘土中ブロック少量, ロームブロック微量

- 23 黒褐色 ローム粘土・焼土ブロック・炭化粒子少量
 24 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粘土・砂粒少量、炭化粒子微量
 25 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粘土・炭化物微量
 26 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、ローム粘土・焼土粒子・砂粒少量、炭化物微量
 27 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック微量
 28 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量

ピット P1 は深さ28cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の自然堆積状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
 3 黒褐色 ロームブロック微量
 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 6 暗褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
 7 黒褐色 ローム粘土・焼土粒子・炭化粒子微量
 8 暗褐色 ローム粘土・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片307点（坏151・高坏2・甕153・手捏1）、須恵器片42点（坏21・高坏4・高盤8・甕9）、土製品3点（支脚1・不明2）、鉄製品1点（不明）が出土している。これらの遺物は全体的に覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片45点、弥生土器片2点、刷片2点が出土している。出土状況から995は本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第122号住居跡出土遺物観察表（第262図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
994	須恵器	坏	11.0	4.6	6.5	長石・雲母	黒褐色	良好	底部回転ヘラ切り、回転ヘラ削り。	覆土中	20%
995	須恵器	甕	15.9	4.0	9.5	長石・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り、高台削り付け、ナデ。	中央部中層	70%

第132号住居跡（第263図）

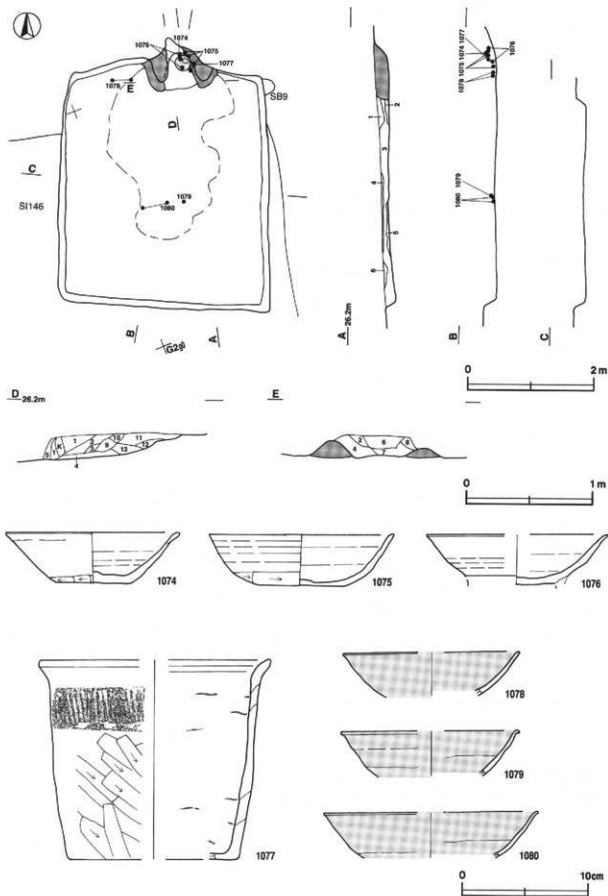
位置 調査区南部中央寄りのG2f0区に位置し、北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第121・122号住居跡、南に第161・169号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 第146号住居跡・第9号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.35mの長方形で、主軸はN-24°-Eであり、壁高は16cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、特に中央部が踏み固められている。床面は第146号住居跡に捨てられた焼土の上に東部はロームを混ぜた暗褐色土を突き固め、西部は投棄された粘土で作られており、東部に比べ西部が軟質である。

竈 北西壁の中央部を壁外へ36cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅118cm、焚口部から煙道部までの長さ82cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。袖部の遺存状態は不良である。また、火床部から土製支脚が立位で出土し、その上に土師器坏が逆位で出土している。これは土製支脚の高さを調節するために用いられたと考えられる。また、第112号住居跡でも同様の状況で出土している。



第263图 第132号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 3 灰 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 赤 褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 粘土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 灰 褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 灰 黄 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック少量
- 11 黒 褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 12 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量

覆土 6層からなる。北から流れ込んだ堆積状況を示している自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 灰 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒・礫微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒・礫微量
- 3 灰 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒・礫微量
- 4 灰 暗 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 灰 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片240点(坏107・高台付坏1・鉢1・甕131)、須恵器片62点(坏41・甕2・鉢2・甕17)、灰釉陶器片13点(皿1・甕5・不明7)、土製品1点(支脚)、鉄製品1点(不明)、礫4点が出土している。これらの遺物は南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片17点が出土している。出土状況から1074~1077は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

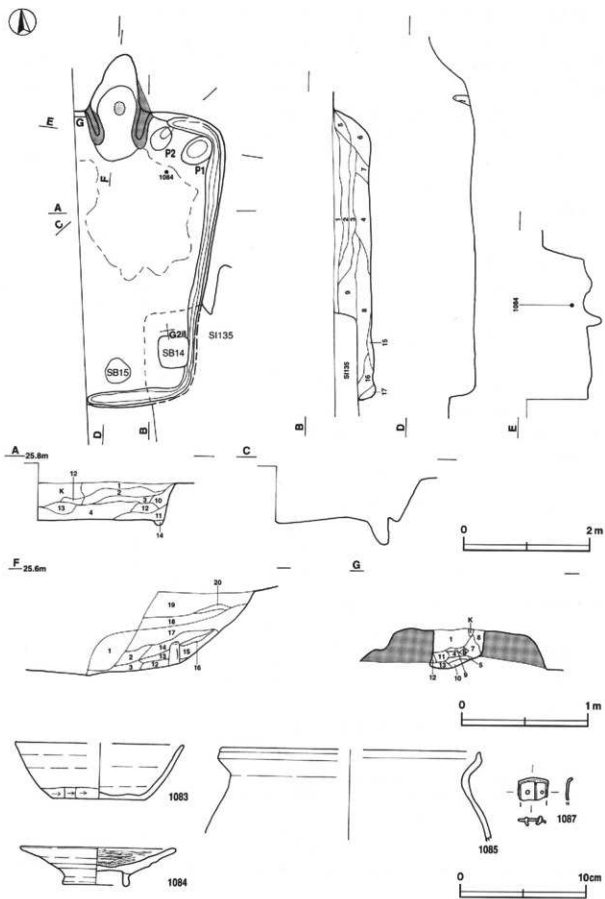
第132号住居跡出土遺物観察表(第263図)

番号	種別	器種	L1	径	器高	底径	胎土	色調	施装	手法の特徴	出土位置	備考
1074	須恵器	坏	13.8	4.1	5.9		長石・雲母	にぶい橙	普通	底部外面一方向のヘラ削り。	覆土中層	80% 二次焼成。PL111
1075	土師器	坏	14.8	4.0	7.0		長石・石英	赤褐色	普通	内面ヘラ削り。	覆土中層	90% 内面厚焼。PL112
1076	土師器	高台付坏	[14.4]	3.8	-		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部内面ヘラ削り後、ヘラ削り。	覆土下層	40% 高台部割傷。
1077	須恵器	鉢	[18.3]	15.8	[13.5]		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部両面黄ナデ。体部内面輪痕を残り、ナデ。	覆土中層	20%
1078	灰釉陶器	坏	[14.0]	(3.4)	-		緻密	オリーブ灰、灰黄	良好	体部両面ロクロナデ。上半部に施輪ハケ塗り。	北西部下層	20%
1079	灰釉陶器	坏	[14.0]	(3.5)	-		緻密	灰オリーブ、灰黄	良好	体部両面ロクロナデ。上半部に施輪ハケ塗り。	中央部下層	10%
1080	灰釉陶器	坏	[16.8]	(3.6)	-		緻密	灰オリーブ、灰白	良好	体部両面ロクロナデ。上半部に施輪ハケ塗り。	中央部下層	10%

第134号住居跡(第264図)

位置 調査区南部西寄りのG3h7区に位置し、台地縁部部の北から南への斜面部に立地している。西部は調査区域外である。周辺の同時期の遺構は北東に第122号住居跡、東に第96号住居跡、南に第200号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東コーナー部の上部を第135号住居跡・第14号掘立柱建物跡、南壁際中央部が第15号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。



第264图 第134号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 西部が調査区域外に伸びるため、確認できたのは長軸4.70m、短軸1.85mで、形状は竈の位置から長方形と推測される。主軸はN-9°-Eであり、壁高は24~65cmではほぼ直立する。

床 ほほぼ平型で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8~10cmで、調査した部分は全周している。

竈 北壁の中央部に壁外へ73cmほど張り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅95cm、焚口部から煙道部までの長さ172cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。焚口部の前面に焼土や粘土を埋めて床面を構築している部分がある。袖部は両袖とも遺存状態は不良で、ロームを掘り残した基部が露出し、その上に粘土を貼り付けて袖部を構築したと考えられる。また、火床部から土製支脚が立位で出土している。

覆土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
2 灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	12 灰褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗赤灰色	炭化物少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	13 暗赤褐色	炭化物少量、焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量	14 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
5 暗赤灰色	炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量	15 暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック微量
6 暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック少量	16 暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	18 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
9 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	19 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	20 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P2は深さ46cmで、竈の東脇に位置していることから、竈に関連した施設に伴うピットと考えられる。P1は深さ12cmで北東コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

覆土 17層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量	14 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	17 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片647点（坏82・高台付坏5・甕552・甎8）、須恵器片107点（坏47・蓋3・甕57）、土製品5点（支脚3・不明2）、鉄製品2点（刀子・不明）、銅製品1点（鉈尾）、鏝2点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層と竈内の覆土中から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片112点、割片2点や攪乱によって混入した陶器片2点が出土している。出土状況から1083は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。

第134号住居跡出土遺物観察表（第2614回）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	断面	土色	調度	手法の特徴	出土位置	備考
1083	須恵器	坏	113.5	4.5	7.3	取手・底付	赤褐色	普通	底面外面 方向のへら削り。	覆土中	10%
1084	土師器	高台付甕	12.2	3.0	5.0	長台付底付	明赤褐色	普通	底面内面へら削り。	北東部下層	65% PL112
1085	土師器	甕	20.6	(7.1)	-	取手・底付	赤褐色	普通	口縁部両面削り、身内面へら削り。	覆土中	5%

番号	器種	計測値				材質	容積	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
1087	瓦尾	(1.8)	2.3	0.6	(1.7)	銅	板2本、先端折り曲げ。	覆土中	PL118

第135号住居跡（第265図）

位置 調査区南部西寄りのG2i8区に位置し、台地縁辺部の北から南への斜面部に立地している。西部は調査区域外に伸びている。

重複関係 北西コーナー部が第134号住居跡を掘り込み、北東・北西・南西各コーナー部を第14号掘立柱建物跡、北東コーナー部を第15号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に伸びており、さらに擾乱を受けているため、確認できたのは長軸3.30m、短軸3.25mで、形状は長方形と推測される。主軸はN-4°-Wであり、壁高は20~30cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が窪に踏み固められている。壁溝は深さ8cmで、北東コーナー部から南壁の中央部の壁下で検出された。

竈 北壁の中央部を壁外へ64cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅106cm、焚口部から煙道部までの長さ102cmである。火床部は灰面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。東袖部は破壊され、基部のロームを掘り残した部分が残るだけである。火床部から竈の補強材に使用された雲母片岩が傾斜で出土している。

竈土層解説

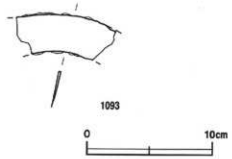
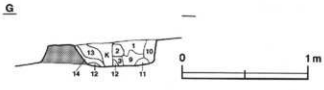
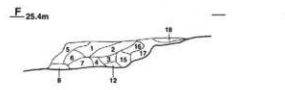
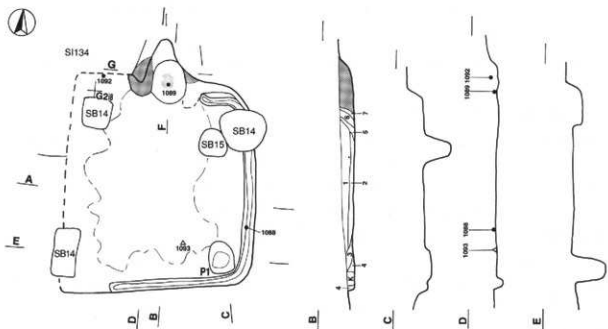
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
- 11 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 15 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 16 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 17 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 18 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット P1は深さ44cmで、南東コーナー部に位置しているため、性格不明である。

覆土 9層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第265图 第135号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片251点(坏83・堿168)、須恵器片34点(坏11・壺4・甕19)、土製品4点(支脚)、鉄製品1点(不明)、糠8点が出土している。これらの遺物は壺周辺と南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかに混入した縄文土器片38点や攪乱によって混入した陶器片1点出土している。出土状況から1088は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第135号住居跡出土遺物観察表(第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土色	調	焼成	手沢の特徴	出土位置	備考
1088	土師器	坏	[13.6]	4.6	6.8	長石・雲母	にぶい程	普通	体部内面へラ磨き。底器回転ヘラ切り。	南東部下層	80% 内面磨成。
1089	土師器	坏	[16.8]	(5.4)	-	長石・雲母	にぶい程	普通	口縁部外面横ナデ。	壺下層	10%、輪か
1090	土師器	坏	[17.6]	(5.3)	-	長石・雲母	にぶい程	普通	体部下端手持ちヘラ削り。	覆土中	10%
1091	土師器	坏	[13.2]	3.2	-	長石・雲母	にぶい程	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	20%
1092	土師器	甕	[19.0]	(6.3)	-	長石・石炭・雲母	にぶい程	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラ削り後、ナデ。	北西部下層	5%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1093	摩	(7.8)	3.0	0.2	(23.1)	鉄	刃部片	南部下層	

第137号住居跡(第266図)

位置 調査区南部西寄りのG2c6区に位置し、北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第170・177号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南壁が第138号住居跡を掘り込み、南壁際の中央部を第107号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.43m、短軸3.20mの方形で、主軸はN-9°-Eであり、壁高は24~32cmではほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、北壁を除いた壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅100cm、焚口部から煙道部までの長さ90cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。袖部はローンを掘り残した基部が残存しているだけである。

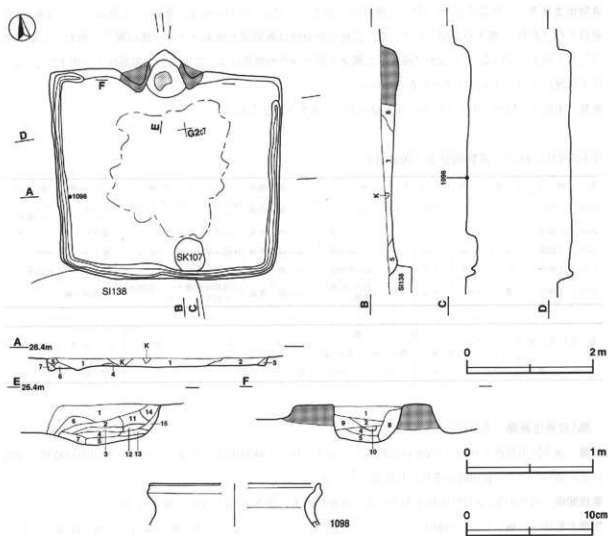
竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 9 暗褐色褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | ローン粒子・炭化粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子微量 | | |

覆土 8層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローンブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローン粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローンブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローンブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローンブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローン粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローンブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローンブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・塵埃量 |



第266図 第137号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片146点（坏63・高台付坏1・壺1・甕81），須恵器片36点（坏4・蓋2・甕30），土製品2点（不明），礫3点が出土している。これらの遺物は竈内及び各壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片91点，弥生土器片2点，剥片1点が出土している。出土状況から1098は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

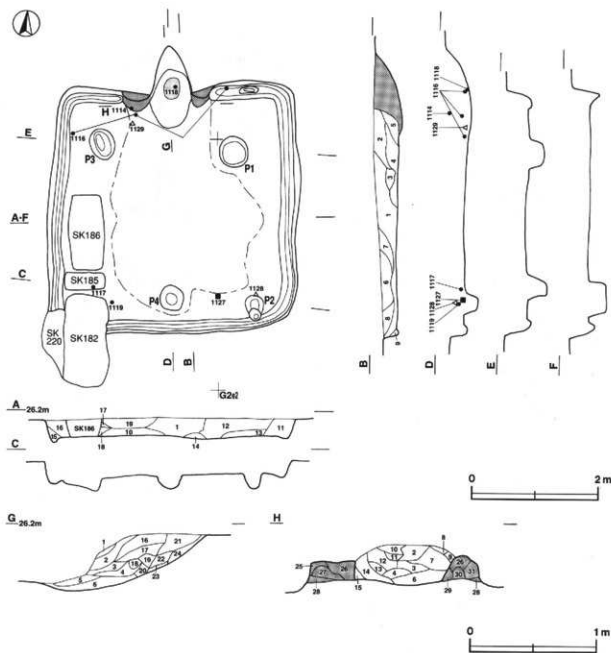
第137号住居跡出土遺物観察表（第266図）

番号	種別	器種	口径	器径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1098	土師器	甕	[13.6]	(3.4)	-		長石・石英・磁石	暗赤褐	普通	口縁部両面噴ナデ。	西部下層	10%

第140号住居跡（第267・268図）

位置 調査区西部南寄りのG 2 d1 区に位置し，北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第173・188・189号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 竈部分が第17号掘立柱建物跡を掘り込み，南西コーナー部を第182・185・220号土坑，西壁際中央



第267図 第140号住居跡実測図

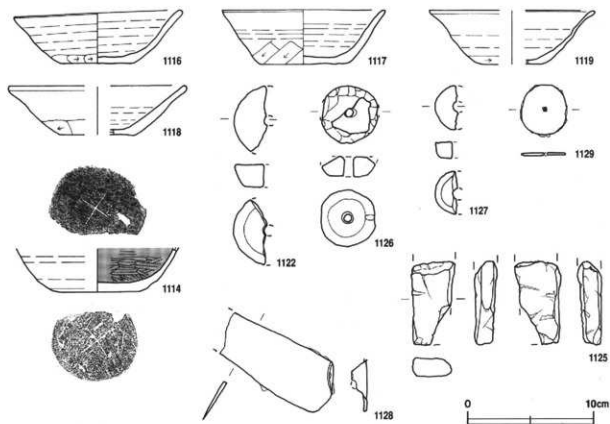
部を第186号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.96m, 短軸3.80mの方形で, 主軸は $N-0^\circ$ であり, 壁高は25~44cmで外傾して立ち上がる。床はほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで全周している。

竈 北壁の中央部を壁外へ73cmほど掘り込み, 焼土混じりの粘土で構築している。規模は両袖幅129cm, 竈口部から煙道部までの長さ129cmである。火床部は床面から6cmほど掘り窪められ, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は破壊されているが, 竈口部の状況から, あまり突出しない形状と考えられる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量



第268図 第140号住居跡出土遺物実測図

- | | | |
|----|--------|----------------------------|
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 | 極暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 8 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 9 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 10 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 12 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 13 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 14 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 15 | 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 | 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 17 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 18 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、粘土粒子・礫微量 |
| 19 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 20 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 21 | 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 22 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 23 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 24 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 25 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 26 | 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 27 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量 |
| 28 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 29 | 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 30 | 暗褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子・礫微量 |
| 31 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量 |

第145号住居跡 (第269図)

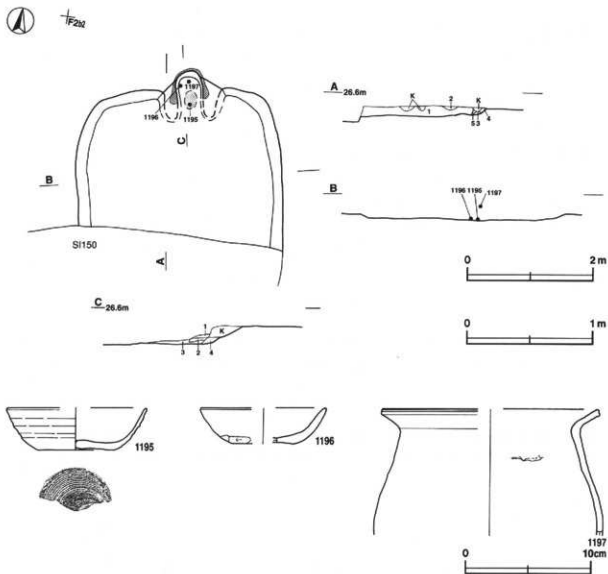
位置 調査区中央部西寄りのF 2 b 2 区で、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第109号住居跡、北東に第35号住居跡、北に第26号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南部を第150号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第150号住居跡に掘り込まれているため、確認できたのは長軸3.15m、短軸2.63mで、形状は長方形と推測され、主軸はN-8°-Wであり、壁高は6cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 北壁の中央部を壁外へ31cmほど掘り込んで構築しているが、大部分が破壊されており、確認できた規模は壁面の掘り込み幅77cm、焚口部から煙道部までの長さ101cmである。火床部は床面からわずかに掘り窪められ、焼土の広がりを確認できる程度で、硬化していない。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は破壊され、全容は不明である。火床部から土師器片が多く出土している。



第269図 第145号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒少量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量、粘土粒子微量

覆土 5層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒微量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量、粘土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片40点（環17・甕23）が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片76点が出土している。出土状況から1195～1197は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第145号住居跡出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1195	土師器	環	[11.0]	3.3	6.0	長石・雲母	にぶい褐色	普通	底部斜転削り	竈下層	50%
1196	土師器	環	[10.0]	2.8	2.5	短石・短砂	にぶい橙	普通	底部外面へ削り	竈下層	25%
1197	土師器	甕	[17.2]	[10.0]	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面輪線痕を残す。ナデ。	竈上層	10% 内面炭化物付着

第147号住居跡（第270図）

位置 調査区の中央部西寄りのF2b5区で、平坦部に立地している。

重複関係 第148号住居跡・第309号土坑に掘り込まれている。

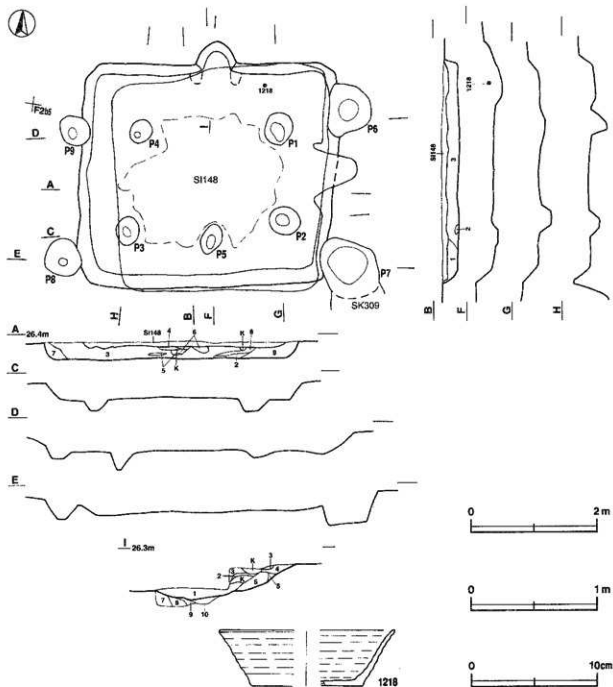
規模と形状 長軸4.00m、短軸3.57mの方形で、主軸はN-6°-Wであり、壁高は12～26cmで外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南壁際から焼土塊が出土しているので焼失家屋の可能性がある。

竈 北壁の中央部を壁外へ35cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土で構築していたと考えられるが、火床部の一部が確認できただけで、遺存状態は不良である。確認できた規模は壁面の掘り込み幅80cm、火床部から煙道部までの長さ80cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ、焼土の広がりを確認された程度で、硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。旧火床部は新火床部を14cmほど掘り込まれた部分に、焼土粒子や炭化物を含んだ黒褐色土を埋土として、新火床部が作られているので作り替えが行なわれた。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 粘土ブロック・砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



第270図 第147号住居跡・出土遺物実測図

ピット 9 か所。主柱穴はP1～4で、深さは10～29cmで、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ11cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。壁の外にあるP6～9は方形に配列されるので本跡に伴う壁柱穴と考えられ、上屋構造は他の遺構とは異なると考えられる。

覆土 9層からなる。焼土粒子や粘土ブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼上ブロック微塵
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微塵
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼上ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微塵
- 4 褐色 焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微塵

- 5 褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量
 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
 7 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 8 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子微量
 9 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片 8点（坏2・甕6）、須恵器片 2点（坏）が出土している。これらの遺物は竈周辺と南隣の覆土中から出土している。出土状況から1218は本跡に伴わない。このほかには、混入した縄文土器片 5点が出土している。

所見 本跡は、10世紀中葉の第148号住居跡に掘り込まれているので、時期は10世紀中葉以前と考えられる。また、焼土塊が床面から検出しているので焼失家屋と考えられる。

第147号住居跡出土遺物観察表（第270図）

表号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1218	須恵器	坏	[13.8]	4.4	8.6	灰白色粘土	褐色	良好	底部回転ヘラ切り。	北東部下層	30%

第148号住居跡（第271図）

位置 調査区中央部西寄りのF 2 b 5 区で、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第150号住居跡が位置している。

重複関係 第147号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.62m、短軸3.38mの方形で、主軸はN-79°-Eであり、壁高は6cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、竈前面が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ60cmほど掘り込み、粘土などで構築している。焚火部と火床部の一部が確認されただけで、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚火部から煙道部までの長さ100cm、袖部の基部の幅160cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、焼土の広がりや確認された程度で、硬化していない。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。旧火床部は床面を18cmほど掘り窪められ、その部分に焼土粒子や炭化物を含んだ暗赤褐色土で埋土をして、新火床部が作られているので作り替えが行われた可能性がある。

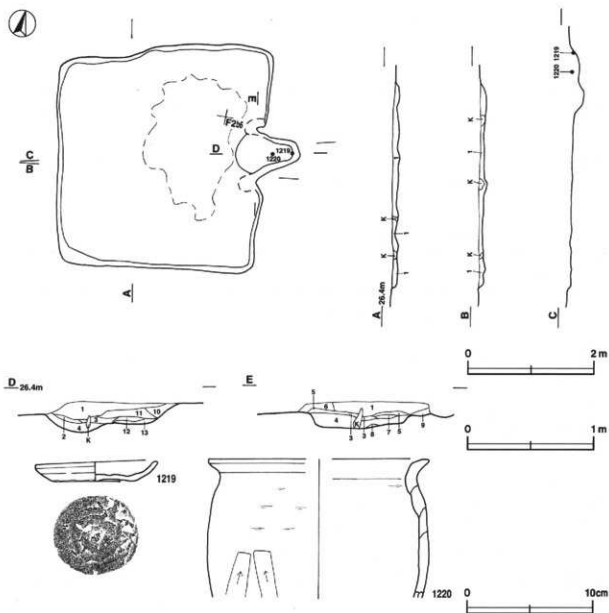
埋土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
 4 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
 5 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子微量
 6 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 9 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
 10 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 11 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量
 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量

覆土 単一層である。焼土ブロックや炭化粒子などを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量



第271図 第148号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片69点（坏14・高台付坏10・皿1・甕44）、須恵器片10点（坏6・甕4）、礫7点が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆土中から出土している。このほかに混入した縄文土器片12点が出土している。出土状況から1219・1220は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第148号住居跡出土遺物観察表（第271図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1219	土師器	皿	9.7	1.6	6.7	紅褐色粘土	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り。	竈下層	100% PL112
1220	土師器	甕	[17.4]	(11.1)	-	紅褐色粘土	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	竈中層	5%

第150号住居跡 (第272図)

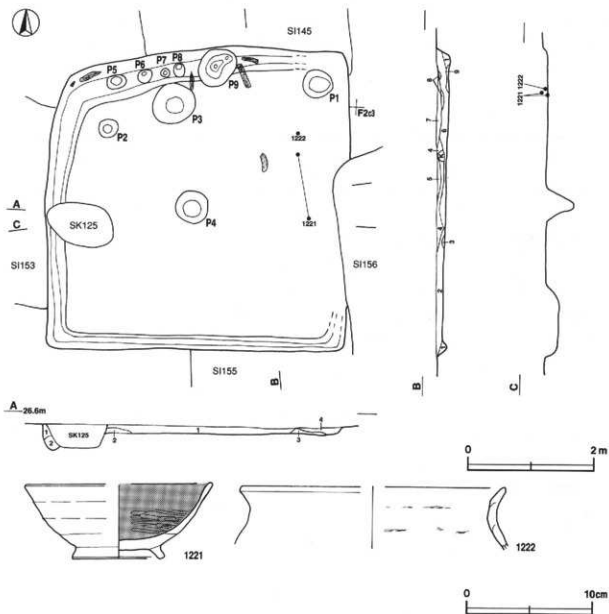
位置 調査区の中央部西寄りのF 2 c 2 区で、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第162号住居跡、南西に第165号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北壁が第145号住居跡、西壁が第153号住居跡、南東コーナー部が第155号住居跡、東壁が第156号住居跡を掘り込み、西壁中央部を第125号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m、短軸4.70mの方形で、主軸はN-2°-Wで、壁高は20cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、あまり踏み固められていない。壁溝は深さ5~10cmで、東壁下を除いて検出されているが、本来は、全周していたものと考えられる。北壁に沿って床面から炭化材が出土しているので焼失家屋の可能性がある。

竈 竈は確認されなかったが、東壁際の床面から粘土ブロックが検出され、東壁に付設されていたと考えられる。



第272図 第150号住居跡・出土遺物実測図

ピット 9か所。P5～8は深さ8～26cmで北壁溝の底面で確認されたことから、壁柱穴と考えられる。P1～4・9の性格は不明である。

覆土 9層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 romeブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 炭化物少量、romeブロック・焼土ブロック微量
- 3 褐色 romeブロック少量
- 4 暗赤褐色 炭化物少量、romeブロック・焼土ブロック・炭化材微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 炭化粒子少量、romeブロック・焼土ブロック微量
- 7 暗赤褐色 romeブロック・焼土粒子微量
- 8 暗赤褐色 rome粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 9 暗赤褐色 rome粒子・焼土粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片27点(環12・高台付環3・甕12)、須恵器片4点(環1・甕3)、石製品1点(不明)、漆1点、炭化材が出土している。これらは各層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片24点や撚煎によって混入した磁器片1点が出土している。北壁に沿って床面から炭化材が出土している。出土状況から1221は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉から後葉と考えられる。炭化材が北壁に沿った床面から出土しており焼失家屋と考えられる。

第150号住居跡出土遺物観察表(第272図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1221	土師器	高台付	[14.6]	5.9	7.3	5.0	黄褐色	普通	普通	北壁跡のつぎり、高台跡の片断など	東部中層	50% PL112
1222	土師器	甕	[20.8]	(4.8)	-	-	黄褐色	普通	普通	1層部西側面出土	北気部中層	5%

第153号住居跡(第273・274図)

位置 調査区の中央部西寄りのF2c1区で、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第173号住居跡、南西に第182号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 西壁が第246号土坑を掘り込み、東壁を第150号住居跡・第125号土坑に掘り込まれている。

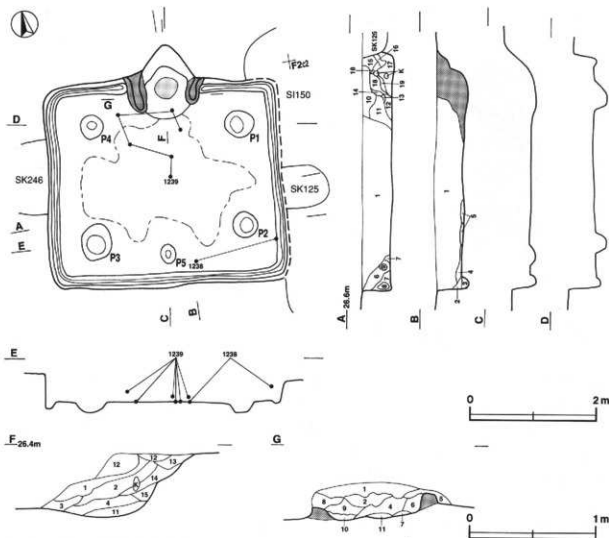
規模と形状 長軸3.30m、短軸3.25mの方形で、主軸はN-10°-Eであり、幅高は34～54cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。溝は深さ6～8cmでほぼ全周している。

竈 北壁の中央部を除外へ56cmほど掘り込み、rome混じりの粘土などで構築している。規模は両袖幅110cm、美1部から煙道部までの長さ117cmである。火床部は床面から12cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。東袖部はromeを掘り残して、その上に粘土を貼り付けて構築し、西袖部は粘土を境面に貼り付けて構築している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、romeブロック・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 romeブロック・粘土粒子・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・漆微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、romeブロック・焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 粘土ブロック中量、rome粒子・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 粘土粒子少量、romeブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 粘土ブロック中量、romeブロック・焼土ブロック少量
- 7 黒褐色 romeブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 におい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量、romeブロック・炭化粒子微量
- 9 におい黄褐色 粘土ブロック・砂粒・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 10 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量、砂粒微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、romeブロック・砂粒微量



第273図 第153号住居跡実測図

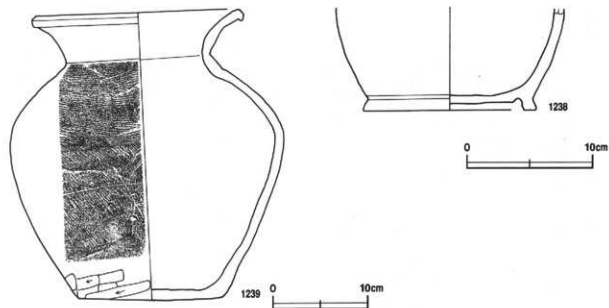
- 12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 13 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
 14 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 15 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さ18～22cmで、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ14cmで中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 19層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量 | 13 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化粒子少量、砂粒微量 | 14 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | 15 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 7 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 ロームブロック少量 |
| 9 暗褐色 炭化粒子少量 | 19 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | |



第274図 第153号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片285点(坏47・高台付坏2・鉢6・甕229・瓶1), 須恵器片99点(坏15・盤2・鉢7・短頸壺1・甕74), 灰軸陶器片2点(壺), 雲母片岩2点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片100点, 石器1点(打製石斧)が出土している。出土状況から1239は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第153号住居跡出土遺物観察表(第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1239	須恵器	甕	21.4	30.7	15.0	長石・石英・雲母	灰	良好	口縁部両面横ナデ, 底部外面ヘラ削り。	北部下層	80% PL.112
1238	須恵器	短頸壺	-	(8.1)	13.2	長石・黒色 砂子	灰	良好	底部両面ヘラ削り。	南東部中層	10% 底部内面に包漬痕。

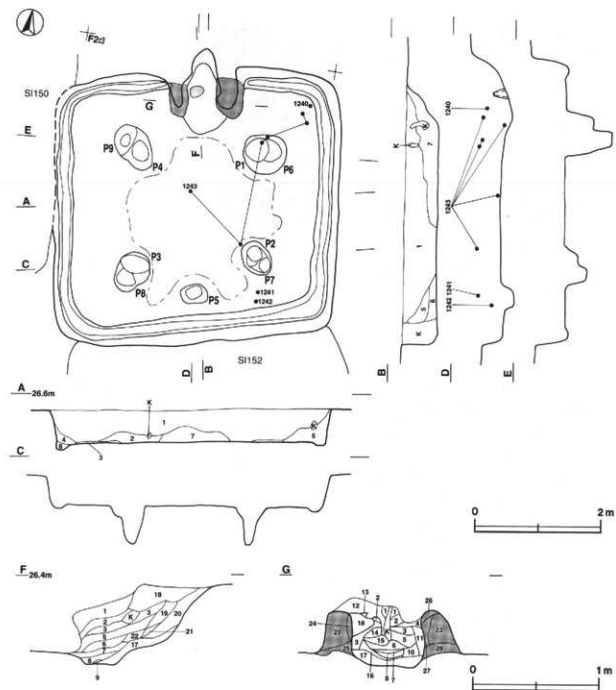
第156号住居跡(第275・276図)

位置 調査区の中央部西寄りのF2c3区で, 平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第27号住居跡, 南東に第118号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南壁が第152号住居跡, 南西コーナー部が第155号住居跡を掘り込み, 西壁が第150号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m, 短軸4.33mの方形で, 主軸はN-10°-Wであり, 壁高は35~58cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで全周している。

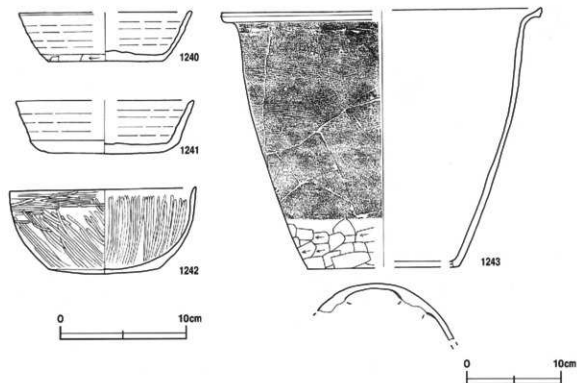
竈 北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み, ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅121cm, 焚き口から煙道部までの長さ134cmである。火床部は床面から12cmほど掘り窪められ, 火熱を受けて赤変硬化し, 煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は両袖部ともロームを掘り残して, その上に粘土を貼り付けて構築している。火床部から土製支脚が立位で出土している。



第275図 第156号住居跡実測図

竪土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・白色粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック・白色粒子少量、炭化物微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・白色粒子少量
- 11 灰褐色 白色粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量



第276図 第156号住居跡出土遺物実測図

- | | | |
|----|--------|-----------------------------------|
| 12 | 黄褐色 | 砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 13 | 明赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、粘土ブロック微量 |
| 14 | 暗赤褐色 | 炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量 |
| 15 | 暗赤褐色 | 炭化粒子・灰・砂粒微量 |
| 16 | 暗赤褐色 | 炭化粒子・粘土ブロック少量、灰・砂粒微量 |
| 17 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 18 | 黒褐色 | 粘土粒子・白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 19 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、粘土粒子・白色粒子微量 |
| 20 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 21 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 22 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 23 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵少量、ローム粒子微量 |
| 24 | 赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土ブロック・微塵微量 |
| 25 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量 |
| 26 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、微塵微量 |
| 27 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・微塵少量 |
| 28 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 |

ピット 9か所。主柱穴はP1～4で、深さ27～68cmで、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ14cmで中央部から南壁寄りに位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～9は深さ34～79cmで、P1～4に作り替えられる以前の主柱穴と考えられる。

覆土 8層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量、白色粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、白色粒子・塵少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片379点(坏162・甕216・瓶1)、須恵器片102点(坏31・蓋7・壺1・鉢2・甕33・瓶28)、土製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は竈前面及び北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片169点が出土している。出土状況から1243は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、1243の瓶の形状から9世紀前半と考えられる。

第156号住居跡出土遺物観察表 (第276図)

番号	類別	器種	口径	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1243	須恵器	瓶	[34.0]	27.2	16.0		鉄石・雲母	黄灰	普通	体部内面横ナデ	北東部中層	35%
1249	須恵器	坏	[13.6]	3.9	9.0		長石・石英	にふい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り	北東部中層	50% PL112
1241	須恵器	坏	[14.0]	4.3	9.2		長石・雲母	にふい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、一方角のヘラ削り	南東部中層	50%
1242	土師器	輪	14.8	6.9	8.6		灰・鉄石・雲母	橙	普通	底部外面ヘラ削り後、ヘラ削り	南東部下層	90% PL112

第161号住居跡 (第277図)

位置 調査区南部H2a0区に位置し、台地縁辺部で北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第199号住居跡が位置している。

重複関係 南部を第169号住居跡・第13号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 斜面部に立地しているため南壁の立ち上がり不明で、確認できたのは長軸3.98m、短軸3.65mの東西に長い長方形で、主軸はN-16°-Eであり、壁高は6~20cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平里で、竈前面が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ12cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅72cm、笑口部から煙道部までの長さ56cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は両袖部がわずかに遺存している。火床部の西側から石製支脚が立位で出土し、その上に土師器小形甕を被せたような状態で出土し、支脚に転用したと考えられる。

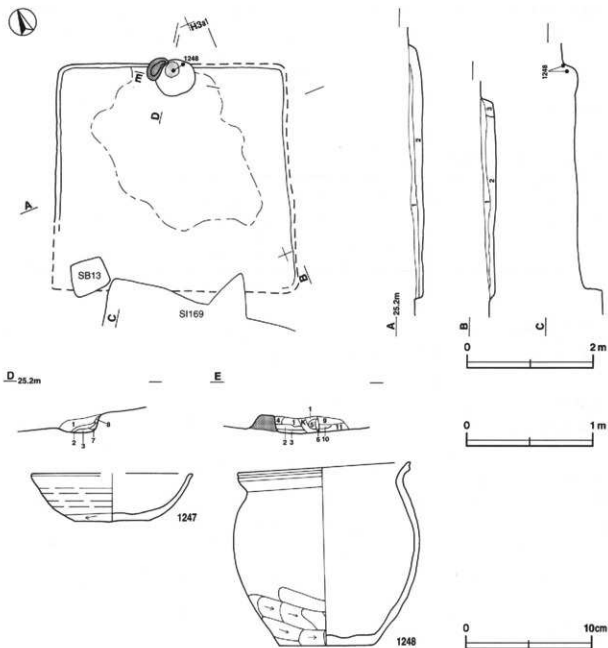
遺土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 にふい赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 11 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

覆土 3層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



第277図 第161号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片192点(坏52・堿140), 須恵器片34点(坏22・蓋1・堿11), 礫17点が出土している。これらの遺物は竈周辺から覆土下層に多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片191点が出土している。出土状況から1248は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第161号住居跡出土遺物観察表(第277図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1247	土師器	坏	[12.7]	3.8	5.9	灰石・石炭質	灰褐	普通	底部外面一方向のヘラ割り。	覆土中	40%
1248	土師器	堿	13.7	14.5	7.3	灰石・石炭質	にぶい赤褐色	普通	口縁部両面横ナデ, 底部外面ナデ。	竈中層	80% PL112

第162号住居跡（第278図）

位置 調査区中央部のF 2 g 2 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第165号住居跡が位置している。

重複関係 北東部を第499号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.72m、短軸3.10mの長方形で、主軸はN-95°-Eであり、早高は37~42cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は北東コーナー部から西壁の中央部の壁下で検出されている。

竈 東壁の中央部やや南寄りを壁外へ17cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅99cm、竈口部から煙道部までの長さ108cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は南袖部が攪乱のため遺存状態は不良である。

竈土層解説

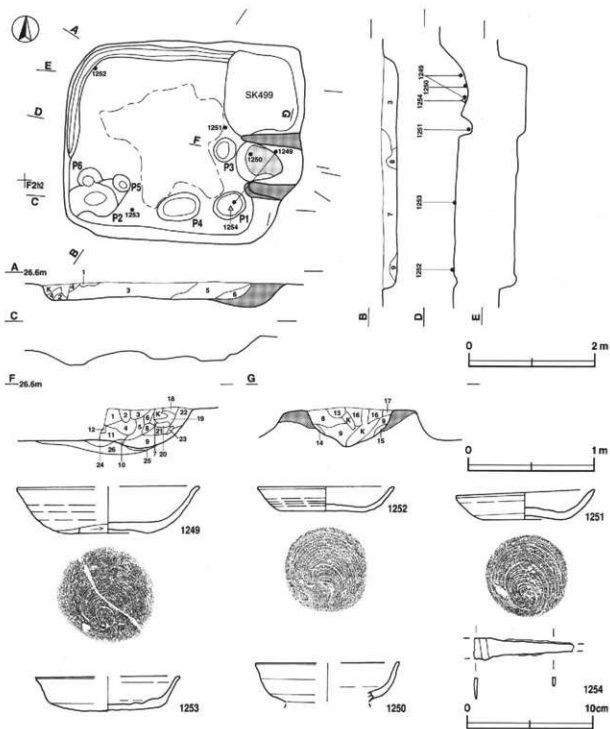
- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 赤褐色 焼土ブロック微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
- 12 黒褐色 焼土ブロック微量
- 13 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量・砂粒微量
- 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 16 暗赤褐色 砂粒少量・焼土ブロック微量
- 17 赤褐色 焼土ブロック・砂粒微量
- 18 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 20 暗赤褐色 焼土粒子少量・炭化粒子微量
- 21 暗赤褐色 炭化粒子少量・焼土粒子微量
- 22 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 23 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量・炭化粒子・砂粒・白色粒子微量
- 24 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 25 暗赤褐色 炭化粒子少量・焼土ブロック微量
- 26 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 6か所。主柱穴は不明で、P1~6はいずれも性格は不明である。

覆土 9層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック少量
- 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量



第278図 第162号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片247点(坏100・皿4・甕141・瓶2), 須恵器片50点(坏14・蓋6・甕30), 灰釉陶器片3点(碗), 土製品2点(不明), 鉄製品1点(刀子), 礫11点が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片85点や攪乱によって混入した瓦片1点が出土している。出土状況から1249～1251は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられ、当遺跡では最終期に属する住居跡である。

第162号住居跡出土遺物観察表 (第278図)

番号	種別	器型	口径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1249	土師器	坏	14.1	3.3	5.1		灰白色粘土	明赤褐色	普通	各面丁寧にヘラ削り、底部は手削り。	竈下層	15%
1250	土師器	高台付坏	11.3	3.0			灰白色粘土	にぶい褐色	普通	体部両面横ナリ。	竈上層	20%
1251	土師器	皿	11.0	2.4	6.6		灰白色粘土	赤褐色	普通	底部回転糸切り。	東部床面	100% PL112
1252	土師器	皿	10.6	2.0	6.5		灰石・炭母	褐色	普通	底部回転糸切り。	北西部床面	95% PL112
1253	土師器	坏	14.4	2.7	9.0		灰石・炭母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り。	南西部床面	70%

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1254	刀子	(8.1)	1.8	0.3	(14.5)	鉄	基部片、刃面。	P4下層	PL118

第163号住居跡 (第279図)

位置 調査区中央部西寄りのF1e0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第112号住居跡が位置している。

重複関係 南西コーナー部が第238号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.77m、短軸2.94mの東西に長い長方形で、主軸はN-7°-Wであり、壁高は12~37cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで東壁下の一部で検出された。

竈 北壁の中央部やや東寄りを壁外へ70cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅68cm、狭口部から煙道部までの長さ97cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。東袖部の遺存状態は不良である。

竈土層解説

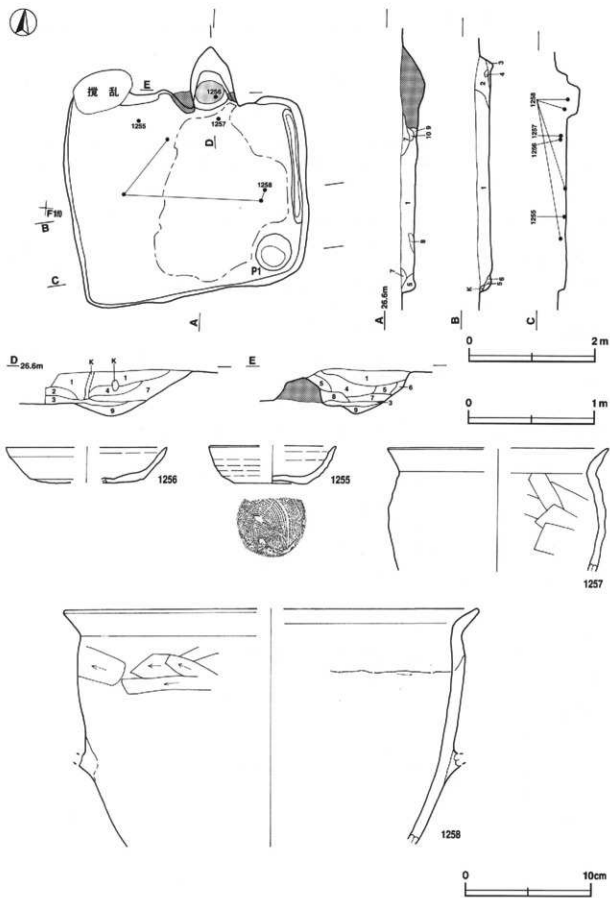
- 1 暗 褐色 炭化粒子少量、焼上ブロック・黒色粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼上ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 赤褐色 炭化粒子少量、焼上ブロック・黒色粒子微量
- 4 暗 赤褐色 焼上ブロック・炭化物・黒色粒子微量
- 5 暗 赤褐色 焼上ブロック中量、ロームブロック・粘上ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック中量、焼上ブロック微量
- 7 暗 赤褐色 粘上ブロック中量、ロームブロック少量、焼上ブロック微量
- 8 暗 赤褐色 焼上ブロック・粘上ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物・白色粒子微量
- 9 赤 褐色 焼上ブロック少量、炭化粒子微量

ピット P1は深さ20cmで、中央部から南東コーナー寄りに位置し、性格は不明である。

覆土 10層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼上ブロック・炭化粒子・粘上粒子微量
- 2 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼上ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼上ブロック・炭化物微量
- 4 にぶい黄褐色 炭化粒子・粘上粒子少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 炭化粒子微量
- 7 暗 褐色 炭化粒子少量、焼上粒子微量
- 8 暗 褐色 ロームブロック・焼上粒子・炭化粒子微量
- 9 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 10 黒 褐色 焼上ブロック・炭化物微量



第279图 第163号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片247点（坏131・鉢1・甕115）、須恵器片23点（坏16・甕7）が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆上下層から多く出土している。第279図の1255は竈西脇の覆上下層から、1256・1257は竈の覆土中層から、1258は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。このほかには、混入した縄文土器片40点、割片7点が出土している。出土状況から1256～1258は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第163号住居跡出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1255	土師器	坏	[10.0]	2.9	5.8	灰赤粘土	橙	普通	底部回転未切り	北部下層	50% Pt.112
1256	土師器	坏	[12.8]	2.8	[8.6]	灰赤粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	竈中層	20%
1257	土師器	甕	[17.6]	[9.8]	-	灰石・石灰	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ, 底部回転ナデ	北部中層	10%
1258	土師器	甕	[32.6]	[18.9]	-	灰赤粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	中央部下層	12% 赤千土

第165号住居跡（第280図）

位置 調査区中央部西寄りのF1g0区に位置し、平坦部に立地している。西部は調査区域外へ伸びる。周辺の同時期の遺構は西に第162号住居跡が位置している。

重複関係 第166・168号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる

規模と形状 西部は調査区域外へ伸びるため、確認できたのは長軸2.67m、短軸2.30mで、形状は方形と推測でき、主軸はN-90°-Eであり、壁高は32cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。竈の北側の床面から炭化物や焼土の広がり確認でき、焼失家屋の可能性がある。

竈 南東コーナー部を壁外へ48cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅94cm、焚口部から煙道部までの長さ79cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。火床部から土師器坏・高台付坏・甕などが多く出土し、また、袖部や竈の覆土中から補強材に使用された雲母片岩が出土している。

覆土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
- 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量

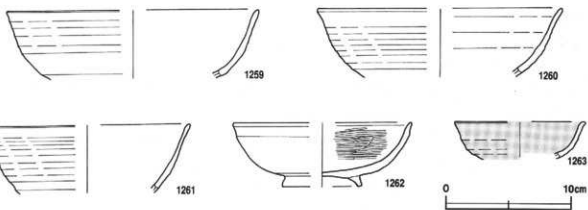
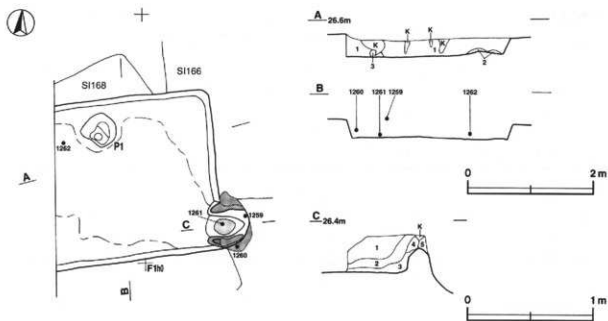
ピット P1は深さ26cmで、北壁際に位置し、性格は不明である。

覆土 3層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片275点（坏149・甕125・瓶1）、須恵器片24点（坏8・甕15・瓶1）、緑釉陶器片1点（碗）、漆7点が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆上下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片42点、弥生土器片1点が出土している。出土状況から1259～1261は本跡に伴うと考えられる。
所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後半と考えられ、コーナー竈は数少ない調査例である。また、炭化物や焼土が床面に広がるので焼失家屋と考えられる。



第280図 第165号住居跡・出土遺物実測図

第165号住居跡出土遺物観察表（第280図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1259	土師器	坏	[19.6]	(5.5)	-	灰白色粘土	にぶい赤褐色	普通	体部下端手持へつくり後、ナデ。	覆上層	10%
1260	土師器	坏	[19.4]	(5.4)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	体部下端手持へつくり後、ナデ。	覆下層	10%
1261	土師器	坏	[16.0]	(5.5)	-	灰白色粘土	にぶい赤褐色	普通	体部内面横ナデ。	覆下層	10%
1262	土師器	高台作坏	[14.0]	5.1	[6.4]	灰白色粘土	にぶい黄褐色	普通	底部内へつくり、高台作り付け後、ナデ。	北西部下層	20%
1263	緑釉陶器	碗	[10.2]	(2.9)	-	石英	青-灰 緑	良好	体部両面口タロナデ。	覆土中	5%

第166号住居跡 (第281図)

位置 調査区中央部西寄りのF1g0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第153号住居跡が位置している。

重複関係 南西部が第165号住居跡に掘り込まれている。また、大部分が攪乱を受けている。

規模と形状 重複関係や攪乱を受けているため、確認できたのは長軸3.00m、短軸2.70mで、形状は方形と推測でき、主軸はN-85°-Eであり、壁高は39cmで外傾して立ち上がる。

床 は平坦であり、中央部・北東部・南部が攪乱を受けているため、残存部分はわずかである。

竈 東壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、粘土などで構築している。攪乱を受けているため煙道部が確認できただけであり、規模は壁の掘り込み幅67cm、焚口部から煙道部にかけての長さ71cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けているが、硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。また、竈内から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

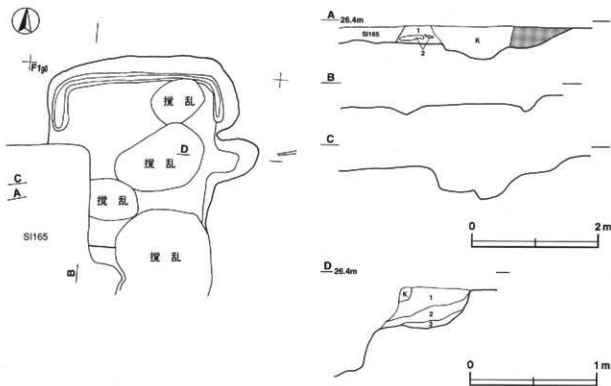
- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

覆土 2層からなる。ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片29点(坏13・甕16)、須恵器片6点(坏3・甕3)、礫8点が出土している。これらの遺物は、竈周辺の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片8点が出土している。竈から出土している土師器片はほとんどが体部片である。出土状況から本跡に伴う遺物はない。



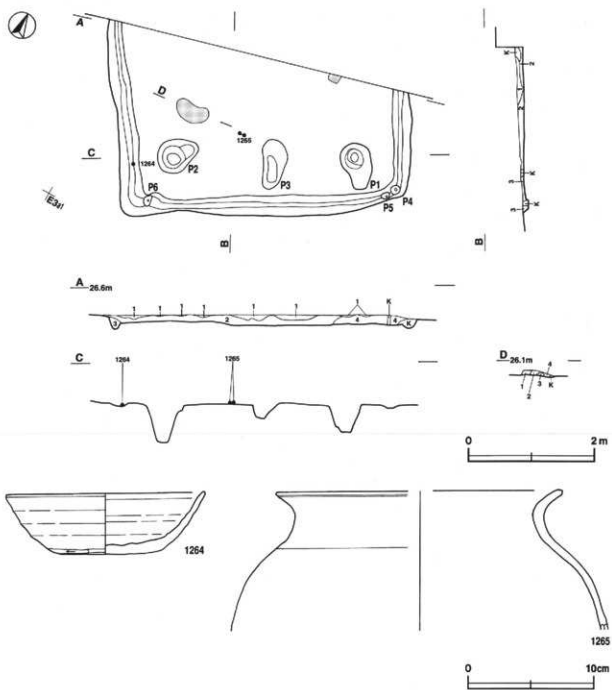
第281図 第166号住居跡実測図

所見 竈から出土している土師器壺片はほとんどが体部片で、時期判断は困難であるが、7世紀中葉の第168号住居跡を掘り込み、10世紀後葉の第165号住居跡に掘り込まれ、覆土から出土の土器も9世紀代のものが多く、時期は9世紀から10世紀と考えられる。

第167号住居跡 (第282図)

位置 調査区中央部のE3j1区に位置し、平坦部に立地している。北部が調査区域外へ伸びる。周辺の同時期の遺構は西に第153号住居跡が位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ伸びるため、確認できたのは長軸4.66m、短軸2.05mで、形状は方形または



第282図 第167号住居跡・出土遺物実測図

長方形と推測でき、主軸はN-27°-Wであり、壁高は21cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ8cmで、調査された部分の壁下を全周している。床面からは焼土塊が確認され、焼失家屋と考えられる。

焼土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|------|-----------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

竈 確認されなかったが、柱穴の配置から調査区域外の北西壁に付設されると推測される。

ピット 6か所。主柱穴はP1・2で、深さ43・58cmであり、コーナー寄りに位置している。P3は深さ25cmで、中央部の南西寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられ、P4～6は壁溝の底面と確認され壁柱穴と考えられる。

覆土 4層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片57点(坏14・甕43)、須恵器片6点(坏)、礫2点が出土している。これらの遺物は中央部及び南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片12点が出土している。覆土下層から炭化材が出土し、床面からは焼土塊が確認され、焼失家屋と考えられる。出土状況から1265は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。炭化材や焼土が確認されているので焼失家屋である。

第167号住居跡出土遺物観察表(第282図)

番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1264	須恵器	坏	15.6	4.8	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転へう切り後、回転へう削り。	南西部下層	90% 二次焼成。PL112
1265	土師器	甕	[22.6]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	にぶ黄橙	普通	L線部両面横ナデ。体部上半部両面ナデ。	中央部下層	10%

第169号住居跡(第283・284図)

位置 調査区南中央寄りの日2 b0区に位置し、台地縁辺部の北から南への斜面に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第162・163号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西部が第161号住居跡を掘り込んでいる。

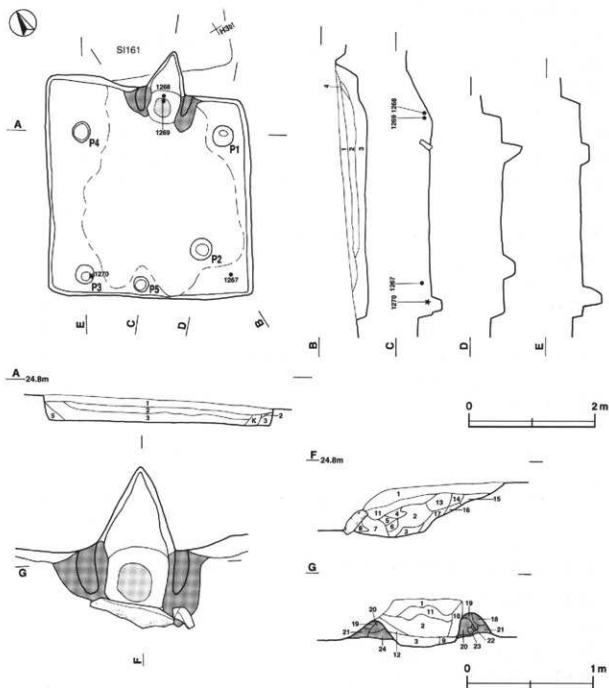
規模と形状 長軸3.50m、短軸3.42mの方形で、主軸はN-38°-Eであり、壁高は20~40cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北東壁の中央部を壁外へ64cmほど掘り込み、粘土と板状の雲母片岩で構築している。規模は両袖幅118cm、焚口部から煙道部までの長さ114cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。東袖部はロームを掘り残し、その上に粘土を貼り付けて構築している。両袖の端部から雲母片岩の板石が立位で出土し、その上に板状の雲母片岩をのせて、焚口部を構築したと考えられる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |



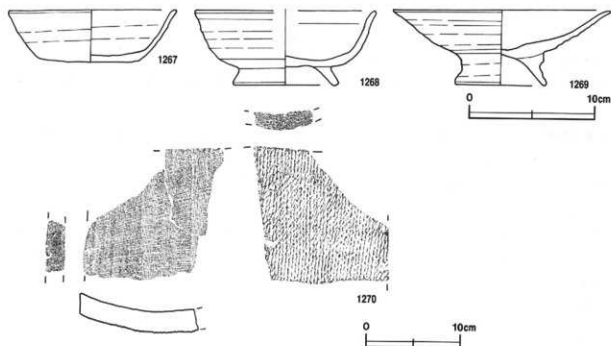
第283図 第169号住居跡実測図

- 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量
 10 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
 11 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
 12 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
 13 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
 14 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 15 黒褐色 焼土ブロック少量
 16 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

- 17 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
 18 黒褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量
 19 黒褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 20 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 21 黒褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 22 にぶい黄褐色 粘土粒子多量
 23 黄褐色 粘土粒子多量
 24 黒褐色 焼土ブロック微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さは14～34cmであり、各コーナー部に位置している。P5は深さ20cmで、中央部から南西隅寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。北から南へ流れ込んだ自然堆積の状況を示している。



第284図 第169号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片206点（坏56・高台付坏1・鉢2・甕146・不明1）、須恵器片40点（坏15・蓋6・甕19）、灰釉陶器片2点（壺）、瓦片1点が出土している。これらの遺物は南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。また、竈部分から竈の補強材として利用した板状の雲母片岩が重なり合って出土している。このほかには、混入した縄文土器片123点、剥片6点が出土している。出土状況から1268・1269は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。

第169号住居跡出土遺物観察表（第284図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1267	須恵器	坏	13.2	4.2	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り。	南部上層	70% 二次焼成。器底厚減。PL113
1268	土師器	高台付坏	[14.3]	5.9	8.1	長石・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	竈下層	80% 二次焼成。片厚へり過ぎの痕跡。
1269	土師器	高台付坏	17.2	6.0	7.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部高台貼り付け後ナデ。	竈下層	90% PL113

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1270	平瓦	(13.9)	(15.2)	2.2	(572.0)	土製	西面横骨筋。春日痕。凸面縄目叩き。	南部中層	PL114

第173号住居跡（第285・286図）

位置 調査区中央部西寄りのF 2 J 2区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第167号住居跡、南東に第188・189号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東壁が第172号住居跡、南西コーナー部が第174号住居跡を掘り込み、第16号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.60m、短軸4.32mの南北方向に長い長方形で、主軸はN-1'-Eであり、壁高は40～54cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6～12cmで、南西コーナー部を除いてほぼ全周している。

竈 北壁の中央部に壁外へ46cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅131cm、突口部から煙道部までの長さ100cmである。火床部は床面から6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

遺土層解説

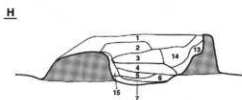
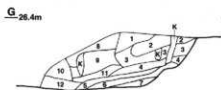
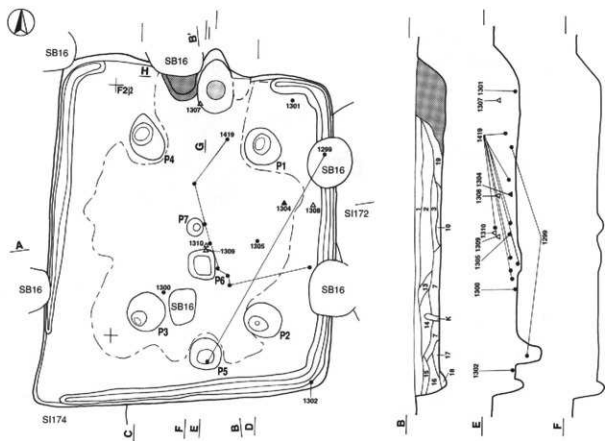
- 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 に近い黄褐色 粘土粒子中量・焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 灰少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量
- 8 暗 赤 褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 9 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗 赤 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 褐 灰色 灰少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 14 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 15 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 7か所。主柱穴はP1～4で、深さ60～68cmで、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ37cmで、南壁際の中央寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は深さ10・12cmで、中央部に位置し、性格は不明である。

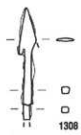
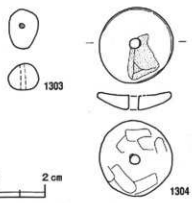
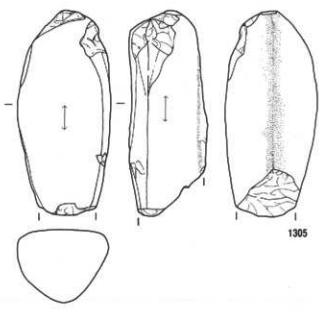
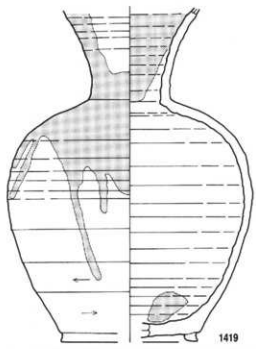
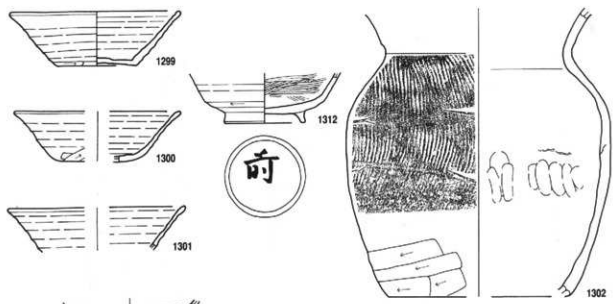
覆土 19層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

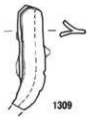
- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 焼土ブロック微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 9 黒 褐色 ロームブロック微量
- 10 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 11 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 13 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 14 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 15 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 16 黒 褐色 ロームブロック微量
- 17 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 18 黒 褐色 ロームブロック微量
- 19 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



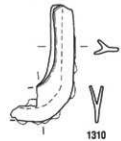
第285图 第173号住居跡実測图



1308



1309



1310



第286图 第173号住居跡出土遺物実測图

遺物出土状況 土師器片1154点（坏483・高台付坏1・甕670）、須恵器片436点（坏249・高台付坏4・葺7・甕173・甌3）、土製品4点（土玉1・鈴輪車1・支脚1・不明1）、石器1点（砥石）、鉄製品5点（鍬2・刀子1・鋤先2）、鉄滓1点が出土している。これらの遺物は中央部及び東壁の覆土中層から下層にかけて多く出土している。1419は中央部の覆土中層から上層にかけて出土しているため、本跡の埋没過程で窪みに廃棄されたものと考えられ、本跡を掘り込んでいる第16号掘立柱建物跡の遺物の可能性も考えられる。このほかには、混入した縄文土器片307点、弥生土器片15点、石器6点（石鏃1・剃片5）が出土している。出土状況から1299～1301は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第173号住居跡出土遺物観察表（第286頁）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1299	須恵器	坏	13.3	4.3	6.2	粘土質粘り	オリーブ黒	普通	東部回転車ヘリ。一方のヘリ面。	東部下層	70% PL112
1300	須恵器	坏	(13.0)	4.0	(5.6)	長石・石英	黄灰	普通	底部外周。一方のヘリ面。	東部下層	20%
1301	須恵器	坏	(14.0)	(3.4)	-	粘土質粘り	にぶい色	普通	体部内周に傾斜を残すナデ。	南東部下層	35% 二次焼成
1302	須恵器	甕	-	(22.8)	14.4	長石・石英	黄灰	普通	東部外周にヘリ。表面かけ塗り。	覆土中層	50% PL113
1419	須恵器	長頸甕	-	(36.6)	(10.6)	長石・石英	オリーブ、灰	良好	東部外周にヘリ。表面かけ塗り。	覆土中層	50% PL113

番号	器種	測定値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1303	土玉	1.6	1.1	0.2	2.0	土製	外面ナデ。	覆土中	
1305	砥石	(16.3)	7.3	5.8	1040.0	安山岩	砥石3箇。	東部下層	PL117
1308	鍬	(8.9)	(1.9)	0.5	(11.2)	鉄	逆刺。一部欠損。	東部中層	PL118
1309	鋤先	(8.3)	(2.7)	1.3	(23.5)	鉄	先込式の鋤先。内面にV字状の溝を有する。	中央部上層	20% 東部1箇
1310	鋤先	(9.3)	(5.0)	1.2	(37.5)	鉄	先込式の鋤先。内面にV字状の溝を有する。	中央部上層	PL118

番号	器種	測定値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1304	鈴輪車	5.9	1.1	0.8	40.2	土製	下面ヘリ面。	東部下層	PL115

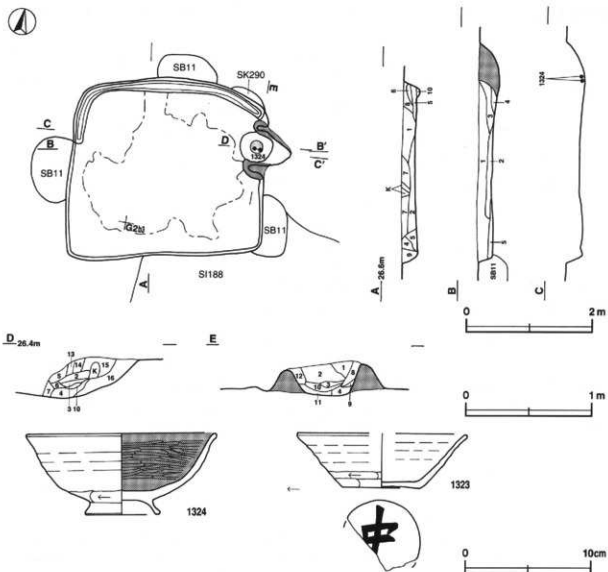
第176号住居跡（第287頁）

位置 調査区の中央部西寄りのG 2 a3 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に重複する第188号住居跡、東に第189号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東コーナー部が第188号住居跡、北西コーナー部が第288号土坑、北東コーナー部が第290号土坑、北壁・南東コーナー部・西壁が第11号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.07m、短軸2.80mの方形で、主軸はN-83°-Eであり、壁高は22～30cmでほぼ直立する。床はほぼ平床で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4～6cmで、北壁下で検出されている。

竈 東壁の中央部に壁外へ51cmほどの掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅91cm、狭口部から煙道までの長さ83cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。火床部から土師器坏・甕片が多く出土している。



第287図 第176号住居跡・出土遺物実測図

壙土層解説

- | | | |
|----|----------|------------------------|
| 1 | 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 | 黒 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 5 | 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 極 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 | 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 9 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 | 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 11 | 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 12 | 極 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 13 | 黒 褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 14 | 灰 褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 15 | 極 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 16 | 黒 褐色 | 焼土ブロック微量 |

覆土 10層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック微量
- 10 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片349点（坏135・甕214）、須恵器片81点（坏27・甕54）、礫9点が出上している。これらの遺物は竈内及び南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出上している。このほかには、混入した縄文土器片144点が出上している。出土状況から1324は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。床下から第188号住居跡が確認されている。

第176号住居跡出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1323	須恵器	坏	[13.6]	4.3	6.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部一方向のヘラ削り。	覆土中	3% 復原品（参考）PL113
1324	土師器	葉台付坏	15.1	6.4	5.8	長石・石英	黄	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	南東部下層	95% PL113

第182号住居跡（第288図）

位置 調査区中央部西寄りのF 2 h 2 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第167号住居跡、北に第153号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部が第196号住居跡を掘り込み、南東部を第371号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.56m、短軸4.21mの方形で、主軸はN-9°-Eであり、壁高は32~38cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほは平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで北壁を除いた壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部に壁外へ39cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅139cm、焚口部から煙道部までの長さ119cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部はロームを掘り残して、その上に粘土などを貼り付けて構築しており、内壁も火熱を受けて赤変硬化している。火床部から土師器坏・甕片が多く出上っている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・粘土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 褐色 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 6 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量
- 8 にぶい黄褐色 焼土粒子・砂粒少量、粘土ブロック微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量
- 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量
- 12 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量

13	暗赤褐色	ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
14	にぶい黄褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
15	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
16	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
17	にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
18	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
19	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
20	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
21	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
22	明赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子・粘土ブロック微量
23	暗赤褐色	砂粒少量、焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
24	にぶい赤褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
25	暗赤褐色	砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
26	にぶい褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
27	にぶい褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土ブロック・砂粒微量
28	赤褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
29	赤褐色	砂粒少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
30	暗赤褐色	焼土ブロック少量
31	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
32	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
33	黒褐色	粘土ブロック多量、砂粒中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
34	黒褐色	粘土ブロック多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量
35	暗赤褐色	粘土ブロック多量、砂粒中量、ローム粒子・焼土ブロック少量
36	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量
37	暗褐色	ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量
38	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
39	暗赤褐色	砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
40	暗赤褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック微量
41	黒褐色	ロームブロック中量、砂粒少量、焼土ブロック微量
42	暗褐色	ロームブロック多量、砂粒中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 4か所。主柱穴はP1～3で、深さは9～19cmであり、各コーナー寄りに位置している。P4は深さ20cmで、中央部から南壁際に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

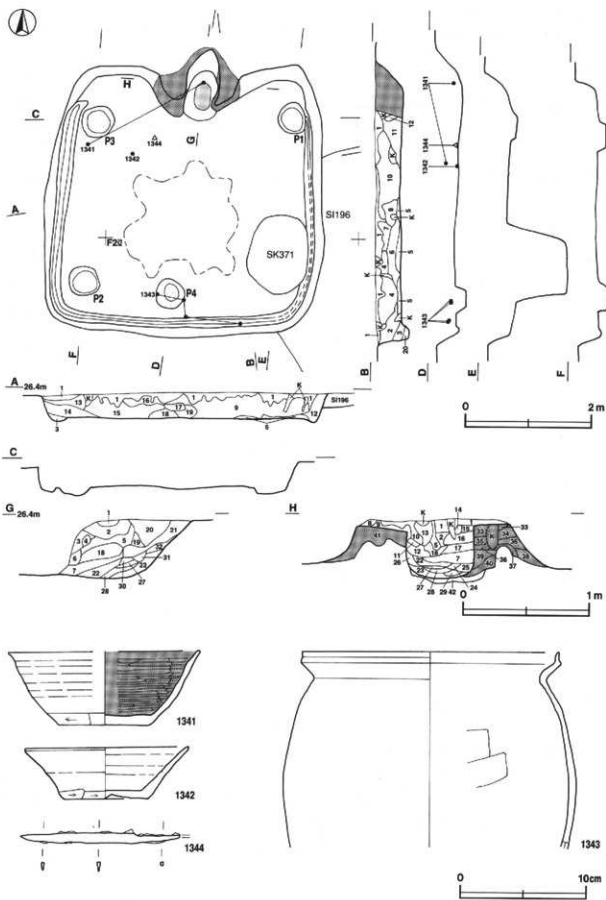
覆土 20層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
5	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量
7	暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
9	黒褐色	焼土粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量
11	暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
12	褐色	ロームブロック少量
13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
16	黒褐色	炭化粒子微量
17	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
18	褐色	ロームブロック少量
19	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
20	暗褐色	ロームブロック・炭化ブロック微量

遺物出土状況 土師器片386点(坏94・高台付坏4・甕286)、須恵器片111点(坏40・鉢1・壺2・甕59・甗9)、灰釉陶器片1点(不明)、土製品2点(支脚・不明)、鉄製品3点(刀子2・不明1)、礫8点が出土している。これらの遺物は室内及び中央部・北西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片344点、弥生土器片1点や攪乱によって混入した陶器片1点がそれぞれ出土した。出土状況から1341・1344は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第288图 第182号住居跡・出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表 (第288図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1341	土師器	環	[15.4]	5.9	7.3	灰白色地質	明焼	普通	底部外面へラ削り。	北部中層	40%
1342	須恵器	環	12.9	4.0	6.6	長石・石英	暗灰黄	普通	底部内面へラ削り、へら削り。	北部下層	60% PL113
1343	土師器	甕	20.4	(13.5)	—	灰白色地質	にぶい焼	普通	体部内面へラ削り。	南部下層	20%

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1344	刀子	(12.6)	1.2	0.2	5.9	鉄	片断。	北部下層	PL118

第184号住居跡 (第289図)

位置 調査区の中央部東寄りのF3J9区で、北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第68・71号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 本跡が第76号住居跡の北東部を掘り込み、東コーナー部を第6号溝、北壁中央部を第24号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西から南東へ下がる緩斜面部に立地しているため、南東・北東の両壁の立ち上がり不明で、確認できた長軸3.72m、短軸2.85mの長方形で、主軸はN-10°-Wで、壁高は24cmで外傾して立ち上がる。床はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。炭化材が中央部から北壁にかけての床面から、焼土とともに検出されている。

電 確認されなかったが、北壁際の中央部の床面から多量の粘土が焼土とともに確認されていることから、この部分に竈が付設されていたと考えられ、粘土の確認された範囲が広いことから、竈が住居の放棄された際に破壊され、さらに第24号土坑に掘り込まれたため、痕跡がわずかであると考えられる。

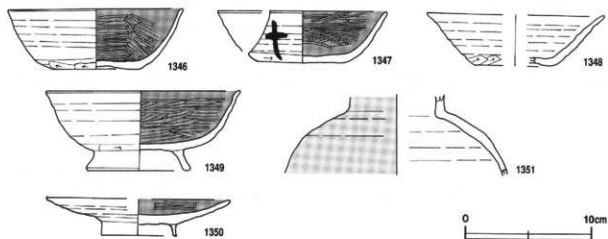
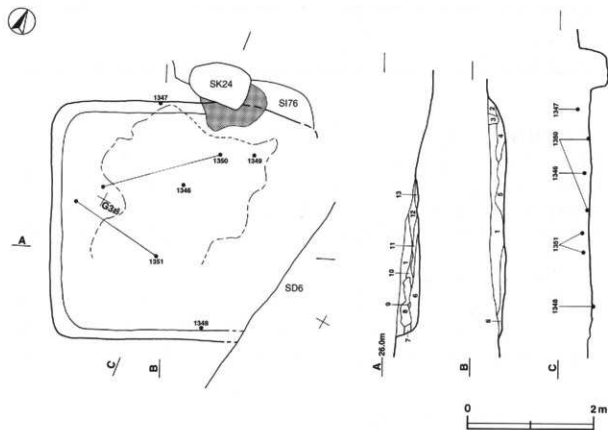
覆土 13層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 網罟褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化材・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 7 網罟褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 9 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック
- 12 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化材微量

遺物出土状況 土師器片158点(環105・甕53)、須恵器片8点(環3・甕5)、灰釉陶器片3点(甕)、土製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は北壁の中央部及び南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。炭化材は中央部から北壁にかけての床面から、焼土とともに出土している。このほかには、混入した縄文土器片2点が出土している。出土状況から1346は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第289図 第184号住居跡・出土遺物実測図

第184号住居跡出土遺物観察表 (第289図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1346	土脚器	坏	13.8	4.9	6.6	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り。	北部床面	70%
1347	土脚器	坏	[13.4]	4.1	7.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部外面回転ヘラ削り。	北部中層	49% 底部に 墨書「十」か
1348	須恵器	坏	[14.2]	4.0	[6.2]	紅土・粘粉	にぶい褐	普通	底部外面ヘラ削り。	南部床面	20%
1349	土脚器	高台付坏	15.1	6.3	8.0	長石・石英・赤土	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	北部床面	90% 二次 焼成。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1350	土師器	高台付皿	[14・4]	2.9	5.9	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	北部床面	40%
1351	灰陶器	壺	-	(6.3)	-	長石・黒色粒子	灰白	良好	体部両面口ロナデ。	中央部中割	15%

第185号住居跡（第290図）

位置 調査区南部中央寄りのH3c2区に位置し、北から南への緩斜面部に立地している。

重複関係 北部を第5号溝、中央部から西部を第12号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 第5・12号溝に掘り込まれているため、遺存部分がわずかであり、確認できたのは長軸2.30m、短軸1.36mで、形状は方形または長方形と推測される。主軸はN-90°-Eであり、壁高は4~28cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、粘土などで構築している。竈の遺存状態は不良で、確認できた規模は両袖部幅86cm、焚口部から煙道部までの長さ50cmである。火床部は火床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変しているが、硬化していない。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部はローム掘り残しの基部が露出しているだけである。

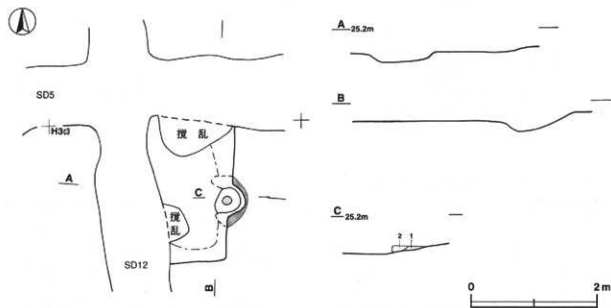
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

覆土 大部分が第12号溝に掘り込まれて、覆土がわずかで、堆積状況の判断は困難である。

遺物出土状況 土師器片5点（坏）が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。出土土器は全て細片であり、図示できるようなものはない。

所見 出土土器はすべてが細かい体部片であるため、詳細は不明であるが、規模や形状から9世紀以降と考えられる。



第290図 第185号住居跡実測図

第188号住居跡 (第291・292図)

位置 調査区中央部西寄りのG 2 b3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第189号住居跡、北に第173号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北壁を第176号住居跡、竈を第11号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.41m、短軸3.13mの方形で、主軸はN-4°-Eであり、壁高は40~64cmでほぼ直立し、上端がわずかに外へ開く。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmでほぼ全周している。中央部の南壁寄りで焼土塊が確認されており、投棄されたものと考えられる。

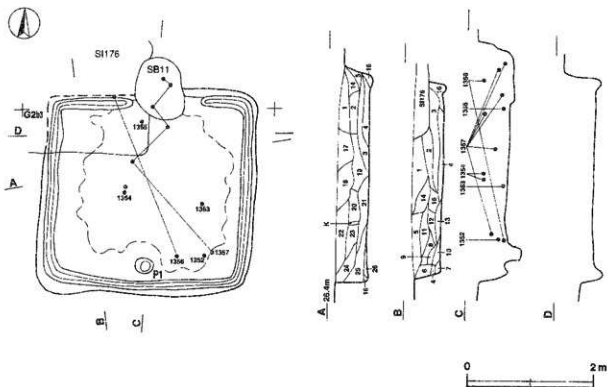
竈 第11号掘立柱建物跡に掘り込まれ、遺存部分はわずかであるが、遺存部分から北壁の中央部を塔外へ70cmほどの掘り込みが構築されていたと考えられる。

ピット P1は深さ33cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

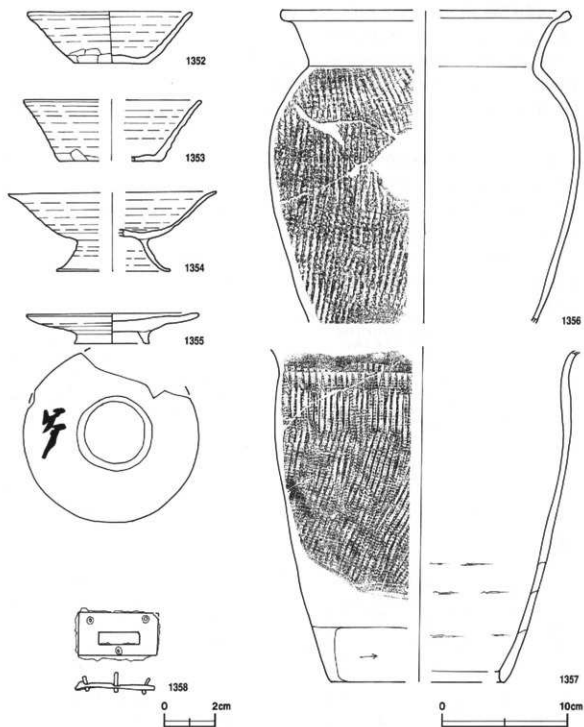
覆土 26層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 棕褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	14 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
2 棕褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化物・粒十粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒褐色	炭化材中骨、焼土ブロック微量	17 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒微量	19 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
7 棕褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	20 出褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	21 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	22 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	23 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
11 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	24 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	25 暗褐色	ロームブロック少量
13 黒褐色	ロームブロック微量	26 暗褐色	ロームブロック微量



第291図 第188号住居跡実測図



第292図 第188号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片343点(坏123・高台付坏1・皿2・甕216・瓶1), 須恵器片226点(坏78・高台付坏6・釜1・甕140・瓶1), 鉄製品3点(不明), 銅製品1点(巡方), 礫11点が出土している。これらの遺物は竈周辺及び東部覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片184点や攪乱によって混入した陶器片1点が出土した。出土状況から1355・1357は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第188号住居跡出土遺物観察表 (第292回)

番号	種別	器種	口径	口径	口径	胎土	色	施文	手法の特徴	出土位置	備考
1352	須恵器	坏	13.0	1.2	5.8	灰石・石灰	黒灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り。	南東部下層	80% PL113
1353	須恵器	坏	[13.8]	4.6	[7.9]	灰石・雲母	灰	普通	底部外面回転ヘラ削り。	東部下層	10%
1354	須恵器	高台付坏	16.4	6.2	[9.0]	灰石・雲母・赤色粒子	に濃い橙	普通	底面高台削り後、ナデ。	中央部中層	33%
1355	土師器	高台付甕	13.8	2.5	6.0	灰石・雲母・赤色粒子	に濃い橙	普通	底部高台削り後ナデ。	北部下層	5% 8割粒0% 黒多 PL113
1356	土師器	甕	[22.8]	[24.7]	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部内面ナデ。	中央部中層	20%
1357	土師器	甕	-	[26.5]	[13.6]	長石・雲母	に濃い橙	普通	体部内面輪切削り後ナデ、多孔式。	中央部中層	30%

番号	器種	寸 法				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1358	瓦方	(2.1)	(5.4)	0.2	5.1	測	断3本。	覆土中	PL118

第189号住居跡 (第293回)

位置 調査区中央部西寄りのG2c5区に位置し、北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第173・188号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 西壁が第190号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.06m、短軸3.01mの方形で、主軸はN-4°-Eであり、築高は32cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。溝溝は深さ4~8cmでほぼ全周している。南壁際西寄りと中央寄りの床面から焼土塊が検出され、下部に極暗褐色土があることから、廃棄後に焼失した住居と考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ34cmほどの掘り込み、粘土などで構築している。袖部が破壊されており、規模は袖部の基部幅60cm、焚口部から煙道部までの長さ90cmである。火床部は床面から6cmほど掘り深められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部はロームを掘り残して粘土を貼り付けたものである。

礎土層解説

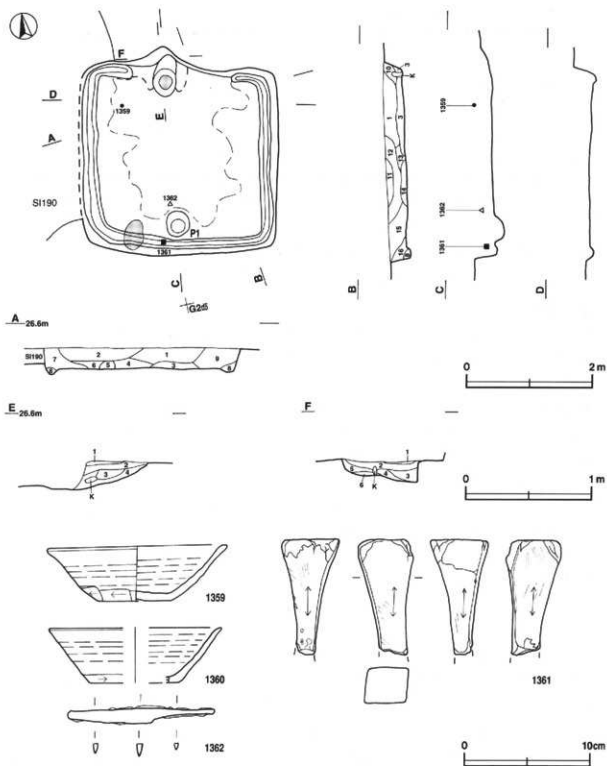
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

ピット P1は深さ16cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土中ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土中ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 13 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 14 暗褐色 焼土ブロック・粘土中ブロック微量
- 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第293図 第189号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片424点(坏164・甕260), 須恵器片79点(坏20・蓋1・壺1・甕57), 土製品1点(不明), 鉄製品1点(刀子), 石器1点(砥石)が出土している。これらの遺物は竈周辺及び南西部覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片92点, 剥片4点や攪乱によって混入した陶器片2点がそれぞれ出土した。出土状況から1359は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第189号住居跡出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1359	須恵器	坏	14.0	4.4	5.7	長石・石英・雲母・礫	黄灰	普通	底部回転へつ切り後、一方方向のへつ削り。	北西部中層	100% PL113
1360	須恵器	坏	[13.6]	4.5	[7.0]	長石・石英	にぶい黄灰	普通	体部下端手持ちへつ削り。底部外面へつ削り。	覆土中	10%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1361	砥石	(9.1)	4.4	2.9	(141.0)	凝灰岩	砥面4面。	南部下層	PL117
1362	刀子	11.7	1.5	0.4	11.9	鉄	片断。	南部中層	PL118

第199号住居跡（第294・295・296図）

位置 調査区南部のG2j8区に位置し、北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第161号住居跡が位置している。

重複関係 北壁が第200号住居跡、西壁が第201号住居跡を掘り込み、東壁を第206号住居跡、北部を第14・15号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部に立地しているため南壁の立ち上がりは不明であり、確認できたのは長軸3.97m、短軸3.80mの方形で、主軸はN-8°-Eであり、壁高は16~40cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外へ60cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖幅100cm、焚き口から煙道部までの長さ116cmである。火床部は床面とほほ同じ高さで、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は両袖部ともローンを掘り残して基部が露出して遺存しているだけである。

竈土層解説

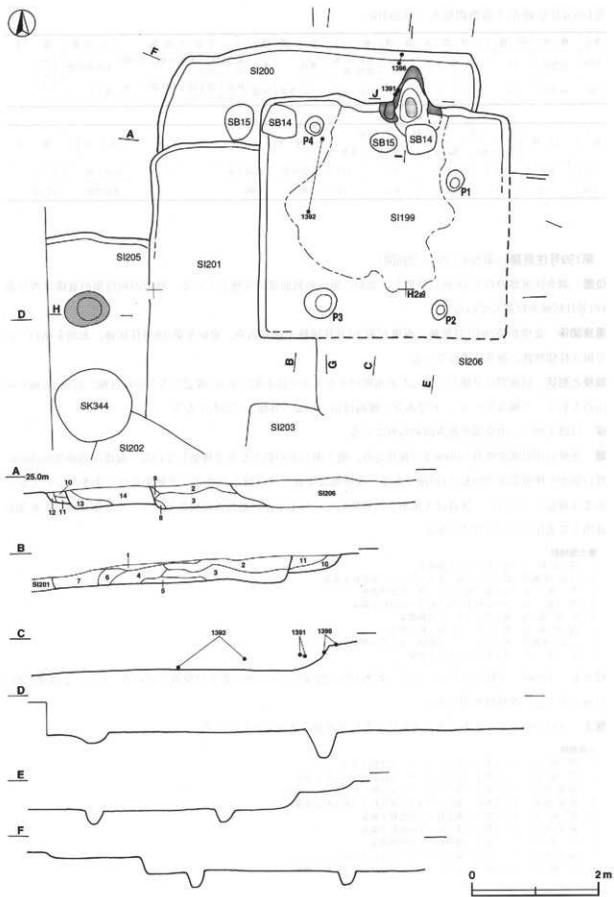
- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物微量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 灰少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。主柱穴はP1・2で、深さは20・22cmで、コーナー寄りに位置している。P3・4は深さ25・37cmであるが、性格は不明である。

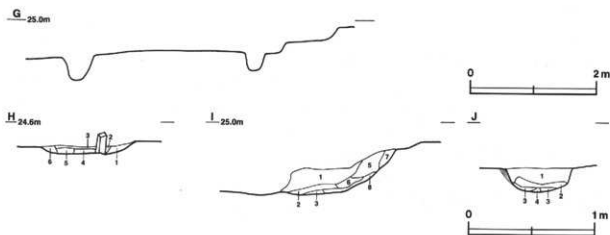
覆土 9層からなる。北から南に流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量



第294图 第199·200·201·205号住居跡実測图(1)



第295図 第199・200・201・205号住居跡実測図(2)



第296図 第199号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片394点(坯154・高台付坯10・甕230), 須恵器片97点(坯44・甕53), 鉄製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片171点, 礫6点や攪乱によって混入した陶器片2点がそれぞれ出土している。出土状況から1392は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。

第199号住居跡出土遺物観察表(第296図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1391	土師器	高台付坯	14.9	(4.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へら削り。高台貼り付け後, ナデ。	北部中層	49% 高台置大塚二塚, 丸田
1392	土師器	高台付坯	[14.8]	(3.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転へら削り。高台貼り付け後, ナデ。	西部中層	50% 高台部欠損。

第200号住居跡(第294・295・297図)

位置 調査区南部のG2j8区に位置し, 北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第134号住居跡が位置している。

重複関係 南部を第199・201号住居跡, 中央部を第14・15号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第199・201号住居跡に掘り込まれているため, 確認できたのは長軸4.94m, 短軸0.85mで, 形状は方形または長方形と推測され, 主軸はN-1°-Eであり, 壁高は16~24cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 ほほ平坦で, 全体的に踏み固められている。

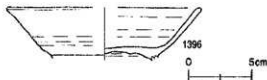
覆土 3層からなる。北から南に流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 10 黒 褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
 11 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

- 12 暗 褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・炭灰等

遺物出土状況 土師器片18点(坏9・甕9)、須恵器片1点(坏)、鉄製品1点(不明)が出土している。これ



第297図 第200号住居跡出土遺物実測図

らの遺物は中央部の北東寄りの覆上下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片10点、鏝1点が出土している。出土状況から1396は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第200号住居跡出土遺物観察表 (第297図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1396	土師器	高台付坏	115.4	4.23	-	長石・石英・雲母	に濃い黄褐色	普通	底部四角へ丸切り。高台貼り付け後、ナデ。	東部中層	30% 底部微塵状。

第201号住居跡 (第294図)

位置 調査区の南部のG 2 j 8 区に位置し、北から南への斜面部に立地している。

重複関係 北部が200号住居跡、南部が第203号住居跡、西壁が第205号住居跡、第497号土坑を掘り込み、東部を第199・206号住居跡、南西部を第202号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 北から南への斜面部に立地しているため、南壁の立ち上がり不明であり、第199号住居跡に掘り込まれているため、確認できたのは長軸4.55m、短軸1.40mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸はN-5°-Eであり、壁高は16cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

覆土 2層からなる。北から南に流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 13 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
 14 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・微塵量

遺物出土状況 土師器片186点(坏52・高台付坏3・甕131)、須恵器片32点(坏9・甕23)、鉄製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は北西部の覆上下層から多く出土している。出土土器はすべてが細片であるため、図示できるようなものはない。このほかには、混入した縄文土器片177点、鏝6点が出土している。

所見 出土土器はすべてが細片で、時期判断は困難で、重複関係から9世紀後葉の第199号住居跡に掘り込まれ、9世紀中葉の第200号住居跡を掘り込んでいることから、時期は9世紀中葉から9世紀後葉であると考えられる。

第202号住居跡 (第298図)

位置 調査区の南部のH 2 a 7 区に位置し、北から南への斜面部に立地している。北西部は調査区域外へ延びる。

重複関係 南部が第197号住居跡、東部が第203号住居跡を掘り込み、北コーナー部を第344号土坑、南西部を第433号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北から南への斜面部に立地しているため、南壁の立ち上がり不明であり、西部が調査区域外へ伸びているため、確認できたのは長軸4.06m、短軸3.53mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸はN

-35°-Eであり、壁高は40cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平川で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ8cmで南東壁と北東壁の壁下で検出されている。

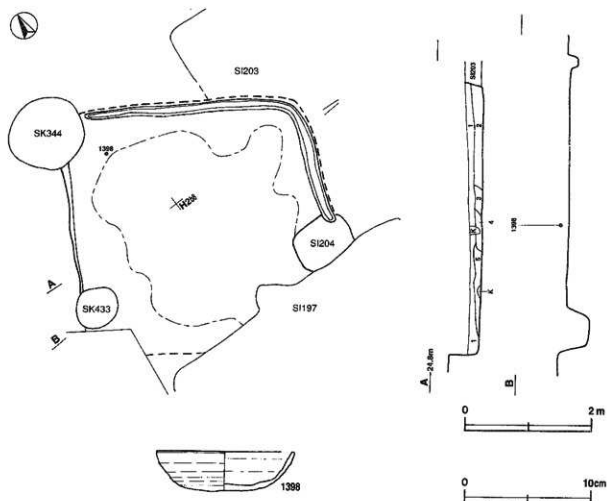
覆土 5層からなる。北から南に流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片93点(坏31・高台付坏9・甕53)、須恵器片17点(坏8・高台付坏2・壺1・甕6)、灰釉陶器片1点(甕)、鉄製品4点(鎌1・刀子1・不明2)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片178点、剥片9点が出土している。出土状況から1398は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第298図 第202号住居跡・出土遺物実測図

第202号住居跡出土遺物観察表(第298図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1398	土師器	坏	10.8	3.2	6.6	灰褐色粘土	橙	普通	底部四角へ切取り。	北部下層	70% PL113

第206号住居跡 (第299図)

位置 調査区の南部のG 2 j 9 区に位置し、北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第169号住居跡が位置している。

重複関係 西部が第199・201号住居跡を掘り込んでいる。

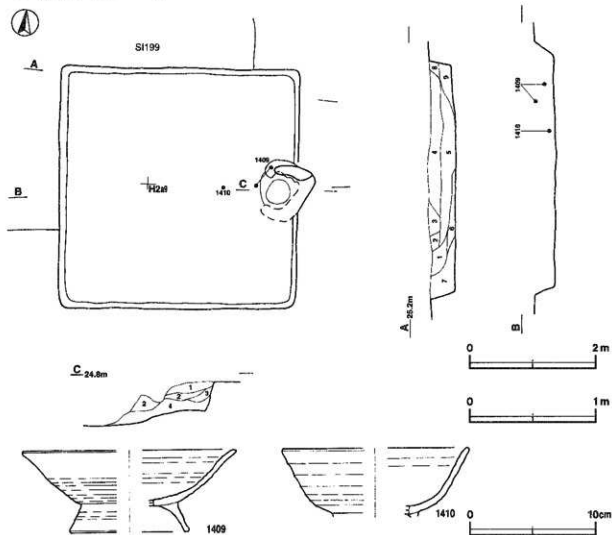
規模と形状 北から南への斜面部に立地しているため、南壁の立ち上がりは不明であり、確認できたのは長軸4.00m、短軸3.80mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸はN-90°-Eであり、壁高は24cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平肌で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅100cm、焚口部から煙道部までの長さ90cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。北袖部は粘土が貼り付けられているが、南袖部は基部が露出して遺存している。

竈土層解説

- 1 黒 褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック中量
- 2 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 3 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量



第299図 第206号住居跡・出土遺物実測図

覆土 9層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒・焼土粒・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒・焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒・焼土粒・炭化物・焼土粒微量	8 黒褐色	ローム粒・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒・焼土ブロック・炭化物微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒・焼土ブロック・炭化粒子・焼土粒微量		

遺物出土状況 土師器片30点（坏16・高台付坏8・甕6）、須恵器片2点（甕1・長頸壺1）、礫1点が出土している。これらの遺物は竈内や竈前面の覆土下層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片9点が出土している。出土状況から1409は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第206号住居跡出土遺物観察表（第299図）

番号	種別	器種	1: 径	器高	取付	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1409	土師器	高台付坏	[16.8]	6.5	[9.2]	紅褐色砂	明赤褐	普通	灰部高台部付灰ナシ。二次焼成	竈上葉中部	30%
1410	土師器	高台付坏	[14.8]	(5.3)	-	灰白・石黄・紫母	橙	普通	体部下部部転へう傾り。内面へう巻き跡あり。	竈上葉中部	20%

(2) 掘立柱建物跡

第6号掘立柱建物跡（第300図）

位置 調査区中央部西寄りのP2g4～F2h5区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第118号住居跡の中央部、第110・170号住居跡の竈周辺を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の隅柱建物跡で、桁行方向はN-88°-Eの東西棟である。規模は桁行4.96m、梁行4.34mで、面積は約21.53㎡である。柱間寸法は南桁行1.50～1.80m、北桁行1.60～1.80mで桁行の中央部の柱間はやや狭い。梁行2.20m前後であり、2.10mに統一できる。

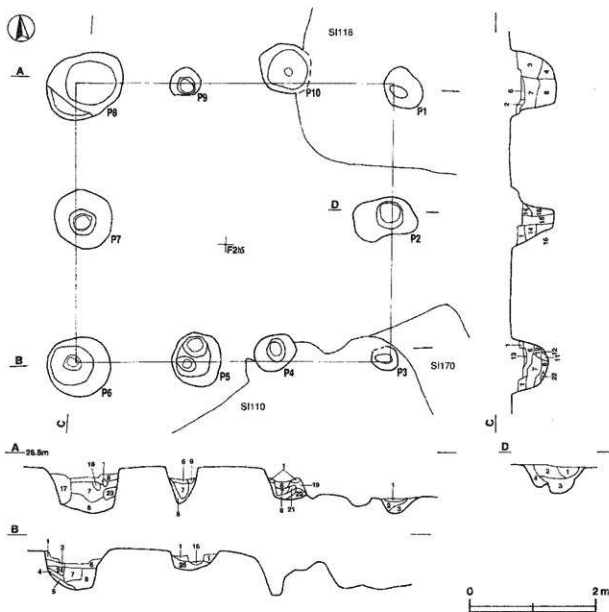
柱穴 掘り方の平面形は円形・楕円形または不定形で、深さ24～71cmである。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で確認され、埋め戻された土はしまりの弱い、ロームを主とした炭化粒子を含む黒褐色や暗褐色土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ローム粒微量	15 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	炭化物微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	17 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒微量	18 暗褐色	ローム粒少量、ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック微量	19 暗褐色	ローム粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	20 暗褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック微量	21 暗褐色	ロームブロック中葉
9 暗褐色	ロームブロック少量	22 暗褐色	ロームブロック少量
10 黒褐色	ローム粒・炭化粒子微量	23 暗褐色	ロームブロック少量
11 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	24 暗褐色	ロームブロック少量
12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	25 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
13 暗褐色	ローム粒・炭化粒子微量		

遺物出土状況 P7から土師器片・縄文土器片・礫などが出土しているが、いずれも細片のため、図示できるものはなく、時期判定は困難である。

所見 出土遺物はいずれも細片のため、時期判断は困難であるが、7世紀前葉の第170号住居跡、8世紀中葉から後葉の第118号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり、時期は規模や形状から平安時代と考えられる。掘り方の規模や形状から堅固な上層構造でないかと推測され、軽量なものの保管倉庫の可能性がある。



第300図 第6号掘立柱建物跡実測図

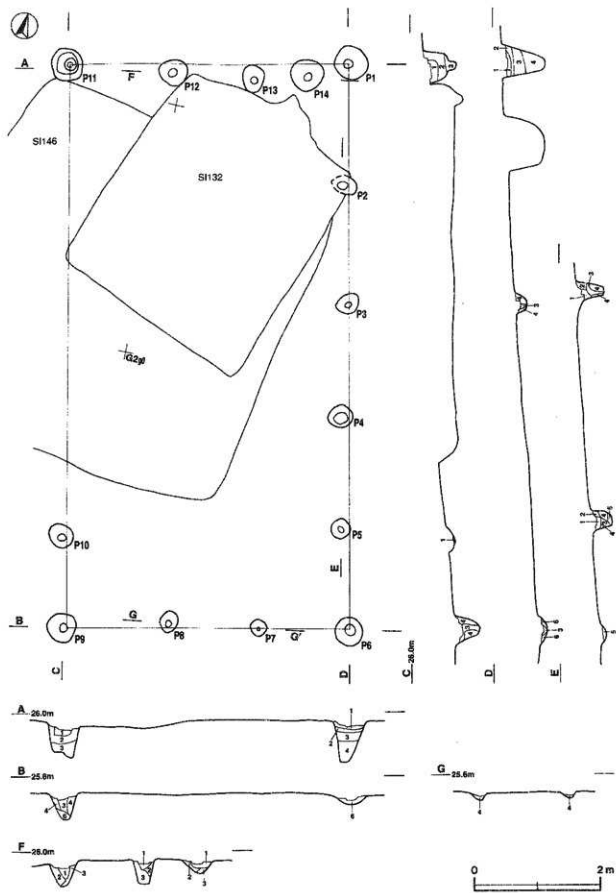
第9号掘立柱建物跡 (第301図)

位置 調査区中央部南寄りのG 2 e9 ~ G 2 h0 区に位置し、北西から南東への緩斜面に立地している。

重複関係 第146号住居跡を掘り込み、第132号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 西桁行のP10とP11間の柱穴が確認できなかったが、東桁行5間、梁行3間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-11°-Wの南北棟である。規模は桁行8.96m、梁行4.57mで、面積は約40.95㎡である。柱間寸法は東桁行1.60~1.88m、西桁行はP9・10間が1.40m、梁行1.6~1.80mで、寸法が異なる。

柱穴 掘り方の平面形は円形または楕円形で、深さ5~66cmである。柱抜き取り痕はP3・6・9で確認でき、第3層のロームブロックを含む暗褐色土が相当し、しまりは弱い。その他の第4・6層は埋土であり、ロームを主とした暗褐色土または褐色土で、強く突き固められていない。P1・2・4・5・7・8・10~14は埋め戻された土でロームを主とした黒褐色土・暗褐色土・褐色土である。



第301图 第9号独立柱建物跡実測图

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 P1～4・9・11・13・14から土師器片・縄文土器片、刺片が出土しているが、いずれも細片のため、図示できるものはなく、時期判定は困難である。

所見 出土遺物が細片のため、時期判断は困難であるが、重複関係から9世紀後葉の第132号住居跡に掘り込まれているので、時期は9世紀後葉以前の時期と考えられる。また、掘り方の規模や形状から堅固な土層構造でないかと推測される。

第11号掘立柱建物跡（第302図）

位置 調査区中央部西寄りのG2 a2～G2 b3区で、平坦部に立地している。

重複関係 第188号住居跡を掘り込み、第176号住居跡に掘り込まれている。

規模 東桁行のP2以南の柱穴と南東中央部の柱穴が確認できなかった。確認できたのは東桁行1間、西桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡である。桁行方向はN-1°-Eの南北棟である。規模は桁行5.33m、梁行3.55mで、面積は約18.92㎡である。柱間寸法は、一部未検出のものもあるが、桁行・梁行とも1.80m前後である。

柱穴 掘り方の平面形は楕円形または隅丸長方形で、深さ27～48cmである。柱の抜き取り痕はP1・3・4で確認され、ロームブロックを含む黒褐色土の第1層が相当し、しまりは弱く、その他の層は埋土であり、ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土の第2～4層が相当し、強く突き固められていない。

P1・3・4土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量

P5土層解説

- 1 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色土 ロームブロック・炭土粒子・炭化粒子微量

P7土層解説

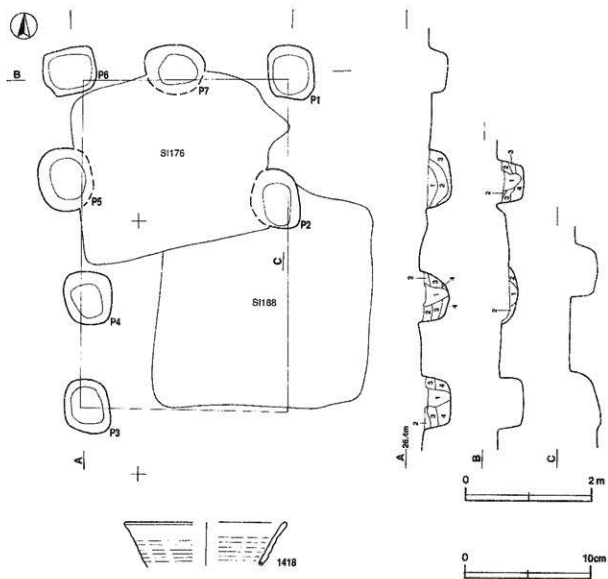
- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 P1～5の抜き取り痕から土師器片・須恵器片・縄文土器片が出土している。1418はP2から出土している。

所見 本跡は9世紀後葉の第188号住居跡を掘り込み、10世紀前葉の第176号住居跡に掘り込まれているので、時期は9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。また、掘り方の規模や形状から堅固な土層構造は推測できず、軽量なものの保管倉庫の可能性がある。

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第302図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1418	須恵器	杯	12.8	3.6	-	灰白・黄・赤	赤い黄褐色	普通	体部内面ロクロナデ	P1	5%



第302図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第13号掘立柱建物跡（第303図）

位置 調査区南部中央のG 2 i 0 ~ H 3 b 1 区に位置し、台地縁辺部の北から南への傾斜地に立地している。

重複関係 第161号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-7°-Eの南北棟である。規模は桁行10.40m、梁行4.37mで、面積は約45.45㎡である。柱間寸法は桁行2.03~2.24m、梁行2.00~2.48mで、西妻間2.10m、東妻間2.40mと梁の柱間も寸法が異なっている。

柱穴 掘り方の平面形は方形または隅丸長方形で、深さ13~51cmである。柱の抜き取り痕はP2~4・8・9・12~15で確認され、しまりが弱いロームを主として焼土ブロック・炭化粒子を含む黒褐色土で第1層が相当し、ロームを主とした黒褐色土または極暗褐色土の埋土であり、強く突き固められた様子が見られない。

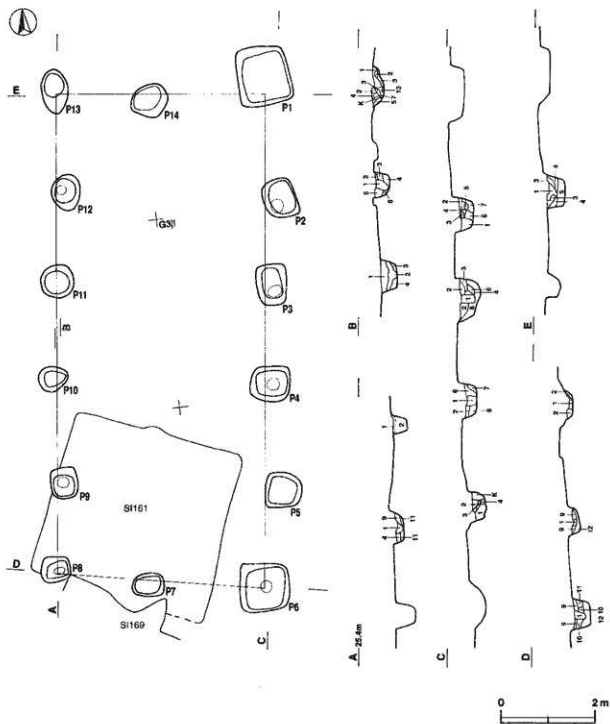
P2~9・13・14土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



第303図 第13号掘立柱建物跡実測図

- 5 黒褐色 ロームブロック微量
 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 7 黒褐色 ロームブロック少量
 8 黒褐色 ロームブロック微量
 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック粒子微量

- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 12 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 13 黒褐色 ローム粒子微量

P 10土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

P11土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

P12土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 P2～6・9・10・12～14から縄文土器片・土師器片・剥片などが出土しているが、いずれも細片のため、図示できるものはなく、時期判定は困難である。

所見 出土遺物がいずれも細片のため、時期判断は困難であるが、9世紀後葉の第161号住居跡を掘り込んでいたので、9世紀後葉よりも新しい時期である。規模は個柱建物跡としては今回の調査では最大の規模で、掘立柱建物跡の中では2番目の規模である。立地面では北から南への斜面部に立地し、隣接する掘立柱建物跡としては、本跡よりやや北側に第9号掘立柱建物跡が、やや西側に第14・15号掘立柱建物跡が、本跡と桁行方向が直角に位置し、斜面部の始まり部分に集中して建てられている。後述する第19～21号掘立柱建物跡も同様である。

第14号掘立柱建物跡（第304図）

位置 調査区南部中央のG2i7～G2j9区で、台地縁辺部の北から南への斜面部に立地している。

重複関係 第134・135・199・200号住居跡・第15号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、東梁行3間、西梁行2間の個柱建物跡で、桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。規模は桁行6.37m、梁行5.21mで、面積は約35.06㎡である。柱間寸法は桁行2.10～2.50m、東妻1.30～2.10m、西妻2.30～2.50mで寸法が異なる。

柱穴 掘り方の平面形は楕円形または隅丸長方形で、深さ17～60cmである。柱抜き取り痕は、P1～4・6・7・11で確認され、しまりが弱くロームを主とした焼土粒子・炭化粒子を含む黒褐色土または黒褐色土の第1層が相当し、第2・3・5・6・13層はロームブロック・炭化粒子を含む暗褐色土または黒褐色土の埋土であり、強く突き固められた様子が見られない。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6 暗褐色 ロームブロック微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック微量

- 4 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子少量
6 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量

P3・5～7土層解説

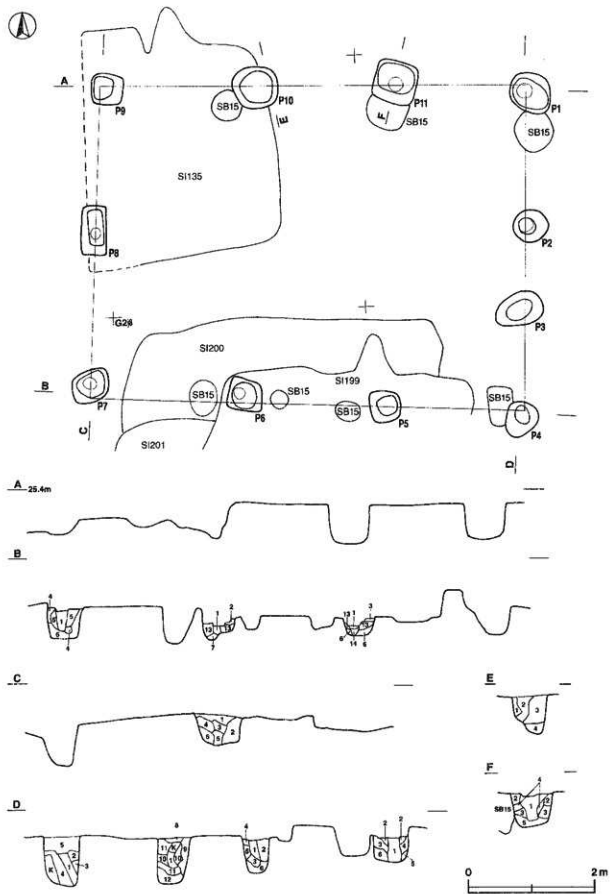
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒褐色 ロームブロック微量
5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
9 黒褐色 ロームブロック微量
10 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
11 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
12 黒褐色 ロームブロック少量
13 黒褐色 ロームブロック少量
14 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

P4土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ロームブロック微量
5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量



第304图 第14号掘立柱建物跡実測图

P8土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

P10土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |

P11土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 P1・2・4～8・11から土師器片・須恵器片・縄文土器片・鏝などが出土しているが、いずれも細片のため、図示できるものはなく、時期判定は困難である。

所見 出土土器がいずれも細片のため、時期判断は困難であるが、9世紀後葉の第199号住居跡を掘り込んでいるので、9世紀後葉よりも新しい時期である。東西の梁行では、柱数が異なり、建物構造の検討が必要である。

第15号掘立柱建物跡（第305図）

位置 調査区南部のG217～G210区で、台地縁辺部の北から南への斜面地に立地している。

重複関係 第134・135・199・200号住居跡を掘り込み、第14号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。規模は桁行10.22m、梁行4.86mで、面積は約49.67㎡である。柱間寸法は桁行2.22～2.86m、梁行2.06～2.48mで、柱間寸法は2.40mに統一できる。

柱穴 掘り方の平面形は円形・楕円形・方形・長方形・隅丸方形で、深さ22～67cmである。柱抜き取り痕はP1・4～7・10・11で確認され、しまりの弱いロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む黒褐色上の第1層が相当し、その他の層は埋土であり、第2～8層が相当し、強く突き固められた様子が見られない。

P1・3～11土層解説

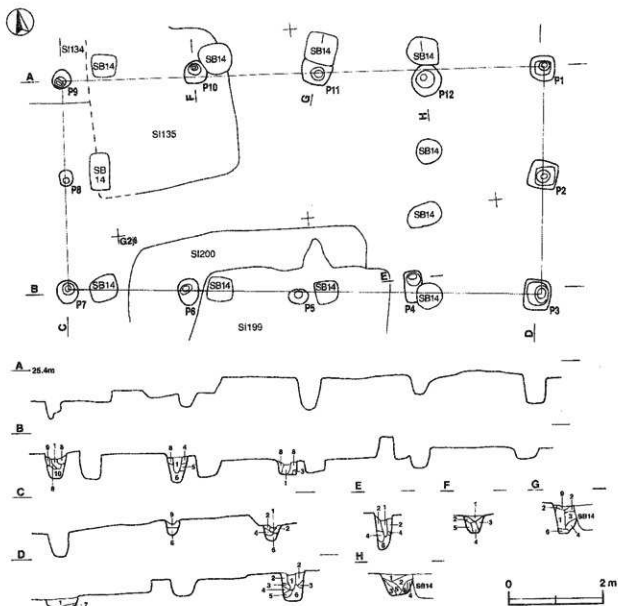
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |

P12土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 P1～4・6・7・9・11・12から縄文土器片・土師器片・須恵器片・灰釉陶器片・鏝が出土しているが、いずれも細片のため図示できるものはなく、時期判定は困難である。

所見 出土遺物がいずれも細片のため、時期判断は困難であるが、9世紀中葉から後葉の第134・135・199・200号住居跡を掘り込んでいることから、9世紀後葉よりも新しい時期である。第13・14号掘立柱建物跡同様、斜面部または斜面部の肩部の部分に集中して建てられている。また、第14号掘立柱建物跡とは規模が異なるが桁行方向や柱穴の規模や形状が類似しているため、建て替えの可能性が考えられる。



第305図 第15号掘立柱建物跡実測図

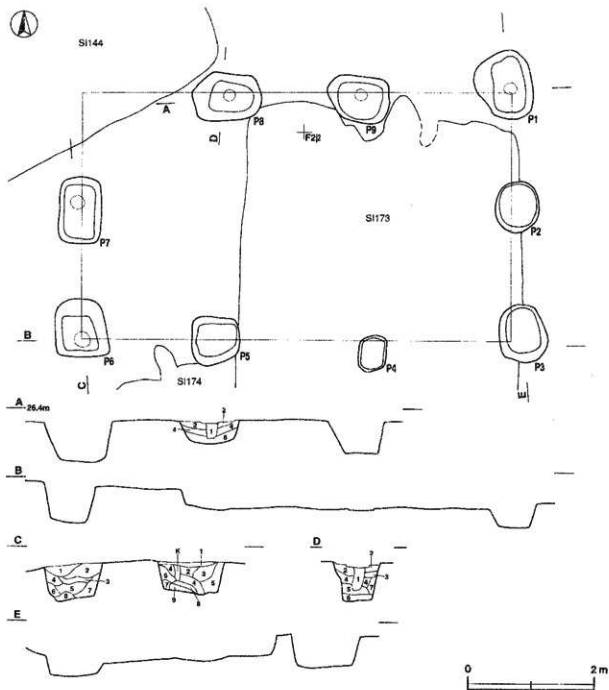
第16号掘立柱建物跡 (第306図)

位置 調査区西部のF 2 j1 ~ F 2 j2 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第144・172・173・174号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 西側の柱穴1個が未検出であるが、桁行3間、梁行2間の竪柱建物跡で、桁行方向はN-90°-Eの東西棟である。規模は桁行6.95m、梁行3.87mで、面積は約26.90㎡である。柱間寸法は桁行2.07~2.48m、梁行1.85~2.18mで寸法が異なる。

柱穴 掘り方の平面形は楕円形・隅丸長方形または不定形で、深さ6~65cmである。柱の抜き取り痕はP8・9で確認され、しまりの弱いロームブロックを含む黒褐色土の第1層が相当し、その他の層は埋土の第2・4層が相当し、ロームブロックを含む黒褐色土で、突き固められた様子が見られない。P6・7の覆土は柱が抜き取られた後に堆積したものと考えられる。



第306図 第16号掘立柱建物跡実測図

P6 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微塵
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微塵
- 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量

P7 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微塵
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量

P8・9土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 P6・7・9から土師器片・須恵器片・縄文土器片・漆が出土している。

所見 本跡は第144・172・173・174号住居跡を掘り込んでいるが、そのうち、9世紀中葉の第173号住居跡を掘り込んでいるので、9世紀中葉よりも新しい時期である。また、掘り方の規模や形状から堅固な上屋構造は推測できず、軽量なものの保管倉庫の可能性がある。

第18号掘立柱建物跡（第307図）

位置 調査区西部中央のF1j0～G2b1区で、台地の平坦部に立地している。

重複関係 P1・2が第174号住居跡、P3・4が第256号土坑、P5が第255号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-0°の南北棟である。規模は桁行4.45m、梁行2.15mで、面積は約9.57㎡である。柱間寸法は桁行1.85～2.40mで桁行の柱間の寸法が異なり、梁行はほぼ2.10mで、桁行と梁行の柱間の寸法が異なる。

柱穴 掘り方の平面形は円形・方形または隅丸方形で、深さ13～64cmである。柱抜き取り痕はP1～3で確認され、しまりが余りないロームブロックを含む暗褐色土の第3層が相当し、そのほか埋土はロームを主とした暗褐色土と黒褐色土の第1・2・4・5層が相当し、強く突き固められていない。

P1土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

P2土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

P3土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

P4土層解説

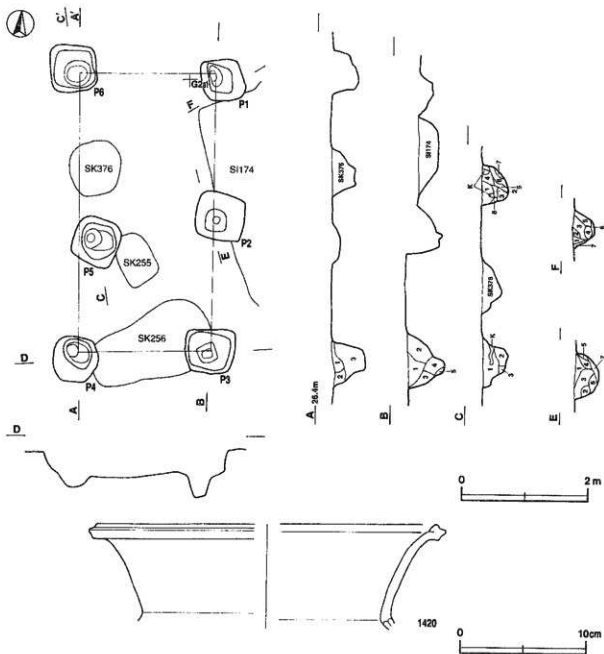
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | | |

P5土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

P6土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量 |



第307図 第18号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 P1～6から上師器片・須恵器片・縄文土器片・陶器片・土製品(不明)・礫が出土している。1420はP1の黒土から出土している。

所見 本跡は7世紀後半の第174号住居跡を掘り込んでおり、本跡の北へ1mに第16号掘立柱建物跡が位置している。位置的に9世紀中葉以後の第16号掘立柱建物跡・第18号掘立柱建物跡とは同時期には存在せず、時期は9世紀中葉、ないしそれ以前と考えられる。柱穴の規模や形状から見て堅固な上屋構造は推測できず軽量なものの保管場所の可能性がある。

第18号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第307図)

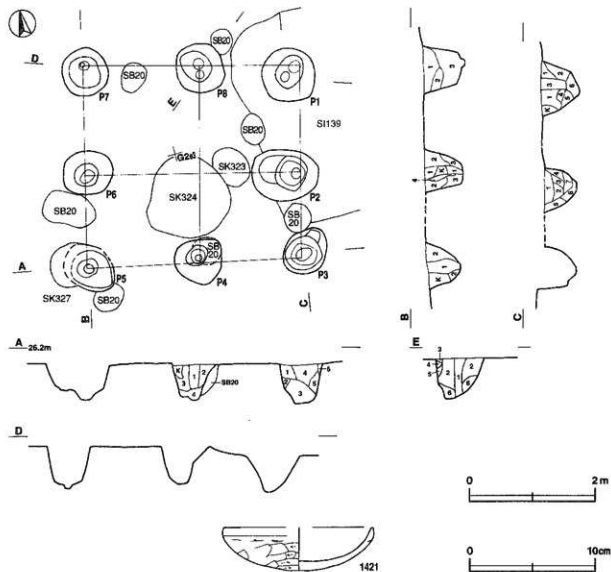
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1420	須恵器	甕	27.0	8.3	-	長石・石英	にぶい黒	貫通	体部外面横ナデ	P1下層	5%

第19号掘立柱建物跡 (第308図)

位置 調査区南西部のG 2 d 2 ~ G 2 e 3 区に位置し、台地縁辺部の北から南への斜面地に立地している。西部は調査区域外へ伸びる。

重複関係 第139号住居跡・第327号土坑・第20号掘立柱建物跡を掘り込み、第324号土坑に掘り込まれている。規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向はN-75°-Wの東西棟である。規模は桁行3.37m、梁行3.24mで、面積は約10.92m²である。柱間寸法は桁行1.53~1.84m、梁行1.25~1.78mで寸法が異なっている。

覆土 掘り方の平面形は円形または楕円形で、深さ50~66cmである。柱抜き取り痕はP1の第3層、P4~6・8の第1層で確認され、しまりの弱いロームを主とした炭化物を含む暗褐色土や焼土粒子・炭化粒子を含む暗褐色土が相当し、その他はロームを主とした暗褐色土や暗褐色土の埋め上で、強く突き固められていない。



第308図 第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P1 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

P2 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化材料微量

- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

P3 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
 2 黒褐色 ロームブロック微量
 3 黒褐色 ローム粒子・炭化材料微量

- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 5 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量

P4 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量
 4 褐色 ロームブロック少量

P5 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

P6 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック微量
 4 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

P7 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P8 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 4 褐色 ロームブロック多量
 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 P1～8から土師器片・須恵器片のほか縄文土器片・土製品（不明）・礫が出土している。P7・8の覆土から出土している1421は、混入と考えられる。

所見 弥生時代後期後葉の第139号住居跡を掘り込み、江戸時代の第324号土坑に掘り込まれ、時期は形状から平安時代と考えられ、堅固な上層構造は推測できず、軽量なものの保管倉庫の可能性がある。

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第308図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土色	調製	焼成	子口の特徴	出土位置	備考
1421	土師器	環	[11.6]	3.5	-	長石・石英	黒褐色	貫通	戸部部西屋ナ、北房外へタ張り	P7・8	50%

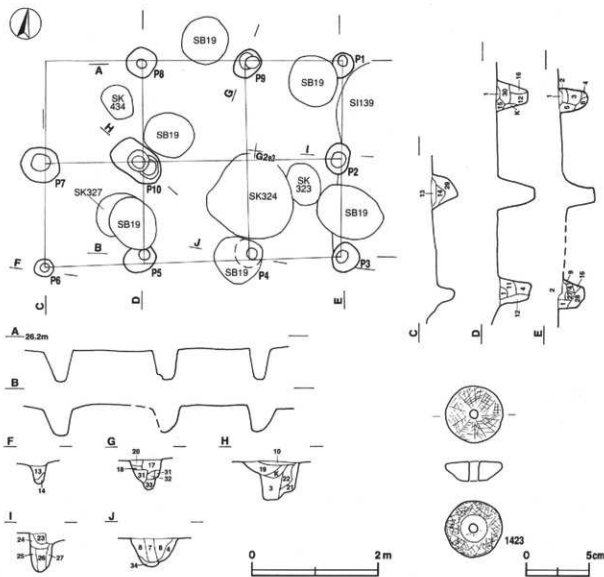
第20号掘立柱建物跡（第309図）

位置 調査区西部のG 2 d2～G 2 e3区で、台地縁辺部で北から南への斜面地に立地している。

重複関係 第139号住居跡を掘り込み、第19号掘立柱建物跡・第324号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向はN-82°-Wの東西棟である。規模は桁行4.20m、梁行3.12mで、面積は約13.10㎡である。柱間寸法は桁行1.45～1.75m、梁行1.53～1.62mで、桁行・梁行の柱間の寸法は1.50m前後である。

柱穴 掘り方の平面形は円形または楕円形で、深さ28～60cmである。柱抜き取り痕はP1・10の第3層、P2の第26層、P4の第7層、P8の第12層がロームを主とした炭化粒子や黒色粒子を含む暗褐色土が相当し、しまりが弱い。その他は埋土であり、ロームを主とした暗褐色土や極暗褐色土で、突き固められていない。



第309図 第20号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子微量 | 20 暗褐色 | 炭化粒子・白色粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 21 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 22 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量 | 23 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 24 褐色 | 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 25 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック微量 | 26 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 27 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | 炭化粒子微量 | 28 褐色 | ロームブロック多量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子少量 | 29 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 13 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 30 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ロームブロック少量 | 31 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 15 褐色 | 炭化粒子微量 | 32 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 16 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 33 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 17 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 34 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 P3 から石製品 1 点 (紡錘車), P7・8 から土師器片・縄文土器片が出土している。1423 は P3 の理上中から出土している。

所見 本跡は弥生時代後期後葉の第139号住居跡を掘り込み、江戸時代の第324号土坑に掘り込まれていることから、時期は弥生時代後期後葉から江戸時代までの間の時期と時間幅が大きい、平安時代に編年される倉庫跡と考えられる。

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第309図)

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1423	紡錘車	4.4	1.6	0.7	42.0	総絞岩	衣面に起向文状の縞刻。下面磨光。	P3	P1.117

第21号掘立柱建物跡 (第310図)

位置 調査区南西部のG2 e3 ~ G2 e4 区で、台地縁辺部の北から南への斜面地に立地し、南西部が調査区域外へ伸びている。

重複関係 第139号住居跡・第243号土坑を掘り込み、第245号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 南西部が調査区域外へ伸びているが、桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、南へ伸びる可能性も考えられる。桁行方向はN-61°-Eの南北棟で、規模は桁行3.14m、梁行2.82mで、面積は約8.85㎡である。柱間寸法は桁行・梁行とも1.50m前後であり、柱筋は揃っている。

柱穴 掘り方の平面形は楕円形で、深さ50~76cmである。柱痕及び柱抜き取り痕は確認されなかったが、柱の底面が当たっていた部分と思われる窪みが確認されている。柱穴の覆土は柱が抜き取られた後に埋め戻されたものである。

P1 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

P2 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |

P4 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

P5 土層解説

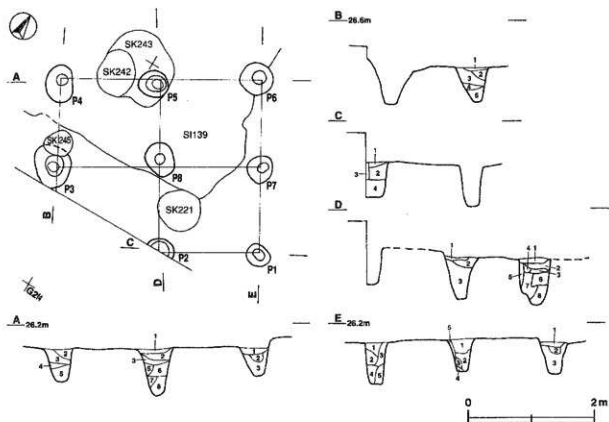
- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化材料微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

P6 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

P7 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |



第310図 第21号掘立柱建物跡実測図

P8 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 P1・5・7から土師器片・縄文土器片が出土しているが、いずれも細片のため図示できるものではなく、時期判定は困難である。

所見 本跡は弥生時代後期後葉の第139号住居跡を掘り込んでいるので、弥生時代後期よりも新しい時期で、平安時代に編年される倉庫跡と考えられる。

(3) 土坑

第43号土坑 (第311図)

位置 調査区東部のG 3 g7区に位置し、北西から南東への微傾斜地に立地している。

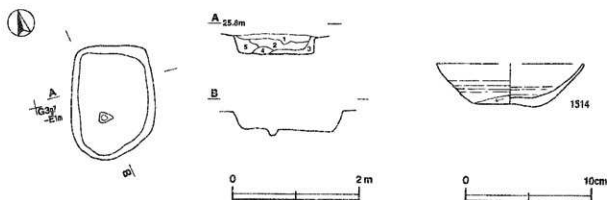
重複関係 第90号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.80m、短径1.30mの隅丸長方形で、深さ32cmで、底面はほぼ平坦で、中央部に径20cmの円形で深さ4cmの小ピットがある。主軸はN-17°-Eで、壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量



第311図 第43号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片17点(坏14・甕3)、須恵器片5点(坏4・蓋1)が出土している。これらは覆土中から出土している。1514は覆土中から出土し、口縁部内面には油煙が付着している。

所見 本跡の時期は、9世紀後半と考えられる油煙の付着した土師器坏が出土し、同時期と思われる土器が重複している第90号住居跡のP7から多くの碗状滓とともに出土しているので、確認はできなかったが、9世紀後半の鍛冶関連施設があり、それに伴う土坑と考えられる。

第43号土坑出土遺物観察表(第311図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1514	須恵器	坏	11.7	3.2	5.0	長石・雲母	褐色	普通	底部外側 方向のへう割り。	覆土中	30% 内面 ケール付着。

第122号土坑(第312図)

位置 調査区中央部のF2b2区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径0.65m、短径0.55mの楕円形で、深さ19cmで、底面はほぼ平坦である。主軸はN-19°-Eで、壁は外傾して立ち上がる。

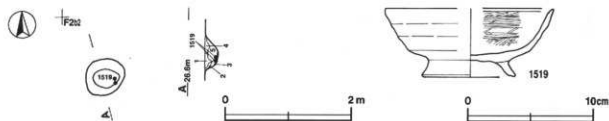
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏)、須恵器片1点(甕)が出土している。この土器は北西部の覆土中層から中層にかけて出土している。1519は北西部の覆土中層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片1点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、出土土器は9世紀後半から10世紀前半のものが覆土中層から多く出土しているで、それ以前と考えられる。



第312図 第122号土坑・出土遺物実測図

第122号土坑出土遺物観察表（第312図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1519	土師器	高台付杯	[13.4]	5.4	7.3	長石・雲母	におい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	中央部下層	40%

第131号土坑（第313図）

位置 調査区北部のD 2 j 3 に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.33m、短径1.04mの楕円形であり、深さ62cmで、底面は皿状である。主軸はN-16°-Wで、壁面は外傾して立ち上がる。

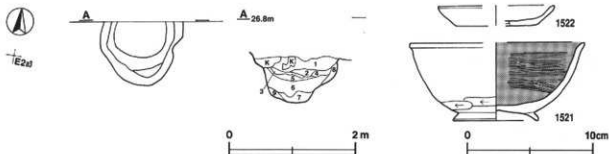
覆土 9層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック中量
- 9 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片58点（杯14・高台付杯2・皿1・甕41）、須恵器片1点（杯）が出土している。これらの遺物は全体的に出土している。混入した縄文土器片9点が出土している。

所見 本跡の性格は不明であるが、時期は10世紀後葉の土師器高台付杯が出土しているため、それ以前と考えられる。



第313図 第131号土坑・出土遺物実測図

第131号土坑出土遺物観察表（第313図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1521	土師器	扁筒形杯	[13.8]	6.2	6.8	長石・石英・赤色砂子	に白い隈	青焼	底部内面へ切り、高台張り付け後ナデ。		覆土中	30%
1522	土師器	皿	[9.2]	1.6	[6.4]	赤・白・砂質	に白い隈	青焼	底部外面回転へ削り。		覆土中	40%

第196号土坑（第314図）

位置 調査区の中央部西寄りのE 2 c 8 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.10m、短径1.05mの円形であり、深さ52cmで、底面はほぼ平坦である。主軸はN-51°-Eであり、壁面は緩やかな傾斜で立ち上がる。

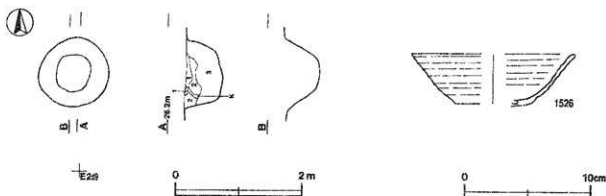
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 層 褐色 ローム砂子中量、ロームブロック・凝土ブロック少量、炭化物微量
- 2 層 褐色 ローム砂子中量、ロームブロック・凝土ブロック少量
- 3 層 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、凝土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片11点（坏7・堿4）、須恵器片1点（坏）が出土している。これらはほとんどが覆土中から出土している。混入した縄文土器片1点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は出土土器が覆土中であるため、時期判断は困難であるが、9世紀中葉の須恵器坏片が出土し、これは本跡が9世紀後葉の第7号住居跡と同時期であることから、第7号住居跡の遺物が混入したと考えられるので、9世紀後葉以後と考えられる。



第314図 第196号土坑・出土遺物実測図

第196号土坑出土遺物観察表（第314図）

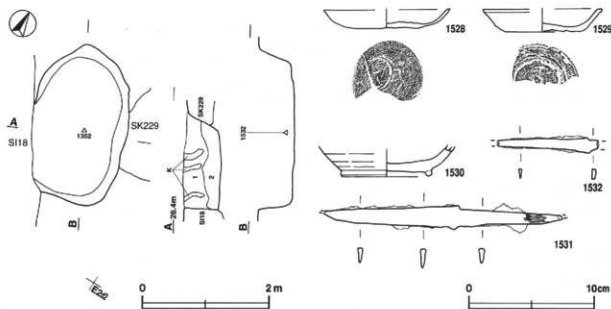
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1526	須恵器	坏	[12.8]	4.0	[5.8]	長石・石英	に白い隈	青焼	底部外面ナデ。		覆土中	20%

第228号土坑（第315図）

位置 調査区北西部のE 2 c 1 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第229号土坑を掘り込み、第18号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 第18号住居跡に掘り込まれているため、確認できたのは長径2.52m、短径1.48mの楕円形であり、



第315図 第228号土坑・出土遺物実測図

深さ56cmで、底面はほぼ平坦である。主軸はN-27°-Wで、壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・微塵炭量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物痕量

遺物出土状況 土師器片271点（坏122・甕149）、須恵器片9点（坏1・甕8）、灰釉陶器片4点（甕）、鉄製品2点（刀子）、鏢1点が出土している。これらの土器は全面的に覆土中層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片24点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、10世紀後葉の土師器皿や灰釉陶器瓶が出土しているが、すべてが投棄されたものと考えられるので、時期は10世紀後葉以前と考えられる。

第228号土坑出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1528	土師器	皿	[10.0]	1.5	5.2	灰白色-灰好	にぶい黄緑	普通	底面凹縁切り、基部・外周ロケナテ	覆土中	45% PL114
1529	土師器	皿	[9.4]	1.8	6.0	灰白色-灰好	にぶい濁	普通	底部凹縁へつ切り	覆土中	25%
1530	灰釉陶器	甕	-	(2.4)	7.2	長石・黒色粒子	灰白	良好	底面外周へつ切り、高台部付付底ナテ	覆土中	10%

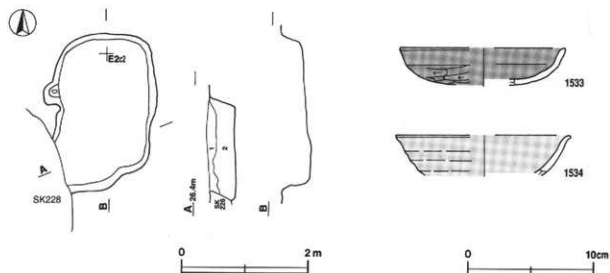
番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1531	刀子	(19.0)	1.9	0.4	(32.1)	鉄	両側。基部木貫付着。	中央部下層	PL118
1532	刀子	(8.0)	1.2	0.3	(8.2)	鉄	両側。切先。基部欠損。	覆土中	PL118

第229号土坑（第316図）

位置 調査区北西部のE2c1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第228号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第228号土坑に掘り込まれているため、確認できたのは長さ2.45m、短径1.57mの隅丸長方形で



第316図 第229号土坑・出土遺物実測図

あり、深さ37cmで、底面はほぼ平坦である。主軸は $N-0^{\circ}$ であり、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片145点（坏61・寛84）、須恵器片11点（坏6・寛5）、灰釉陶器片1点（坏）、礫3点が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。このほかには、混入した縄文土器片14点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、出土土器が10世紀後葉の土師器坏や灰釉陶器坏が出土し、すべてが投棄されたものと考えられるので、時期は10世紀後葉以前と考えられる。

第229号土坑出土遺物観察表（第316図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1533	土師器	坏	[13.0]	2.9	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	5%
1534	灰釉陶器	坏	[13.8]	(3.2)	-	長石・黒色灰子	灰白	良好	体部内・外面口ロナデ。	覆土中	5%

第399号土坑（第317図）

位置 調査区中央部のF2i0区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第123号住居跡の北壁、第124号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

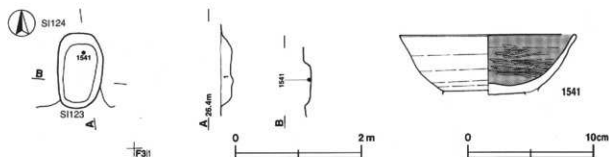
規模と形状 長径1.08m、短径0.70mの楕円形であり、深さ17cmで、底面はほぼ平坦である。主軸は $N-2^{\circ}-E$ であり、壁面は緩やかな傾斜で立ち上がる。

覆土 単一層からなる。覆土が浅く、判断が困難であるが、含有物の散らばりの様相から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点（坏5・寛5）、須恵器片1点（坏）が出土している。これらは北部の覆土上層から出土している。1541は北部の覆土上層から出土している。混入した縄文土器片2点が出土している。



第317図 第399号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の性格は不明で、本跡が7世紀後葉以前の第124号住居跡を掘り込み、10世紀前葉の土師器高台付環が出土していることから、時期は7世紀後葉から10世紀前葉以前と考えられる。

第399号土坑出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1541	土師器	高台付環	14.0	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	北部下層	95% 高台部欠損。

第452号土坑（第318図）

位置 調査区南西部のG2e0区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.10m、短径0.93mの楕円形であり、深さ62cmで、底面はほぼ平坦である。主軸はN-39°-Wであり、壁は外傾して立ち上がる。

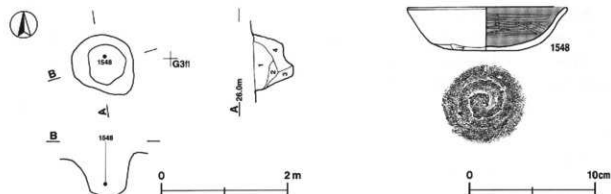
覆土 4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片24点（環13・甕11）、須恵器片5点（環2・甕3）が出土している。これらの遺物は中央部から出土している。このほかには、混入した縄文土器片3点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第318図 第452号土坑・出土遺物実測図

第152号土坑出土遺物観察表 (第318図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1548	土師器	杯	12.6	3.6	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい程	青濁	底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	中央部下層	80% Pt.114

6 中・近世の遺構と遺物

今回の調査で、中・近世の遺構は火葬施設1基、薬罫4基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 火葬施設

第1号火葬施設 (第319図)

位置 調査区南東部のH3c5区に位置し、北から南への斜面部に立地している。

規模と形状 T字状を呈している。燃燒部は主軸と直交する長軸1.36m、短軸0.49mの隅丸長方形で、深さ20~24cmである。断面形は半円形で、壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃燒部のほぼ中央で直交し、長さ130cm、上幅56~72cm、下幅16~48cm、深さ24~32cmである。断面はU字状を呈し、主軸はN-0°である。底面は通気溝から燃燒部にかけて、緩やかな傾斜を示し、燃燒部及び通気溝の底面には凸凹が見られ、火熱を受けて変形している。

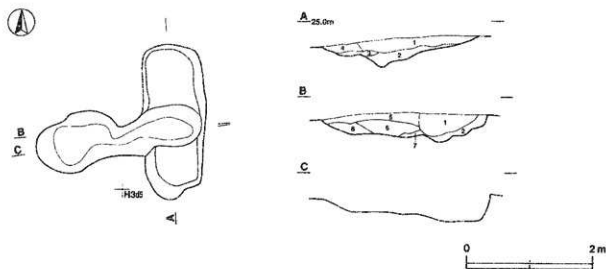
覆土 8層からなる。焼土ブロック、炭化粒子、骨粉及び骨片等を含む層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微塵 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微塵 |
| 2 黒色 | 炭化物多量、焼土粒子・骨片微塵 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微塵 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・骨片微塵 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微塵 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・骨片微塵 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物微塵 |

遺物出土状況 覆土上層から底面にかけて骨粉、骨片及び木炭の層が見られる。燃燒部の底面から東壁部に、多量の木炭が出土している。

所見 当遺跡で確認された火葬施設は唯一である。木炭が東壁面に寄った状態で出土し、火葬した際に燃え残ったものと考えられる。時期は形状などから中世以降と考えられる。



第319図 第1号火葬施設実測図

(2) 墓塚

第1号墓塚 (SK-113) (第320図)

位置 調査区の南西部のG2d6区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は重複関係にある第2号墓塚、西に第3号墓塚がそれぞれ位置している。

重複関係 第2号大型円形土坑、第138号住居跡を掘り込み、第2号墓塚に掘り込まれている。

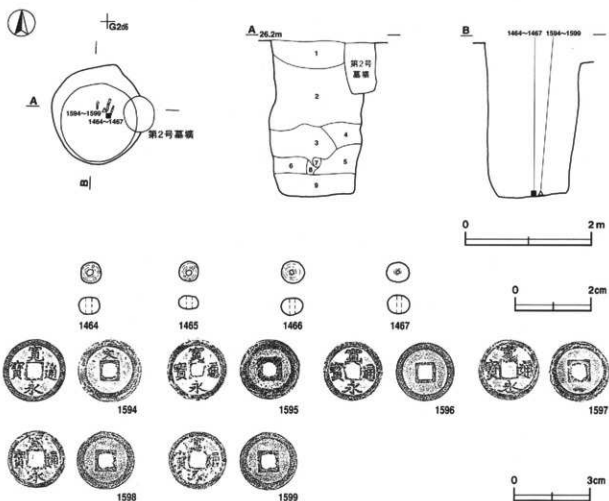
規模と形状 長径1.87m、短径1.50mのほぼ楕円形で、深さ222cmで、主軸はN-13°-Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 9層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。粘土層まで掘り込んでいる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・黒色粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量



第320図 第1号墓塚・出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭6枚、鉄製品3点(釘)、数珠玉4点、人骨1体、木片が床面から出土している。人骨は、後頭部が北に位置し、大腿骨の一部が顔の前面に立ったような状態で出土しているため、塵棺での埋葬と考えられる。骨の下から木片と釘が出土し、これらは棺の一部と考えられる。このほかには、混入した縄文土器片36点、土師器片345点、須恵器片9点、灰釉陶器片2点、土製品4点(支脚2・土錘1・不明1)、鉄製品2点(不明)、剃片1点、鏝1点が出土している。

所見 本跡の時期は、同時期と考えられる第2号墓塚が掘り込んであるので、それよりも古く、寛永通宝が出土しているため18世紀以後と考えられる。

第1号墓塚出土遺物観察表(第320図)

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	径φ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1464	数珠玉	0.5	0.4	0.2	0.2	ガラス	楕円の研削痕。水色で半透明。	中央部下層	
1465	数珠玉	0.6	0.4	0.2	0.2	ガラス	楕円の研削痕。表面に欠陥。水色で半透明。	中央部下層	
1466	数珠玉	0.6	0.5	0.2	0.3	ガラス	楕円の研削痕。半透明で表面が滑らか。	中央部下層	
1467	数珠玉	0.6	0.5	0.1	0.3	ガラス	よく研削され、表面白色。	中央部下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	径φ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1584	古銭	2.6	0.2	0.6	3.0	銅	新寛永通宝。表に「文」。	中央部下層	PL118
1595	古銭	2.4	0.2	0.6	4.2	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1596	古銭	2.4	0.2	0.6	2.9	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1597	古銭	2.5	0.2	0.6	3.2	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1598	古銭	2.3	0.2	0.6	2.7	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1599	古銭	2.3	0.2	0.6	2.6	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118

第2号墓塚(SK123)(第321図)

位置 調査区の南西部のG2d6区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は重複関係にある第1号墓塚、西に第3号墓塚がそれぞれ位置している。

重複関係 第138号住居跡、西部が第1号墓塚、東部が第2号大型円形土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.62m、短径0.49mの楕円形で、深さ82cmである。主軸はN-3°-Wであり、第1号墓塚の東部に土層断面図で掘り方を確認することができた。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦で、軟質である。上面が楕円形に対して底面は方形である。

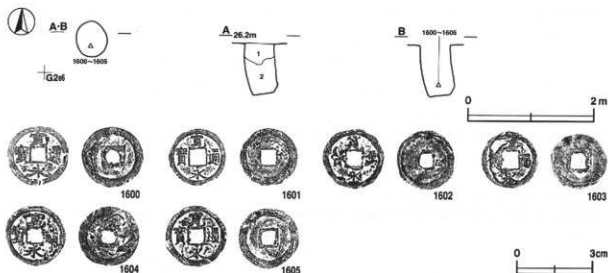
覆土 2層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・微土ブロック・炭化物微帯
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土中ブロック微帯

遺物出土状況 古銭6枚、人骨1体が底面から出土している。人骨は後頭部を北にし、大腿骨がその南面にあり、掘り込みはあまり大きくなく塵棺と考えられる。このほかには、混入した縄文土器片2点、土師器片2点が出土している。

所見 本跡の時期は、第1号墓塚を掘り込んでいることから、それよりも新しく、寛永通宝が出土しているため18世紀以後と考えられる。



第321図 第2号墓墳・出土遺物実測図

第2号墓墳出土遺物観察表(第321図)

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1600	古銭	2.5	0.2	0.6	3.3	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1601	古銭	2.3	0.1	0.6	2.4	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1602	古銭	2.5	0.2	0.6	3.5	銅	寛永通宝。水が右にずれている。	中央部下層	PL118
1603	古銭	2.3	0.1	0.7	2.6	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1604	古銭	2.5	0.2	0.6	3.3	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1605	古銭	2.5	0.2	0.6	3.4	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118

第3号墓墳(SK324)(第322図)

位置 調査区の南西部のG2e3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第1・2号墓墳が位置している。

重複関係 第19・20号掘立柱建物跡、第323号土坑を掘り込んでいる。

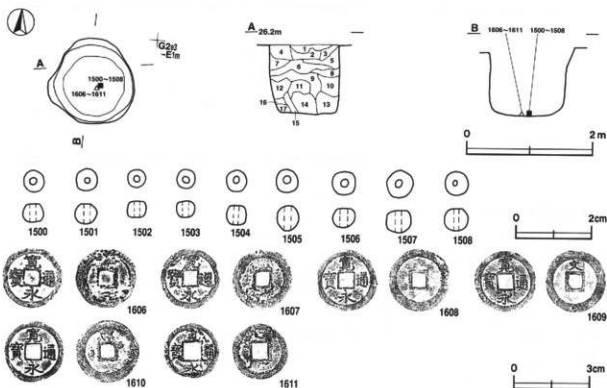
規模と形状 長軸1.36m、短軸1.35mの円形を呈し、深さ102cmで、主軸はN-0°であり、壁は底面からほぼ直立する。

底面 ほぼ平坦で、わずかに硬化している。

覆土 17層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 11 極暗褐色 ロームブロック微量
- 12 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量



第322図 第3号墓墳・出土遺物実測図

- 13 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
 14 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
 15 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
 16 暗褐色 ロームブロック微量
 17 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 古銭6枚、数珠玉9点、人骨1体が中央部の底面から出土し、これらの多くは頭蓋骨の下から出土している。人骨は後頭部が北に向き、大腿骨がその南に位置し、座棺と考えられる。このほかには、混入した土師器片10点が出土している。

所見 本跡の時期は、寛永通宝が出土しているので18世紀以後と考えられる。

第3号墓墳出土遺物観察表（第322図）

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(μ)				
1500	数珠玉	0.5	0.6	0.2	0.3	ガラス	表面に縞状の研磨痕。青紫。	中央部下層	
1501	数珠玉	0.5	0.6	0.2	0.3	ガラス	表面に縞状の研磨痕。青紫。	中央部下層	
1502	数珠玉	0.4	0.5	0.2	0.2	ガラス	表面に縞状の研磨痕。半透明。	中央部下層	
1503	数珠玉	0.4	0.5	0.2	0.2	ガラス	表面に縞状の研磨痕。半透明。	中央部下層	
1504	数珠玉	0.5	0.5	0.1	0.3	ガラス	表面に縞状の研磨痕。青紫。	中央部下層	
1506	数珠玉	0.7	0.6	0.1	0.3	ガラス	表面に縞状の研磨痕。半透明。	中央部下層	
1506	数珠玉	0.6	0.7	0.2	0.5	ガラス	表面に縞状の研磨痕。青紫。	中央部下層	
1507	数珠玉	0.6	0.7	0.2	0.5	ガラス	表面に縞状の研磨痕。半透明。	中央部下層	
1508	数珠玉	0.6	0.6	0.2	0.4	ガラス	表面に縞状の研磨痕。青紫で表面白濁。	中央部下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1606	古銭	2.5	0.1	0.6	2.6	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1607	古銭	2.5	0.2	0.6	3.8	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1608	古銭	2.5	0.1	0.6	3.6	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1609	古銭	2.5	0.1	0.6	3.3	銅	寛永通宝。背面に「文」。	中央部下層	PL118
1610	古銭	2.5	0.1	0.6	3.5	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1611	古銭	2.3	0.1	0.7	2.3	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118

第4号墓墳 (SK367) (第323図)

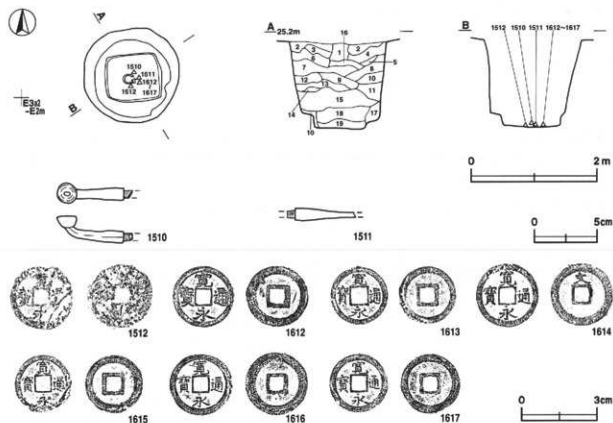
位置 調査区の北部のD3j2区に位置し、南西から北東への斜面部に立地している。

重複関係 第3号住居跡の南西部分を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.51m、短軸1.50mの円形を呈し、深さ138cmの円筒形である。底面はほぼ平坦で、長軸90cm、短軸74cmの長方形で、深さ22cmの掘り込みが見られる。主軸はN-0°であり、壁面はほぼ直立する。

底面 ほぼ平坦で、中央部がさらに方形に窪み、わずかに硬化している。

覆土 19層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。



第323図 第4号墓墳・出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
3	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
5	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
8	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
9	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
10	黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック・赤色粒子微量
11	暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
12	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
13	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
14	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
15	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
16	黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
17	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
18	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
19	暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 古銭7枚、銅製品2点(煙管)、人骨1体が中央部の底面から出土している。人骨は後頭部が北側に向き、大腿骨などが立位で出土し、座棺と考えられる。このほかには、混入した縄文土器片2点、土師器片34点が出土している。

所見 本跡の時期は、寛永通宝が出土しているので18世紀以後と考えられる。また、棺桶は方形のものと想定される。

第4号墓出土遺物観察表(第323回)

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	質量(g)				
1511	煙管	(5.3)	-	0.9	(3.2)	陶磁	1510の吸口部。	中央部下層	PL118
1510	煙管	(6.0)	1.6	0.9	(6.6)	陶磁	火皿と煙管の境は弱くくびれる。	中央部下層	PL118

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	質量(g)				
1512	古銭	2.6	0.2	0.6	3.0	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1612	古銭	2.5	0.1	0.6	3.2	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1613	古銭	2.3	0.1	0.6	3.1	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1614	古銭	2.6	0.1	0.6	2.9	銅	寛永通宝。背面に「文」。	中央部下層	PL118
1615	古銭	2.3	0.1	0.6	2.7	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1616	古銭	2.5	0.2	0.6	3.8	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118
1617	古銭	2.4	0.1	0.6	2.9	銅	寛永通宝。	中央部下層	PL118

7 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査では縄文時代から中・近世の遺構のほか、年代が明らかでない遺構として竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡7棟、溝22条、土坑254基、ピット列3か所が調査されている。以下、これらの遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第24号住居跡（第324図）

位置 調査区北部西寄りのE 2 g 2 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 北部が第25号住居跡を掘り込み、東部が第29号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第29号住居跡に掘り込まれているため、確認できたのは長軸4.20m、短軸2.40mで、形状は長方形と推測され、主軸はN-77°-Eであり、壁高は32~41cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

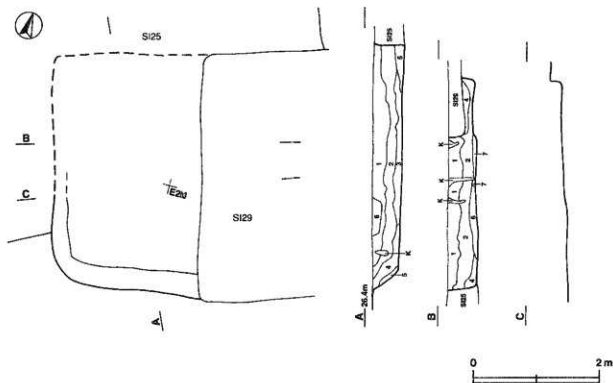
覆土 7層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・白色粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片541点（坏191・寛350）、須恵器片34点（坏30・寛4）、灰釉陶器片1点（不明）、土製品3点（支脚）、礫6点が出土している。これらの遺物は各層から出土しているが、細片のため、図示できるようなものはなく、このほかには、混入した縄文土器片111点が出土している。

所見 出土土器が細片のため、時期決定は困難であるが、重複関係が7世紀前葉の第25号住居跡を掘り込み、9世紀前葉の第29号住居跡に掘り込まれていることから、時期については7世紀前葉から9世紀前葉と考えられる。



第324図 第24号住居跡実測図

第42号住居跡（第325図）

位置 調査区中央部西寄りのF 2 d5 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 西壁中央部を第301号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.46m、短軸3.20mの方形で、主軸はN-15°-Wである。壁高は35cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4cmで、東壁中央部から南西コーナー部の壁下で検出されている。

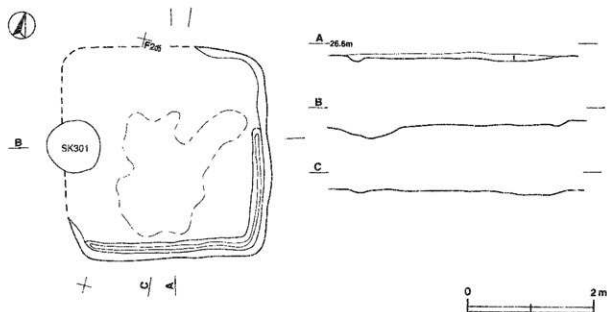
覆土 単一層である。明確な判断は困難であるが、覆土が厚く、ロームブロックを含んだしまりは弱い覆土であることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

I 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・白色粒子散在

遺物出土状況 縄土土器片2点、弥生土器片6点、切片1点が出土している。これらの遺物は覆土上層から出土しているが、細片のため、図示できるようなものはない。

所見 本跡は出土している土器はほとんどが細片のため、時期は不明である。



第325図 第42号住居跡実測図

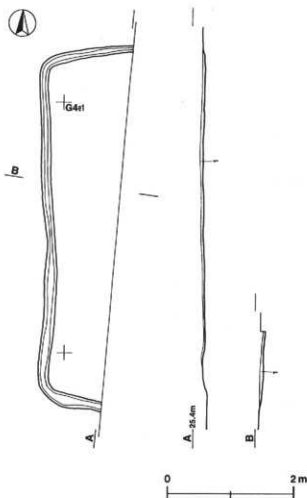
第79号住居跡（第326図）

位置 調査区中央部東寄りのG 4 e1 区に位置し、斜面部に立地している。東部は調査区域外に伸びている。

規模と形状 東側は調査区域外であるため、確認できたのは長軸5.48m、短軸1.45mで、形状は方形または長方形と推測され、主軸はN-1°-Wであり、壁高は5cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部があまり踏み固められていない。壁溝は深さ2cmで、北壁から南壁の壁下で検出されている。

覆土 確認面ですでに床面が露出し、覆土は単一層のため判断が困難であるが、ロームブロックなどが微量に含まれた暗褐色土の堆積で、しまりも普通のため自然堆積と考えられる。



第326図 第79号住居跡実測図

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点(坏3・甕2)、須恵器片1点(甕)が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。これらの土器も細片であるため、図示できるような遺物はない。

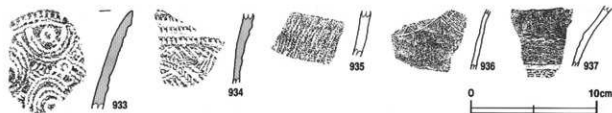
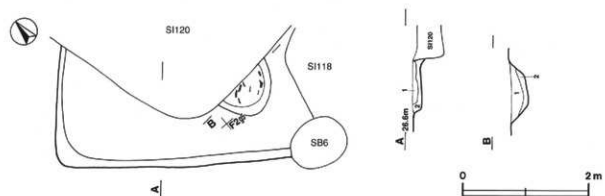
所見 本跡は出土している土器は体部片がほとんどで、細片のため時期は不明である。

第113号住居跡 (第327図)

位置 調査区中央部のF2f4区で、平坦部に立地している。

重複関係 北部は第120号住居跡、東部は第118号住居跡、南西壁を第6号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 北部と東部が掘り込まれているので、確認できたのは長軸4.10m、短軸1.73mで、形状は方形又は長方形と推測でき、主軸はN-51°-Wであり、壁高は14cmでほぼ直立している。



第327図 第113号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

覆土 2層からなる。第118・120号住居跡に掘り込まれているため、残存している部分が少く、判断困難であるが、覆土中にロームブロックを含み、床面から炭化材が出土しているため人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片7点(坏6・堿1)が出土している。これらの遺物はほぼ床面から出土している。このほかには、混入した縄文土器片17点、弥生土器片7点が出土している。

所見 本跡は覆土が浅く、出土土器も細片であり、多くの時期の土器が出土していることから、出土土器からの時期判断が難しく、6世紀後葉から7世紀前葉の第120号住居跡に掘り込まれているので、時期は6世紀後葉以前と考えられる。

第113号住居跡出土遺物観察表(第327図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
933・934	縄文時代後期前半	933は1線部片で、口縁部に刻みが施され、縄文原体を円形に押し、その中心に円形刺突文が施されている。934は隆帯上に刻みが施され、その下には縄文原体系円文と短沈線が施文されている。いずれも胎土中に繊維を含んでいる。	覆土中	二ツ木式期 PL114
935～937	弥生時代後期	935は刷部片で、附加条一横附加2条の縄文が施されている。936・937は刷部片で、936には沈線による途張文状の区画内に不規則な格子文が施文されている。937には太沈線による区画内に格子文が施されている。	覆土中	上橋古式期 PL114

第155号住居跡(第328図)

位置 調査区中央部西寄りのF2d3区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 南東コーナー部が第152号住居跡、南壁が第241号土坑を掘り込み、北西コーナー部を第150号住居跡、北東コーナー部を第156号住居跡、南壁中央部を第240号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m、短軸3.40mの東西に長い長方形で、主軸はN-83°-Eであり、壁高は6～12cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りを壁外へ38cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土で構築していたと思われるが、遺存状態が不良である。規模は両袖部幅90cm、焚口部から煙道部までの長さ82cmである。火床部は床面から12cmほど掘り窪められ、焼土の広がりを確認できる程度で、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。北袖がロームを掘り残した基部が露出し、その上に粘土を貼り付けて構築されていたと考えられる。

土層解説

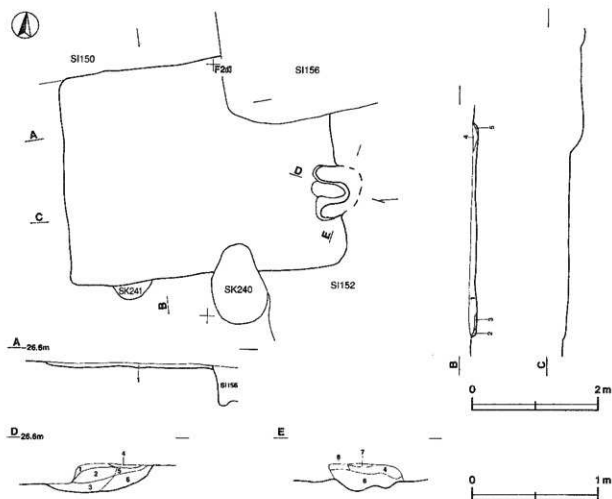
- 1 灰褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 濃い赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 5 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 8 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片7点(坏3・堿4)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには混入した縄文土器片5点が出土している。出土土器はすべてが細片で、図



第328図 第155号住居跡実測図

ができるようなものはない。

所見 出土土器はすべてが細片のため、時期判断は困難である。

第159号住居跡（第329図）

位置 調査区最南部のH 2 d 0 区に位置し、台地縁辺部の斜面部に立地している。

規模と形状 斜面上に立地しているため、南壁の立ち上がり不明で、確認できたのは長軸2.90m、短軸2.80mで、形状は方形と推測され、主軸はN-2°-Eであり、壁高は20cmでほぼ直立する。

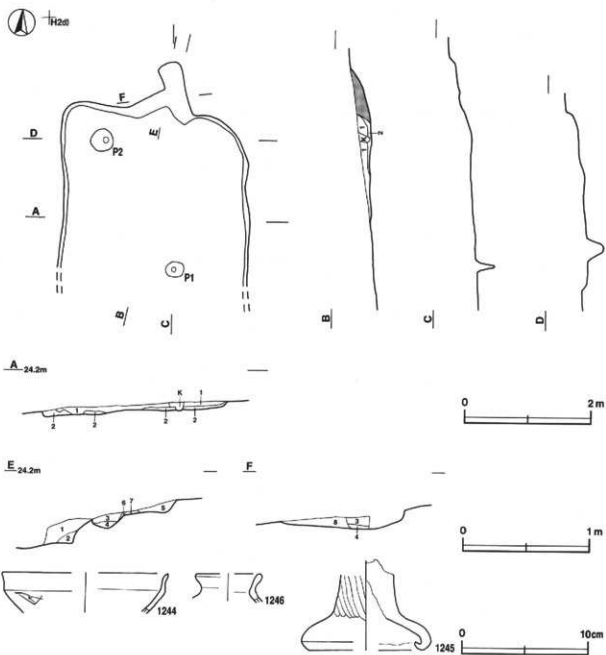
床 ほぼ平坦で、床面は粘土面まで掘り込まれ、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部は捲乱を受けおり、竈の遺存状態は不良で、壁外へ88cmほど掘り込みがあり、その部分に焼土ブロックや粘土ブロックなどの広がりを確認できたので、北壁の中央部に竈が付設されていたが、竈材の残存が少ないことなどから、住居の廃絶時に破壊された後、後世の掘削により、完全に破壊されたと考えられる。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 黒色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 粘土粒子少許、炭化粒子微量 |
| 4 黒色 焼土粒子・炭化物微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |

ピット 2か所。主柱穴はP2で、深さ20cmで、コーナー寄りに位置している。P1は深さ28cmで中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第329図 第159号住居跡・出土遺物実測図

覆土 2層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

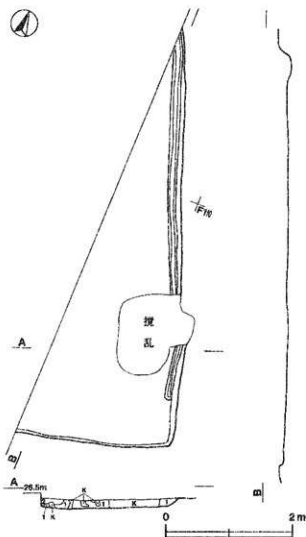
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック中量、白色粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片73点（坏23・高坏3・甕45・ミニチュア土器2）、須恵器片1点（甕）が出土している。これらの遺物は南部の覆土中から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片6点が出土している。出土状況から本跡に伴う遺物はない。

所見 出土土器が多くの時期にわたるものなので、時期判断は困難である。

第159号住居跡出土遺物観察表 (第329図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1214	土師器	環	13.0	(3.2)	-	長石・赤色粒子	黄灰	普通	1段部内面ナデ。	覆土中	5%
1245	土師器	高杯か	-	(5.9)	[9.0]	長石・赤色粒子	黄灰	普通	胴部内面ナデ。	覆土中	30% 二次焼成、やや粗小
1246	土師器	土師付	5.0	(2.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	1段部両面ナデ。	覆土中	10%



第330図 第164号住居跡尖洞図

第164号住居跡 (第330図)

位置 調査区中央部西寄りのF1E9区に位置し、平坦部に立地している。西部は調査区域外へ伸びている。

規模と形状 西部が調査区域外へ伸びているため、確認できたのは長軸5.90m、短軸2.30mで、形状は方形または長方形と推測され、主軸はN-20°-Wであり、壁高は8~14cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで北東壁の壁下の一部で検出されている。

覆土 2層からなる。各層ともロームブロックが平均的に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 所 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(環5・甕8)が出上している。これらの遺物は覆土中から出上している。このほかには、混入した縄文土器片39点、剥片1点が出上している。出土器はすべてが体部の細片である。

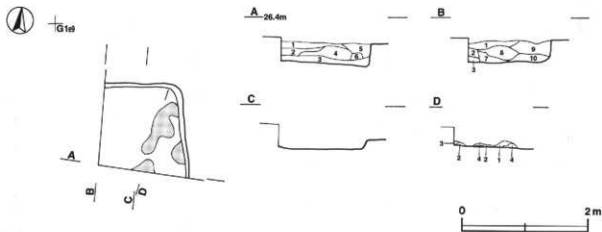
所見 本跡の時期は、出土土器が体部でかつ細片のため、時期判断は困難である。

第187号住居跡 (第331図)

位置 調査区南西部のG1e9区に位置し、北西から南東への斜面部に立地している。西・南部が調査区域外へ伸びている。

規模と形状 北西から南東への斜面部に立地し、西・南部が調査区域外へ伸びているため、確認できたのは長軸1.40m、短軸1.30mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸はN-0°であり、壁高は14~32cmでは直立する。

床 ほほ平坦で、踏み固められている。北西コーナー付近の床面で焼土塊が検出されている。



第331図 第187号住居跡実測図

焼土境土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 10層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | 10 極暗褐色 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片17点(坏2・甕15)、縄文土器片3点が出土している。これらの遺物はすべて覆土下層から出土し、すべて細片のため、図示できない。

所見 本跡の時期は、出土土器が少なく、細片のため時期は不明である。

第198号住居跡(第332図)

位置 調査区南部のH 2 b 8 区に位置し、台地縁辺部で北から南への斜面部に立地している。

重複関係 北壁が第203号住居跡を掘り込み、西壁を第197号住居跡、中央部を第462号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 第197号住居跡に掘り込まれているので、確認できたのは長軸3.92m、短軸3.00mで、形状は長方形と推測され、主軸はN-5°-Eであり、壁高は54cmで外傾して立ち上がる。

床 ほは平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 3か所。主柱穴はP1-3で、深さは36-44cmで、各コーナー寄りに位置している。

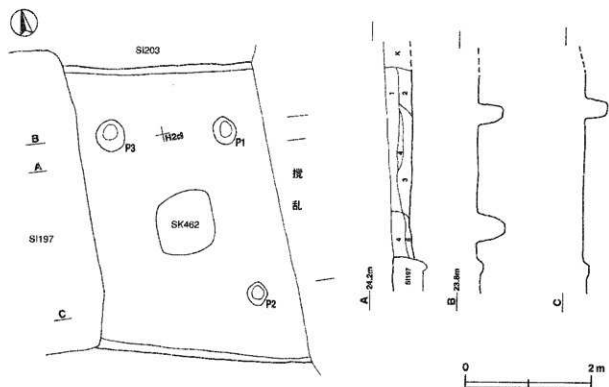
覆土 5層からなる。北から南へ流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片100点(坏42・甕58)、須恵器片10点(坏6・甕4)、縄文土器片538点、礫11点が出土している。これらの遺物は中央部及びその東寄りの覆土中層から下層にかけて多く出土している。出土土器はすべて細片であるため、図示できるものはない。

所見 出土土器はすべてが細片で、時期判断は困難であるが、第197号住居跡に掘り込まれていることから、7



第332図 第198号住居跡実測図

世紀前葉以前と考えられる。炉は半柱穴の配置から、中央部と考えられるが、焼土の広がりも確認されていないことから、第462号土坑に掘り込まれた部分と考えられる。

第203号住居跡（第333図）

位置 調査区南部のD2 a8区に位置し、北から南への斜面部に立地している。

重複関係 南壁を第198号住居跡、西部を第202号住居跡、南西部を第197・204号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 南西部が第197号住居跡に掘り込まれているため、確認できたのは長軸4.67m、短軸4.50mで、形状は方形または長方形と推測でき、主軸は $N-6^{\circ}-E$ であり、壁高は32cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

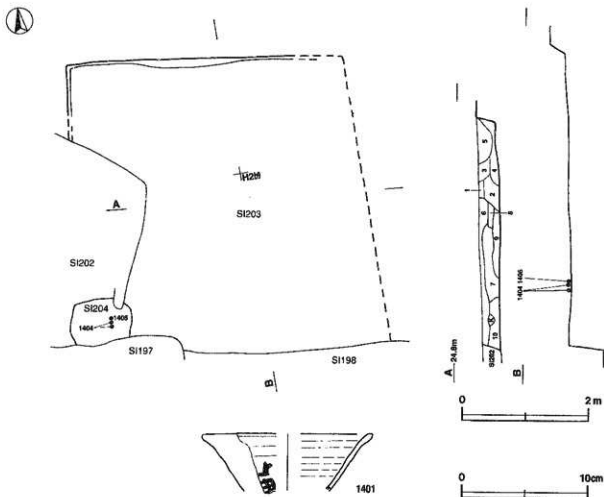
覆土 10層からなる。ブロック状の人為堆積を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片176点（坏55・高台付坏2・甕1・甕118）、須恵器片44点（坏10・甕1・甕33）、灰胎陶器片1点（甕）、土製品1点（支脚）、礫4点が出土している。これらの遺物は北部の覆土下層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片185点、弥生土器片1点、剥片2点が出土している。

所見 本跡が人為堆積の状況を示し、床面から土師器片と縄文土器片がともに出土していることやすべて細片のため時期の判断は困難であるが、平安時代の第202号住居跡に掘り込まれていることから、それ以前と考えられる。



第333図 第203・204号住居跡・出土遺物実測図

第203号住居跡出土遺物観察表（第333図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1401	須恵器	環	[13.4]	(4.6)	—	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部両面クロコナテ	覆土中	20% 須恵器 層1層 下出

第204号住居跡（第333・334図）

位置 調査区の南部のH 2 a 8 区に位置し、北から南への斜面部に立地している。

重複関係 北西部を第202号住居跡、南部を第197号住居跡、北東部を第203号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

確認状況 第197号住居跡の北部に位置し、第202号住居跡の東壁中央部に、長径92cm、短径72cmの隅丸方形の焼けた石が確認された。その周辺には土師器破片が集中的に出土したが、住居の規模と形状などを確認することはできなかった。

覆土 2層からなる。北から南へ流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片15点（環5・高台付環3・甕7）、土製品3点（不明）、石器1点（砥石）、礎22点が出土している。図示した土器は焼土集中部分から出土している。